

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患政策研究事業

アミロイドーシスに関する調査研究

令和元年度 総括研究報告書

研究代表者 内木 宏 延

令和2(2020)年5月

目次

[] 総括研究報告

アミロイドーシスに関する調査研究	1
研究代表者 内木宏延	

[] 研究成果の刊行に関する一覧表

書籍	29
雑誌	33

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
アミロイドーシスに関する調査研究班 総括研究報告書

アミロイドーシスに関する調査研究

研究代表者 内木 宏延 福井大学学術研究院医学系部門 分子病理学分野 教授

研究要旨 われわれは平成 29～令和元年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を始めとするアミロイドーシスの総合的診断体制構築、(2) 同診断体制による診断件数、診断確定率、各病型症例数の集計・公表、(3) 診療ガイドライン、診断基準、重症度分類の妥当性・実用性検証と改定、(4) AMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究の実施とデータを用いた疫学研究等の実施、(5) 各病型患者のケアマニュアル作成、(6) 専門医対象の臓器別アミロイドーシス診療の手引作成、(7) 患者向け公開講座等アミロイドーシスの啓発活動実施、の 7 項目を目指した。

今年度の成果を上記目的の番号と対応させて記す。(1) 昨年度に引き続き、研究班ホームページでコンサルテーションを受け付けると共に、各施設でも従来通り個別に受け付けることにより、総合的診断体制を運用した。(2) 2018 年 4 月 1 日～2019 年 11 月 30 日の診断件数、診断確定率、各病型症例数を集計した。また、同期間の心筋生検コンサルテーション件数、コンゴレッド陽性件数、トランスサイレチン陽性件数も集計した。(3) 全身性アミロイドーシス各病型診断基準案を作成し、関連学会の承認を得た後、2020 年 3 月 13 日、研究班ホームページ上に公開した。上記診断基準に基づき、2 種類の診療ガイドラインを作成した。第一に、厚労科研「難治性腎障害に関する調査研究」班と合同で、腎アミロイドーシス診療ガイドライン案を作成した。第二に、日本循環器学会「心アミロイドーシス診療ガイドライン」班に協力し、2020 年 3 月、同ガイドラインの日本語・英語版を出版した。(4) 2019 年 11 月 21 日、京都大学医の倫理審査委員会により「オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 第 3.0 版」の承認を得た。この承認は、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するピンダケル投与症例の全例登録を日本循環器学会と共同で実施するためであり、2020 年 4 月 1 日より本格運用を開始した。(5) ファイザー製薬の協力を得て、FAP 患者ケアマニュアルを作成した。(6) 腎アミロイドーシス診療ガイドライン案を作成すると共に、日本循環器学会に協力し、心アミロイドーシス診療ガイドラインを出版した。(7) 熊本大学神経内科が中心となり、熊本にて「道しるべの会」(FAP 家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会)総会・講演会(7 月 15 日、患者、家族 28 名を含む総数 47 名参加) 30 周年記念交流会(11 月 30 日～12 月 1 日、患者、家族 32 名を含む総数 67 名参加)を開催した。

研究分担者	座 教授
安東由喜雄 長崎国際大学薬学部アミロイドーシス病態解析学分野 教授	重松 隆 和歌山県立医科大学医学部腎臓内科学講座 教授
山田正仁 金沢大学医薬保健研究域医学系脳老化・神経病態学(脳神経内科学)教授	奥田恭章 道後温泉病院内科 院長
玉岡 晃 筑波大学医学医療系大学院人間総合科学研究科疾患制御医学専攻神経内科学分野 教授	西 慎一 神戸大学大学院医学研究科内科学講座腎臓・免疫内科学分野腎臓内科学部門 教授
高市憲明 虎の門病院腎センター 副院長	畑 裕之 熊本大学大学院生命科学研究部先端生命医療科学部門医療技術科学講座生体情報解析学 教授
山田俊幸 自治医科大学医学部臨床検査医学講	小池春樹 名古屋大学大学院医学系研究科総合

	医学専攻脳神経病態制御学講座神経内科学 准教授
島崎千尋	独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター血液内科 院長
飯田真介	名古屋市立大学大学院医学研究科生体総合医療学講座血液・腫瘍内科分野 教授
植田光晴	熊本大学病院脳神経内科 講師
大橋健一	横浜市立大学大学院医学研究科病態病理学講座/附属病院病理診断科病理部 教授
小野賢二郎	昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門 教授
関島良樹	信州大学医学部内科学第三教室（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科） 教授
佐野元昭	慶應義塾大学医学部循環器内科学教室 准教授
田原宣広	久留米大学医学部内科学講座心臓・血管内科/循環器病センター 准教授

A. 研究目的

われわれは平成 29～令和元年度に及ぶ本研究計画で、(1) 病理コンサルテーション体制を始めとするアミロイドーシスの総合的診断体制構築（平成 31 年 3 月までに）、(2) 同診断体制による診断件数、診断確定率、各病型症例数の集計・公表（令和 2 年 3 月までに）、(3) 診療ガイドライン、診断基準、重症度分類の妥当性・実用性検証と改定（令和 2 年 3 月までに）、(4) AMED 難病プラットフォームによるレジストリ研究の実施とデータを用いた疫学研究等の実施（令和 2 年 3 月までに）、(5) 各病型患者のケアマニュアル作成（令和 2 年 3 月までに）、(6) 専門医対象の臓器別アミロイドーシス診療の手引作成（令和 2 年 3 月までに）、(7) 患者向け公開講座等アミロイドーシスの啓発活動実施（令和 2 年 3 月までに）の 7 項目を目指した。

本研究計画は、「難病の患者に対する医療等に関する法律」（難病法）の求める以下の課題を直接解決するものであり、厚生労働行政の施策に直

接活用できる成果を期待できると考える。(a) 病理コンサルテーション体制を始めとするアミロイドーシスの総合的診断体制の構築により、正確な早期診断や、適切な施設での各病型に応じた最新の診療が可能になる。(b) 信頼性の高いオールジャパンの診断体制を基盤としたレジストリ構築により、全国的にバランスの取れた、特定の地域に偏らないコホート研究が可能となり、レジストリ研究の優れたモデルとなることが期待される。(c) アミロイドーシス診断基準・重症度分類・診療ガイドラインの改訂作業により、アミロイドーシス医療の水準向上（均てん化）に資すると共に、新規に発症するアミロイドーシス患者の実態を把握できる。(d) 関連学会との連携体制を構築し、アミロイドーシスの疾患概念、早期診断、および最新の治療に関し、関連学会や非専門医、患者、一般国民への普及・啓発を推進できる。(e) アミロイドーシス患者ケアマニュアルの作成等により、患者の療養生活環境整備や QOL 向上に資する事ができる。(f) 指定難病データベースの構築に向けたデータを提供できる。

B. 研究方法

【項目番号は研究の目的に対応】(1)～(6)の各項目は、第 1 回研究班会議（2019 年 8 月 30 日、東京）、第 2 回研究班会議（2020 年 1 月 31 日、東京）および各 WG で随時開催するメール会議で議論・決定した。(7)は研究分担者の安東、植田（いずれも熊本大学）を中心に実施した。

（倫理面への配慮）

(1)に関し、個人情報保護には細心の注意を払った。また、オプトアウトにより対象患者に研究不参加の機会を与えた。福井大学医学系研究倫理審査委員会で「病理検体のアミロイドーシス病型診断コンサルテーション体制の構築」の受審・承認を得た（平成 29 年 12 月 15 日）。これを基に病理 WG 各施設で順次倫理審査を受審し承認を得た。本コンサルテーション体制の精度管理を行うため、われわれは診断総数及び各病型症例数（免疫染色で確定できずプロテオーム解析を実施した症例を含む）のみ集計した。このためコンサルテーション依頼施設での倫理審査は要求しなかつ

た。(4)に関し、京都大学医の倫理審査委員会に中央倫理審査を申請した。

C. 研究結果

【項目番号は研究の目的に対応】(1) 昨年度に引き続き、研究班ホームページでコンサルテーションを受け付けると共に、各施設でも従来通り個別に受け付けることにより、総合的診断体制を運用した。

(2) 2018年4月1日～2019年11月30日の診断件数、診断確定率、各病型症例数を集計した。20か月で1111件のコンサルテーションを受け付けた。コンゴレッド陽性件数977件のうち、免疫染色による診断確定件数は931件(95.3%)、プロテオーム解析による診断確定件数31件と合わせ、962件の病型を確定することができた(577件/年)。

また、同期間の心筋生検コンサルテーション件数、コンゴレッド陽性件数、トランスサイレチン陽性件数も集計した。2019年3月29日、厚労省はタファミジス(ビンダケル、ファイザー)のATTR心アミロイドーシスへの適応拡大を承認した。同時に発表した患者要件で生検を必須としたため、2019年4月以降、心筋生検症例のコンサルテーション件数が著しく増加した。2018年4月より2019年11月の20か月で、合計421件の心筋生検症例のコンサルテーションを受け付けた。その内ATTR心アミロイドーシス症例は259件であった。

(3) 全身性アミロイドーシス各病型診断基準案を作成し、日本循環器学会、日本神経学会、日本血液学会、日本腎臓学会、日本アミロイドーシス学会の承認を得た後、2020年3月13日、研究班ホームページ上に公開した。上記診断基準に基づき、2種類の診療ガイドラインを作成した。第一に、腎アミロイドーシスWGを中心に、厚労科研「難治性腎障害に関する調査研究」班(成田一衛班長)のネフローゼ症候群WG(猪坂善隆WG長)と合同で、腎アミロイドーシス診療ガイドライン案を作成した。今後日本腎臓学会に承認を申請する予定である。第二に、日本循環器学会「心アミロイドーシス診療ガイドライン」班(北岡裕章班長)が発足し、本研究班からも6名が参加した。2020年3月、日本語・英語版を出版した。また、本ガ

イドラインと密接に関連する「トランスサイレチン型心アミロイドーシス症例に対するビンダケル適性投与のための施設要件、医師要件に関するステートメント(日本循環器学会平成31年3月30日発表)」を、日本循環器学会と合同で英文発表した。なお、重症度分類の改定は厚労省の指導により見送った。

(4) 2019年11月21日、京都大学医の倫理審査委員会により「オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 Japan Cohort Study of Systemic Amyloidosis (J-COSSA)第3.0版」の承認を得た。第1.0版の承認は5月29日に得ていたが、「トランスサイレチン型心アミロイドーシス症例に対するビンダケル適性投与のための施設要件、医師要件に関するステートメント(日本循環器学会平成31年3月30日発表)」の医師要件に記された投与症例の全例登録を日本循環器学会と共同で実施することになり、再審査に時間を要した。2020年4月より本格運用を開始した。

(5) ファイザー製薬の協力を得て、FAP患者ケアマニュアルを作成した(監修 安東由喜雄, 柗中千恵子)。

(6) 厚労科研「難治性腎障害に関する調査研究」班(成田一衛班長)のネフローゼ症候群WG(猪坂善隆WG長)と合同で、腎アミロイドーシス診療ガイドライン案を作成した。また、日本循環器学会「心アミロイドーシス診療ガイドライン」班(北岡裕章班長)に協力し、心アミロイドーシス診療ガイドラインを出版した。

(7) 熊本大学神経内科(安東由喜雄名誉教授)が中心となり、熊本にて「道しるべの会」(FAP家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会)総会・講演会(7月15日、患者、家族28名を含む総数47名参加)、30周年記念交流会(11月30日～12月1日、患者、家族32名を含む総数67名参加)を開催した。

D. 考察【項目番号は研究の目的に対応】

(1) ロンドン大学医学部 Centre for Amyloidosis and Acute Phase Proteins を始め、国内外からアミロイドーシスのコンサルテーションを受け付ける referral centre は世界に数カ所存在するが、国内数カ所の施設でオリジナル抗体を共有し、ネットワ

ークを結んでコンサルテーションを受け付ける体制は、世界的に見ても類を見ない独創的取り組みである。

(2) 2012年の厚労省指定難病医療費助成新規受給者数が341人であることから、本邦のアミロイドーシス新規発症率は100万人あたり約2.7人と推定される。研究班のコンサルテーションで病型を確定できた962件(577件/年)の中には、難病に指定されていない全身性AA、A β 2Mアミロイドーシス、限局性ALアミロイドーシス等も含まれているため、コンサルテーション症例に含まれる正確な指定難病患者数は不明であるが、全国の新規患者を網羅した悉皆性の高いコンサルテーション体制であると判断できる。

研究班でコンサルテーションを受け付けた心筋生検症例の内、ATTR心アミロイドーシス症例は259件であった。2019年11月現在、タファミジスを投与されているATTR心アミロイドーシス患者数は約200人とされている(ファイザースタッフ私信)。われわれのコンサルテーションシステムはこれら患者の大部分を診断していると考えられ、全国の新規患者を網羅した悉皆性の高いコンサルテーションシステムであると言える。

(3) 現在アミロイドーシス各病型に対応する系統的な国際診断基準自体が無く、上記診断基準の策定は、日本国内はもとより、英文論文による発表などを通して国際的にも意義のある取り組みとなり得る。

(4) 今後「オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 Japan Cohort Study of Systemic Amyloidosis (J-COSSA)第3.0版」を基に、指定難病であるトランスサイレチン型心アミロイドーシス(全身性野生型トランスサイレチンアミロイドーシス)を中心に、悉皆性の高いコホート研究を実施する予定である。

(6) 腎アミロイドーシス診療ガイドライン案、心アミロイドーシス診療ガイドラインにより、わが国におけるアミロイドーシス診療の高度化、均てん化を推進できると考える。

E. 結論

昨年度に引き続き、総合的診断体制を運用した。

2018年4月1日～2019年11月30日の診断件数、診断確定率、各病型症例数を集計した。全身性アミロイドーシス各病型診断基準案を作成し、関連学会の承認を得た後、2020年3月13日、研究班ホームページ上に公開した。上記診断基準に基づき、腎アミロイドーシス診療ガイドライン案、および心アミロイドーシス診療ガイドラインを作成した。2019年11月21日、京都大学医の倫理審査委員会により「オールジャパンで行う全身性アミロイドーシスコホート研究 第3.0版」の承認を得、日本循環器学会と共同で、トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル投与症例の全例登録を2020年4月1日より開始した。ファイザー製薬の協力を得て、FAP患者ケアマニュアルを作成した。熊本大学神経内科が中心となり、熊本にて「道しるべの会」(FAP 家族性アミロイドポリニューロパチー患者・家族会)総会・講演会、30周年記念交流会を開催した。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

内木宏延

1) Naiki H, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hoshii Y, Shimoda M, Ando Y. Human amyloidosis, still intractable but becoming curable: the essential role of pathological diagnosis in the selection of type-specific therapeutics. *Pathol Int* 2020; published in Early View on 21 January, 2020 DOI:10.1111/pin.12902.

2) Muta H, So M, Sakurai K, Kardos J, Naiki H, Goto Y. Amyloid formation under complicated conditions in which β_2 -microglobulin coexists with its proteolytic fragments. *Biochemistry* 58(49): 4925-4934, 2019.

3) Noji M, Sasahara K, Yamaguchi K, So M, Sakurai K, Kardos J, Naiki H, Goto Y. Heating during agitation of β_2 -microglobulin reveals that supersaturation breakdown is required for amyloid fibril formation at neutral pH. *J Biol Chem* 294(43): 15826-15835, 2019.

4) Zhang C-M, Yamaguchi K, So M, Sasahara K, Ito T, Yamamoto S, Narita I, Kardos J, Naiki H, Goto, Y.

Possible mechanisms of polyphosphate-induced amyloid fibril formation of β 2-microglobulin. *Proc Natl Acad Sci U S A* 116(26): 12833-12838, 2019.

安東由喜雄

1) Nagase T, Iwaya K, Kogure K, Zako T, Misumi Y, Kikuchi M, Matsumoto K, Noritake M, Kawachi Y, Kobayashi M, Ando Y, Katsura Y. Expert consensus recommendations to improve diagnosis of ATTR amyloidosis with polyneuropathy. *J Neurol*: 2020 in press.

2) Naiki H, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hoshii Y, Shimoda M, Ando Y. Human amyloidosis, still intractable but becoming curable: The essential role of pathological diagnosis in the selection of type-specific therapeutics. *Pathol Int*: ISSN:1440-1827, 2020.

3) Murakami T, Noguchi K, Hachiya N, Kametani F, Tasaki M, Nakaba S, Sassa Y, Yamashita T, Obayashi K, Ando Y, Hamamura M, Kanno T, Kawasaki K. Needle-shaped amyloid deposition in rat mammary gland: evidence of a novel amyloid fibril protein. *Amyloid* 27(1): 25-35, 2020.

4) Nagase T, Iwaya K, Kogure K, Zako T, Misumi Y, Kikuchi M, Matsumoto K, Noritake M, Kawachi Y, Kobayashi M, Ando Y, Katsura Y. Insulin-derived amyloidosis without a palpable mass at the insulin injection site: A report of two cases. *J Diabetes Investig*: ISSN:2040-1124, 2019.

5) Dorbala S, Ando Y, Bokhari S, Dispenzieri A, Falk RH, Ferrari VA, Fontana M, Gheysens O, Gillmore JD, Glaudemans AWJM, Hanna MA, Hazenberg BPC, Kristen AV, Kwong RY, Maurer MS, Merlini G, Miller EJ, Moon JC, Murthy VL, Quarta CC, Rapezzi C, Ruberg FL, Shah SJ., Slart RHJA., Verberne HJ., Bourque JM.

ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: Part 1 of 2-evidence base and standardized methods of imaging. *J Card Fail* 25: 1-39, 2019.

6) Sakai K, Ueda M, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M. Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan. *Eur J Neurol*

26: 1487-1493, 2019.

7) Dorbala S, Ando Y, Bokhari S, Dispenzieri A, Falk RH, Ferrari VA, Fontana M, Gheysens O, Gillmore JD, Glaudemans AWJM, Hanna MA, Hazenberg BPC, Kristen AV, Kwong RY, Maurer MS, Merlini G, Miller EJ, Moon JC, Murthy VL, Quarta CC, Rapezzi C, Ruberg F, Shah SJ, Slart RHJA, Verberne HJ, Bourque JM.

ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMMI expert consensus recommendations for multimodality imaging in cardiac amyloidosis: Part 2 of 2-diagnostic criteria and appropriate utilization. *J Card Fail* 25: 854-865, 2019.

8) Endo J, Sano M, Izumiya Y, Tsujita K, Nakamura K, Tahara N, Kuwahara K, Inomata T, Ueda M, Sekijima Y, Ando Y, Tsutsui H, Isobe M, Fukuda K. A Statement on the appropriate administration of tafamidis in patients with transthyretin Cardiac amyloidosis. *Circ J* 84: 15-17, 2019.

9) Yamashita T, Ueda M, Nomura T, Okazaki T, Okada M, Tsuda Y, Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Takamatsu K, Obayashi K, Inomata Y, Hibi T, Ando Y. Natural history and long-term effects of variant protein reduction in non-V30M ATTR amyloidosis. *Neurology* 93: 714-716, 2019.

10) Misumi Y, Ueda M, Masuda T, Tsuda Y, Nomura T, Okada M, Inoue Y, Tasaki M, Obayashi K, Yamashita T, Ando Y. Characteristics of acquired transthyretin amyloidosis: A case series and review of the literature. *Neurology* 93: 1587-1596, 2019.

11) Ochi Y, Kubo T, Nakashima Y, Baba Y, Hirota T, Yamasaki N, Yamashita T, Ueda M, Ando Y, Kitaoka H. Integrated diagnostic approach to wild-type transthyretin cardiac amyloidosis with the use of high-sensitivity cardiac troponin T measurement and ^{99m}Tc-pyrophosphate scintigraphy. *J Cardiol* 75: 12-19, 2019.

12) Inoue Y, Ueda M, Masuda T, Misumi Y, Yamashita T, Ando Y. Memantine, a Noncompetitive N-Methyl-D-Aspartate Receptor Antagonist, Attenuates. *Mol Neurobiol* 56: 8573-8588, 2019.

13) Marume K, Takashio S, Nishi M, Hirakawa K, Yamamoto M, Hanatani S, Oda S, Utsunomiya D,

- Shiraishi S, Ueda M, Yamashita T, Sakamoto K, Yamamoto E, Kaikita K, Izumiya Y, Yamashita Y, Ando Y, Tsujita K. Combination of commonly examined parameters is a useful predictor of positive ^{99m}Tc-labeled pyrophosphate scintigraphy findings in elderly patients with suspected transthyretin cardiac amyloidosis. *Circ J* 83: 1698-1708, 2019.
- 14) Tasaki M, Milani P, Foli A, Verga L, Obici L, Basset M, Bozzola M, Ferraro G, Nuvolone M, Morbini P, Capello G, Ueda M, Obayashi K, Paulli M, Ando Y, Merlini G, Palladini G, Lavatelli F. Simple, reliable detection of amyloid in fat aspirates using the fluorescent dye FSB: prospective study in 206 patients. *Blood* 134: 320-323, 2019.
- 15) Ueda M, Okada M, Mizuguchi M, Kluge-Beckerman B, Kanenawa K, Isoguchi A, Misumi Y, Tasaki M, Ueda A, Kanai A, Sasaki R, Masuda T, Inoue Y, Nomura T, Shinriki S, Shuto T, Kai H, Yamashita T, Matsui H, Benson MD, Ando Y. A cell-based high-throughput screening method to directly examine transthyretin amyloid fibril formation at neutral pH. *J Biol. Chem* 294: 11259-11275, 2019.
- 16) Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Masuda T, Ando Y. Reader response: Natural history and survival in stage 1 Val30Met transthyretin familial amyloid polyneuropathy. *Neurology* 93: 228-229, 2019.
- 17) Iwaya K, Zako T, Fukunaga J, Sörgjerd KM, Ogata K, Kogure K, Kosano H, Noritake M, Maeda M, Ando Y, Katsura Y, Nagase T. Toxicity of insulin-derived amyloidosis: a case report. *BMC Endocr Disord* 19: 1-6, 2019.
- 18) Nakase T, Yamashita T, Matsuo Y, Nomura T, Sasada K, Masuda T, Misumi Y, Takamatsu K, Oda S, Furukawa Y, Obayashi K, Matsui H, Ando Y, Ueda M. Hereditary ATTR amyloidosis with cardiomyopathy caused by the novel variant transthyretin Y114S (p.Y134S). *Intern Med* 58: 2695-2698, 2019.
- 19) Sekijima Y, Ueda M, Koike H, Misawa S, Ishii T, Ando Y. Correction to: Diagnosis and management of transthyretin familial amyloid polyneuropathy in Japan: red-flag symptom clusters and treatment algorithm. *Orphanet J Rare Dis* 14, 111, 2019.
- 20) Nomura T, Ueda M, Saki M, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Tsuda Y, Okada M, Okazaki T, Kanenawa K, Isoguchi A, Nakamura M, Obayashi K, Shinriki S, Matsui H, Yamashita T, Ando Y. New simple and quick method to analyze serum variant transthyretins: direct MALDI method for the screening of hereditary transthyretin amyloidosis. *Orphanet J Rare Dis* 14: 116, 2019.
- 21) Hayashi Y, Higashi T, Motoyama K, Jono H, Ando Y, Onodera R, Arima H. Hepatocyte-targeted delivery of siRNA polyplex with PEG-modified lactosylated dendrimer/cyclodextrin conjugates for transthyretin-related amyloidosis therapy. *Biol Pharm Bull* 42: 1679-1688, 2019.
- 22) Hiroi T, Mushino T, Tanaka K, Furuya Y, Hori Y, Oiwa T, Kobata H, Yamashita Y, Hosoi H, Murata S, Nishikawa A, Tamura S, Takeuchi S, Nohgawa M, Yamashita T, Ando Y, Hata H, Sonoki T. AL amyloidosis diagnosed using anti-IGLL5 antibody: a case report. *Amyloid* 26: 111-112, 2019.
- 23) Yamashita T, Ohnishi K, Ueda M, Masuda T, Inoue Y, Misumi Y, Ueda A, Obayashi K, Takeya M, Ando Y. Transthyretin amyloid-related cerebral angiitis after liver transplantation. *Amyloid* 26: 11-12, 2019.
- 24) Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y. Nationwide survey of 199 patients with reactive amyloid a amyloidosis in Japan. *Amyloid* 26: 129, 2019.
- 25) Yamashita T, Ueda M, Misawa S, Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Takamatsu K, Obayashi K, Kuwabara S, Ando Y. Changes in nerve excitability indices in hereditary transthyretin amyloidosis. *Amyloid* 26: 9-10, 2019.
- 11) Yamaguchi I, Kokubo Y, Yamashita T, Ueda M, Okoshi T, Matsumine A, Ando Y, Naiki H. Class I small leucine-rich proteoglycans (SLRPs) colocalise with the Aβ2M amyloid deposits: implications for the roles of SLRP core proteins in the pathogenesis of dialysis-related amyloidosis. *Amyloid* 26: 140-141, 2019.
- 27) Kanenawa K, Ueda M, Isoguchi A, Nomura T, Tsuda Y, Masuda T, Misumi Y, Yamashita T, Ando Y. Histopathological and biochemical analyses of prostate.

- Amyloid* 26: 160-161, 2019.
- 28) Ado Y, Ueda M, Jono H. Introduction. *Amyloid* 26: 1-3, 2019.
- 29) Obayashi K, Masuda T, Tasaki M, Ando Y, Ueda M. Evaluation of myoelectrical activities of descending colon by electrointestinalogram in patients with ATTRm amyloidosis. *Amyloid* 26: 66, 2019.
- 30) Obayashi K, Masuda T, Tasaki M, Ando Y, Ueda M. Serum diacron-reactive oxygen metabolites (d-ROMs) and biological antioxidant potential (BAP) in patients with ATTR-PN. *Amyloid* 26: 65, 2019.
- 31) Nagase T, Iwaya K, Zako T, Odaka T, Kogure K, Nemoto Y, Misumi Y, Noritake M, Ando Y, Katsura Y. Clinical and MRI characteristics and follow-up studies of insulin-derived amyloidosis. *Amyloid* 26: 156-157, 2019.
- 32) Oda S, Nakaura T, Utsunomiya D, Hirakawa K, Takashio S, Izumiya Y, Tsujita K, Kawano Y, Okuno Y, Hata H, Matsuoka M, Yamashita T, Ueda M, Ando Y, Yamashita Y. Clinical potential of dual-energy cardiac CT in cardiac amyloidosis. *Amyloid* 26: 91-92, 2019.
- 33) Masuda T, Ueda M, Misumi Y, Nomura T, Inoue Y, Isoguchi A, Kanenawa K, Tasaki M, Yamashita T, Sonoda Y, Obayashi K, Ando Y. Reduced intraepidermal nerve fibre density in patients with hereditary transthyretin amyloidosis. *Amyloid* 26: 79-80, 2019.
- 34) Ishii T, Sekijima Y, Ando Y. Patient profile with ATTR-FAP and evaluation of the safety and efficacy of tafamidis meglumine in Japan - interim analysis in post-marketing surveillance. *Amyloid* 26: 45-46, 2019.
- 35) Inoue M, Ueda M, Higashi T, Anno T, Fujisawa K, Motoyama K, Mizuguchi M, Ando Y, Jono H, Arima H. Therapeutic potential of polyamidoamine dendrimer for amyloidogenic transthyretin Amyloidosis. *ACS Chem Neurosci* 10: 2584-2590, 2019.
- 36) Tasaki M, Ueda M, Hoshii Y, Mizukami M, Matsumoto S, Nakamura M, Yamashita T, Ueda A, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Torikai T, Nomura T, Tsuda Y, Kanenawa K, Isoguchi A, Okada M, Matsui H, Obayashi K, Ando Y. A novel age-related venous amyloidosis derived from EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1. *J Pathol* 427: 444-455, 2019.
- 37) 安東 由喜雄. 神経系のアミロイドーシスの最新の知見. *医学のあゆみ* 272: 546-547, 2020.
- 38) 一木 裕子, 安東 由喜雄. 神経アミロイドーシス治療のめざましい進歩. *難病と在宅ケア* 25: 53-58, 2020.
- 39) 山下 太郎, 植田 光晴, 安東 由喜雄
【U40 世代が描く心不全診療の現状と未来-基礎研究を識り,臨床を素心深考する】心筋症 基礎編 心アミロイドーシス 治療の奏効する患者群は予測できますか? 基礎研究の見地からみた心アミロイドーシスの病態と治療. *循環器ジャーナル*, 68, 88-93, 2020.
- 40) 安東 由喜雄, 松下 博昭, 植田 光晴. 神経系のアミロイドーシス ここまで進歩した治療と病態研究. *日本内科学会雑誌* 108, 1873-1882, 2019.
- 41) 増田 曜章, 植田 光晴, 安東 由喜雄. 検査からみる神経疾患 SUDOSCAN. *Clinical Neuroscience* 37: 1532-1533, 2019.
- 42) 増田 曜章, 植田 光晴, 大林 光念, 安東 由喜雄. 遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスの早期診断に有用な皮神経脱落の解析. *ジャーナル フリー* 56: 264-268, 2019.
- 43) 安東 由喜雄. むかしの頭で診ていませんか? 神経診療スッキリまとめました. *臨床雑誌内科* 124: 2330-2330, 2019.
- 44) 山下 太郎, 植田 光晴, 安東 由喜雄
脳神経と肝臓のクロストーク 遺伝性 ATTR 型脳アミロイド血管症と肝移植. *臨床神経学* 59: 126, 2019.
- 45) 安東 由喜雄, 田崎 雅義. オミックス検査学における質量分析の役割-現状と展望 各種質量分析装置の特徴を活かした多角的なアミロイドーシス診断. *臨床病理* 67: 32, 2019.
- 46) 安東 由喜雄. 【難治性ニューロパチーの新規治療】家族性アミロイドポリニューロパチー(遺伝性トランスサイレチン型アミロイドーシス)の新規治療の展望. *脳神経内科* 91: 208-216, 2019.
- 47) 井上 泰輝, 安東 由喜雄. 【指定難病ペディア 2019】個別の指定難病 代謝・内分泌系 全身性アミロイドーシス. *日本医師会雑誌* 148: 258-260, 2019.
- 48) 植田 光晴, 安東 由喜雄. 家族性アミロイド

ポリニューロパチー. ケアネット希少疾患ライブラリー:

(<https://www.carenet.com/report/library/general/rare/fap.html>) 2019.

49) 三隅 洋平, 安東 由喜雄. siRNA を用いた核酸医薬品の開発状況. *Medical Science Digest* 45: 17-20, 2019.

50) 三隅 洋平, 増田 曜章, 植田 光晴, 野村 隼也, 磯口 藍斗, 井上 泰輝, 岡田 匡充, 山下 太郎, 安東 由喜雄. 医原性 ATTR アミロイドーシスと遺伝性 ATTR アミロイドーシスの臨床像の比較検討. *臨床神経学* 59: 240, 2019.

51) 牧 美充, 野村 美和, 野口 悠, 池田 賢一, 渡邊 修, 増田 曜章, 安東 由喜雄, 高嶋 博. 髄膜アミロイドーシスの 2 症例. *臨床神経学*, 59, 286, 2019.

52) 増田 曜章, 植田 光晴, 三隅 洋平, 野村 隼也, 磯口 藍斗, 井上 泰輝, 田崎 雅義, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄. 遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスにおける体幹部神経障害の病態解析. *臨床神経学* 59: 313, 2019.

53) 山下 太郎, 植田 光晴, 野村 隼也, 岡崎 孝広, 岡田 匡充, 磯口 藍斗, 田崎 雅義, 津田 幸元, 井上 泰輝, 増田 曜章, 高松 孝太郎, 三隅 洋平, 大林 光念, 安東 由喜雄. 野生型 ATTR アミロイドーシスにおける診断のための生検部位の検討. *臨床神経学* 59: 313, 2019.

54) 野村 隼也, 三隅 洋平, 田崎 雅義, 増田 曜章, 植田 光晴, 山下 太郎, 安東 由喜雄. 遺伝性 ATTR アミロイドーシスにおける血管障害の解析. *臨床神経学* 59: 314, 2019.

55) 田崎 雅義, 植田 光晴, 大林 光念, 安東 由喜雄. EFEMP1 アミロイドの沈着頻度および至適病理学的診断法の検討. *臨床病理* 67: 286, 2019.

56) 城野 博史, 田崎 雅義, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄. 臨床志向型プロテオーム研究の実践 アミロイドーシス病型診断におけるプロテオーム解析の実践. *電気泳動* 63: 117, 2019.

57) 田崎 雅義, 大林 光念, 安東 由喜雄. 臨床志向型プロテオーム研究の実践 未知のアミロイド原因蛋白質も同定できる新たな質量分析診断法. *電気泳動* 63: 118, 2019.

58) 喜多 也寸志, 伊達 紫, 中里 雅光, 山下 太

郎, 安東 由喜雄, 吉田 幸司, 寺澤 英夫, 清水 洋孝, 上原 敏志. Val107ATTR 変異を認めた FAP 兄弟例. *臨床神経学* 59: 674, 2019.

59) 田崎 雅義, 植田 光晴, 星井 嘉信, 磯口 藍斗, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄. 質量分析装置を用いた新規アミロイド原因蛋白質. EFEMP1 の同定. *臨床化学* 48: 230, 2019.

60) 田崎 雅義, 植田 光晴, 星井 嘉信, 磯口 藍斗, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄. 質量分析装置を用いた新規アミロイド原因蛋白質. EFEMP1 の同定. *臨床化学* 48: 285, 2019.

61) 磯口 藍斗, 田崎 雅義, 植田 光晴, 星井 嘉信, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄. EFEMP1 のアミロイド線維形成能および本アミロイドの静脈細胞に与える影響. *臨床化学* 48: 86, 2019.

62) 井上 泰輝, 植田 光晴, 増田 曜章, 三隅 洋平, 山下 太郎, 安東 由喜雄. メマンチン塩酸塩はインスリン分解酵素の発現上昇を介し脳アミロイドアングリオパチーを抑制する. *神経治療学* 36: 238, 2019.

63) 柊中 智恵子, 山下 太郎, 安東 由喜雄. 遺伝性 ATTR アミロイドーシス国際交流会企画・運営の評価. *日本遺伝看護学会誌* 18: 44, 2019.

64) 津田 幸元, 向野 晃弘, 村上 慶高, 増田 曜章, 中原 圭一, 中根 俊成, 安東 由喜雄. ジストニア肢位に Muscle Afferent Block(MAB)が有効であった DRPLA の一例. *臨床神経学* 59: 552, 2019.

65) 城野 博史, 田崎 雅義, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄. 臨床志向型プロテオーム研究の実践 アミロイドーシス病型診断におけるプロテオーム解析の実践. *電気泳動* 63: 117, 2019.

66) 増田 曜章, 植田 光晴, 永利 知佳子, 三隅 洋平, 井上 泰輝, 野村 隼也, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄. トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチーの早期診断における瞳孔機能解析の有用性. *自律神経* 56: Page xxxvi, 2019.

67) 武久 康, 野田 和代, 西村 広健, 山下 太郎, 安東 由喜雄. 末梢神経障害をきたした AL アミロイドーシスの 70 歳女性. *臨床神経学* 59: 390, 2019.

68) 西 慎一, 藤井 秀毅, 島崎 千尋, 植田 光晴,

安東 由喜雄, 内木 宏延. AL アミロイドーシス症例の心エコー所見と腎機能・高血圧との関連. *日本腎臓学会誌* 61: 370, 2019.

69) 三隅 洋平, 安東 由喜雄. 心筋疾患 心アミロイドーシス. *医学のあゆみ* 268: 737-742, 2019.

山田正仁

1) Hamaguchi, T, Komatsu J, Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Aoki S, Ikeuchi T, Yamada M. Cerebral hemorrhagic stroke associated with cerebral amyloid angiopathy in young adults about 3 decades after neurosurgeries in their infancy. *J Neurol Sci* 399: 3-5, 2019.

2) Sakai K, Ueda M, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M. Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan. *Eur J Neurol* 26: 1487-1493, 2019.

3) Yamada M, Hamaguchi T, Sakai K. Acquired cerebral amyloid angiopathy: an emerging concept. *Prog Mol Biol Transl Sci* 168: 85-95, 2019.

玉岡 晃

1) Nishizawa M, Onodera O, Hirakawa A, Shimizu Y, Yamada M; Rovatirolin Study Group. Effect of rovatirelin in patients with cerebellar ataxia: two randomised double-blind placebo-controlled phase 3 trials. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 10: 1136, 2020.

2) Tamaoka A. Current Clinical Trials in the Treatment of Alzheimer's Disease. *Brain and nerve = Shinkei kenkyu no shinpo* 72(1): 23-34, 2020.

3) Aizawa S, Okada T, Keino-Masu K, Doan TH, Koganezawa T, Akiyama M, Tamaoka A, Masu M. Abnormal pyramidal decussation and bilateral projection of the corticospinal tract axons in mice lacking the heparan sulfate endosulfatases, Sulf1 and Sulf2. *Front Mol Neurosci* 12: 333, 2020.

4) Shioya A, Takuma H, Takahashi T, Ishii A, Aoki M, Tamaoka A. Radiological findings in siblings with dysferlin mutation with diverse phenotype. *J Neurol Sci* 409: 116579, 2020.

5) Miyake Z, Tomidokoro Y, Nohara S, Tamaoka A. Chronic myelitis associated with zoster sine herpette: A case report. *Medicine* 98(32): E16671, 2019.

6) Ishii A, Nohara S, Yamamoto F, Tsuji H, Yatsuga S, Koga Y, Tamaoka A. Potentially confounding variables of mitochondria biomarker GDF-15. *Neuromuscul Disord* 29(S1): S56, 2019.

7) Ishii K, Yamamoto F, Homma S, Okada Y, Nakamichi K, Saijo M, Tamaoka A. Probable progressive multifocal leukoencephalopathy-immune reconstitution inflammatory syndrome with immunosuppressant dose reduction following lung transplantation: a case report and literature review. *BMC Neurology* 19(1): 263-269, 2019.

8) Hosoi T, Ishii K, Tozaka N, Kishida D, Sekijima Y, Tamaoka A. Familial Mediterranean Fever is Important in the Differential Diagnosis of Recurrent Aseptic Meningitis in Japan. *Intern Med* 59(1): 125-128, 2020.

9) 森山 哲也, 中馬越 清隆, 玉岡 晃. バセドウ病を合併し、抗 CCP 抗体が陽性であった無菌性髄膜炎. *日本医事新報* 4949: 10-11, 2019.

10) 森山 哲也, 山本 詞子, 石井 一弘, 玉岡 晃. 難渋症例から学ぶ診療のエッセンス「水頭症を呈したサルコイドーシス」. *日本維持新報* 4976: 10-11, 2019.

11) Nohara S, Ishii A, Yamamoto F, Yanagiha K, Moriyama T, Tozaka N, Miyake Z, Yatsuga S, Koga Y, Hosaka T, Terada M, Yamaguchi T, Aizawa S, Mamada N, Tsuji H, Tomidokoro Y, Nakamagoe K, Ishii K, Watanabe M, Tamaoka A. GDF-15, a mitochondrial disease biomarker, is associated with the severity of multiple sclerosis. *J Neurol Sci* 405: 116429, 2019.

12) Hosaka T, Nakamagoe K, Tozaka N, Aizawa S, Tamaoka A. Steroid pulse therapy of radiological disease activity without clinical relapse in CLIPPERS. *Neurol Sci* 41(3): 709-711, 2020.

13) 森山 哲也, 渡邊 雅彦, 玉岡 晃. パーキンソンニズムを呈した硬膜動静脈瘻. *日本医事新報* 4966: 8-10, 2019.

14) Taniguchi K, Yamamoto F, Arai T, Yang J, Sakai Y, Itoh M, Mamada N, Sekiguchi M, Yamada D, Saitoh A, Kametani F, Tamaoka A, Araki YM, Wada K, Mizusawa H, Araki W. Tyrosol Reduces Amyloid- β Oligomer Neurotoxicity and Alleviates Synaptic, Oxidative, and Cognitive Disturbances in Alzheimer's

- Disease Model Mice. *J Alzheimers Dis* 70(3): 937-952, 2019.
- 15) Sakai K, Ueda M, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M. Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan. *Eur J Neurol* 26(12): 1487-1493, 2019.
- 16) Hosaka T, Yamashita T, Tamaoka A, Kwak S. Extracellular RNAs as Biomarkers of Sporadic Amyotrophic Lateral Sclerosis and Other Neurodegenerative Diseases. *Int J Mol Sci* 20(13): E3148, 2019.
- 17) Tomono T, Hirai Y, Chono H, Mineno J, Ishii A, Onodera M, Tamaoka A, Okada T. Infectivity assessment of recombinant adeno-associated virus (rAAV) and wild-type AAV (wtAAV) exposed to various diluents and environmental conditions. *Hum Gene Ther Methods* 30(4): 137-143, 2019.
- 18) Shiraiishi H, Yamada K, Oki E, Ishige M, Fukao T, Hamada Y, Sakai N, Ochi F, Watanabe A, Kawakami S, Kuzume K, Watanabe K, Sameshima K, Nakamagoe K, Tamaoka A, Asahina N, Yokoshiki S, Miyakoshi T, Oba K, Isoe T, Hayashi H, Yamaguchi S, Sato N. Open-label clinical trial of bezafibrate treatment in patients with fatty acid oxidation disorders in Japan; 2nd report QOL survey. *Mol Genet Metab Rep* 20: 100496, 2019.
- 19) Shioya A, Mashiko R, Shiigai M, Nakai Y, Takahashi N, Kobayashi H, Irie H, Tamaoka A. Dural Sinus Thrombosis with Nonsymptomatic Persistent Falcine Sinus: A Case Report. *J Stroke Cerebrovasc Dis* 28(11): 104309, 2019.
- 20) Nohara S, Tsuji H, Tamaoka A. Alien leg phenomenon in corticobasal syndrome. *J Clin Neurosci* 64: 254-255, 2019.
- 21) 玉岡 晃. 脂質異常症. *Geriatric Medicine* 57(4): 335-338, 2019.
- 22) Nakamagoe K, Yamada S, Kawakami R, Koganezawa T, Tamaoka A. Abnormal Saccadic Intrusions with Alzheimer's Disease in Darkness. *Curr Alzheimer Res* 16(4): 293-301, 2019.
- 23) Miyake Z, Tomidokoro Y, Tsurubuchi T, Matsumura A, Sakamoto N, Noguchi M, Tamaoka A. Intravascular large B-cell lymphoma presenting with hearing loss and dizziness: A case report. *Medicine* 98(7): E14470, 2019.
- 24) 玉岡 晃. アルツハイマー病 - 臨床試験の現状と展望. *BRAIN and NERVE* 72(1): 23-34, 2020.
- 25) 玉岡 晃. 認知症の発症予防の現状. *MEDECAL REHABILITATION* 241: 1-5, 2019.
- 26) 寺田 真, 玉岡 晃. シヌクレインのプリオン様作用. *医学のあゆみ* 271(7): 668-670, 2019.
- 27) 玉岡 晃. 抗アミロイド 抗体療法の現況. *Neurodiem*, 2019.
- 28) 玉岡 晃. アルツハイマー病. *CLINICAL NEUROSCIENCE* 37(7): 851-853, 2019.
- 高市憲明
- 1) Toriu N, Sawa N, Hiramatsu R, Mizuno H, Ikuma D, Sekine A, Hayami N, Sumida K, Yamanouchi M, Hasegawa E, Hoshino J, Takaichi K, Wake A, Ohashi K, Fujii T, Ubara Y. Regression of renal amyloid deposits by VAD therapy plus autologous stem cell transplantation in a patient with primary AL amyloidosis. *CEN Case Reports* 9: 6-10, 2020.
- 2) Nishi S, Yamamoto S, Hoshino J, Takaichi K, Naiki H. The features of bone articular lesions in dialysis-related amyloidosis (DRA) and criteria for the clinical diagnosis of DRA. *Renal Replacement Therapy* 5(10): 1-8, 2019.
- 山田俊幸
- 1) Takase H, Tanaka M, Nakamura Y, Morita S, Yamada T, Mukai T. Effects of lipid composition on the structural properties of human serum amyloid A in reconstituted high-density lipoprotein particles. *Chem Phys Lipids* 221: 8-14, 2019.
- 2) Kotani K, Yamada S, Takahashi H, Iwazu Y, Yamada T. The ratio of oxidized lipoprotein(a) to native Lipoprotein(a) and the endothelial function in patients with type 2 diabetes mellitus. *Int J Mol Sci* 20(19), 2019.
- 3) 若松弘之, 築瀬直穂美, 日高裕介, 鯉淵晴美, 岩津好隆, 山本さやか, 谷口信行, 山田俊幸. 免疫固定電気泳動法システムでのIgA型M蛋白の軽鎖同定における問題点. *臨床病理* 67: 675-678, 2019.

重松 隆

- 1) Yashiro M, Ohya M, Mima T, Nakashima Y, Kawakami K, Yamamoto S, Kobayashi S, Yano T, Tanaka Y, Sonou T, Tatsuta K, Negi S, Shigematsu T. Active vitamin D and vitamin D analogs stimulate fibroblast growth factor 23 production in osteocyte-like cells via the vitamin D receptor. *J. Pharmaceutic. Biomed. Analysis* 2020 in Press.
- 2) Shigematsu T, Fukagawa M, Yokoyama K, Akiba T, Fujii A, Shinoda A, Akizawa T. Influence of dialysate Ca concentrations on the therapeutic effects of etelcalcetide with concomitant drugs in patients with secondary hyperparathyroidism. *Nephrology (Carlton)*. 25 Nov, 2019 DOI: 10.1111/nep.13682.

奥田恭章

- 1) Okuda Y. AA amyloidosis – Benefits and prospects of IL-6 Inhibitors. *Mod Rheumatol* 29: 268-274, 2019.

西 慎一

- 1) Nishi S, Yamamoto S, Hoshino J, Takaichi K, Naiki H. The features of bone articular lesions in dialysis-related amyloidosis (DRA) and criteria for the clinical diagnosis of DRA. *Renal Replacement Therapy* 5(10): 1-8, 2019.

畑 裕之

- 1) Iida, S, Ishida, T, Murakami H, Ozaki S, Abe M, Hata H, Shimazaki C. JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018: III. Myeloma-1. Multiple myeloma (MM). *Int J Hematol* 109(5): 509-538, 2019.
- 2) Ueno S, Nozaki J, Kusano S, Kawano Y, Kikukawa Y, Okuno Y, Hata H, Matsuoka M, Uchiba M. Spontaneous remission of acquired factor XIII inhibitor concurrent to development of IgA- type multiple myeloma. *Jpn J Clin Hematol* 60(10): 1443-1448, 2019.
- 3) Nishimura N, Radwan MO, Amano M, Endo S, Fujii E, Hayashi H, Ueno S, Ueno N, Tatetsu H, Hata H, Okamoto Y, Otsuka M, Mitsuya H, Matsuoka M, Okuno Y. Novel p97/VCP inhibitor induces endoplasmic reticulum stress and apoptosis in both

- bortezomib-sensitive and -resistant multiple myeloma cells. *Cancer Sci* 110(10): 3275-3287, 2019.
- 4) Katsuya H, Islam S, Tan BJY, Ito J, Miyazato P, Matsuo M, Inada Y, Iwase SC, Uchiyama Y, Hata H, Sato T, Yagishita N, Araya N, Ueno T, Nosaka K, Tokunaga M, Yamagishi M, Watanabe T, Uchimarui K, Fujisawa JI, Utsunomiya A, Yamano Y, Satou Y. The Nature of the HTLV-1 Provirus in Naturally Infected Individuals Analyzed by the Viral DNA-Capture-Seq Approach. *Cell Rep* 29(3): 724-735, 2019.

小池春樹

- 1) Koike H, Fukami Y, Nishi R, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Ultrastructural mechanisms of macrophage-induced demyelination in Guillain-Barré syndrome. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* in press.
- 2) Koike H, Ikeda S, Fukami Y, Nishi R, Kawagashira Y, Iijima M, Nakamura T, Kuwahara M, Kusunoki S, Katsuno M, Sobue G. Complement deposition and macrophage-induced demyelination in CIDP with anti-LM1 antibodies. *J Neurol Sci* 408: 116509, 2020.
- 3) Koike H, Katsuno M. Expanding the spectrum of transthyretin amyloidosis. *Muscle Nerve* 61(1): 3-4, 2020.
- 4) Koike H. Myelopathy and neuropathy associated with alcoholism. In: Preedy VR, editor. *The Neuroscience of Alcohol: Mechanisms and Treatment*, Elsevier, Amsterdam, 195-205, 2019.
- 5) Koike H, Katsuno M, Sobue G. New teased-fibre definitions represent specific mechanisms of neuropathy. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 90(2): 124, 2019.
- 6) Koike H, Fukami Y, Nishi R, Kawagashira Y, Iijima M, Sobue G, Katsuno M. Clinicopathological spectrum and recent advances in the treatment of hereditary transthyretin amyloidosis. *Neurol Clin Neurosci* 7: 166-173, 2019.
- 7) Koike H, Katsuno M. Ultrastructure in transthyretin amyloidosis: from pathophysiology to therapeutic insights. *Biomedicines* 7(1): 11, 2019.
- 8) Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima

- M, Katsuno M, Sobue G. Evolution of amyloid fibrils in hereditary transthyretin amyloidosis: an ultrastructural study. *Amyloid* 26(sup1): 26, 2019.
- 9) Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Cardiac and peripheral vasomotor autonomic functions in hereditary transthyretin amyloidosis with non-Val30Met mutation. *Amyloid* 26(sup1): 13-14, 2019.
- 10) Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Yasuda T, Mukai E, Date Y, Shiomi K, Nakazato M, Katsuno M, Sobue G. Common clinicopathological features in late-onset hereditary transthyretin amyloidosis (Ala97Gly, Val94Gly, and Val30Met). *Amyloid* 26(sup1): 24-25, 2019.
- 11) Nishi R, Koike H, Ohyama K, Fukami Y, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Differential clinicopathological features of EGPA-associated neuropathy with and without ANCA. *Neurology* in press.
- 12) Fukami Y, Koike H, Iijima M, Hagita J, Niwa H, Nishi R, Kawagashira Y, Katsuno M. Demyelinating neuropathy due to intravascular large B-cell lymphoma: a case report. *Intern Med* 59(3): 435-438, 2020.
- 13) Adams D, Koike H, Slama M, Coelho T. Hereditary transthyretin amyloidosis: a model of medical progress for a fatal disease. *Nat Rev Neurol* 15(7): 387-404, 2019.
- 14) Ikeda S, Koike H, Nishi R, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Clinicopathological characteristics of subtypes of chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy. *J Neurol Neurosurg Psychiatry* 90(9): 988-996, 2019.
- 15) Nakamura T, Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G. Cardiovascular autonomic functions in late-onset hereditary transthyretin amyloidosis with Val30Met mutation. *Amyloid* 26(sup1): 6, 2019.
- 16) Sone J, Mitsunashi S, Fujita A, Mizuguchi T, Hamanaka K, Mori K, Koike H, Hashiguchi A, Takashima H, Sugiyama H, Kohno Y, Takiyama Y, Maeda K, Doi H, Koyano S, Takeuchi H, Kawamoto M, Kohara N, Ando T, Ieda T, Kita Y, Kokubun N, Tsuboi Y, Katoh K, Kino Y, Katsuno M, Iwasaki Y, Yoshida M, Tanaka F, Suzuki IK, Frith MC, Matsumoto N, Sobue G. Long-read sequencing identifies GGC repeat expansions in NOTCH2NLC associated with neuronal intranuclear inclusion disease. *Nat Genet* 51(8): 1215-1221, 2019.
- 17) Mizuno Y, Shinoda K, Watanabe M, Ogata H, Isobe N, Matsushita T, Yamasaki R, Tanaka K, Koike H, Katsuno M, Kira JI. Intractable axonal neuropathy with multifocal peripheral nerve swelling in neuromyelitis optica spectrum disorders: a case report. *Mult Scler Relat Disord* 35: 16-18, 2019.
- 18) Kondo N, Tohnai G, Sahashi K, Iida M, Kataoka M, Nakatsuji H, Tsutsumi Y, Hashizume A, Adachi H, Koike H, Shinjo K, Kondo Y, Sobue G, Katsuno M. DNA methylation inhibitor attenuates polyglutamine-induced neurodegeneration by regulating Hes5. *EMBO Mol Med* 11(5): e8547, 2019.
- 19) Ando T, Iijima M, Fukami Y, Nishi R, Ikeda S, Yokoi S, Kawagashira Y, Koike H, Muro Y, Katsuno M. Vasculitic neuropathy with anti-phosphatidylserine/prothrombin complex antibody. *Muscle Nerve* 59(6): E44-E46, 2019.
- 20) Sato T, Terasawa Y, Higa H, Matsuno H, Arai A, Omoto S, Mitsumura H, Toyoda C, Koike H, Iguchi Y. Nerve ultrasound, electrophysiological, and clinical changes in treatment-naive chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy: a case report. *J Clin Neurophysiol* 36(1): 82-84, 2019.
- 21) 加納裕也, 加藤秀紀, 小池春樹, 勝野雅央, 小栗卓也, 湯浅浩之. 神経生検で血管炎の所見を認めた, 強皮症に伴う多発性単ニューロパチーの一例. *臨床神経学* 59(9): 604-606, 2019.
- 22) 小池春樹. 限局性血管炎と末梢神経障害. *脳神経内科* 91(3): 295-300, 2019.
- 23) 小池春樹. 代謝性・栄養性・薬剤性ニューロパチー. *日本内科学会雑誌* 108(8): 1530-1537, 2019.
- 24) 小池春樹. 栄養欠乏による神経障害. *CLINICAL NEUROSCIENCE* 37(11): 1373-1375, 2019.

- 25) 小池春樹. 体幹部のニューロパチー. *脊椎脊髄ジャーナル* 32(1): 27-32, 2019.
- 26) 小池春樹, 祖父江元. 慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー. *日本医師会雑誌* 148(特別号 1): S86-S88, 2019.
- 27) 小池春樹. ビタミン B1 欠乏. *CLINICAL NEUROSCIENCE* 38(2): 251-253, 2020.

島崎千尋

- 1) Iida S, Shimazaki C, Abe M, Nakaseko C. JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018: III. Myeloma-2. Related disorders of multiple myeloma. *Int J Hematol* 109: 633-640, 2019.
- 2) Iida S, Ishida T, Murakami H, Ozaki S, Abe M, Hata H, Shimazaki C. JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018: III. Myeloma-1. Multiple myeloma (MM). *Int J Hematol* 109: 509-538, 2019.
- 3) Kamiya Y, Chou T, Murakami H, Handa H, Ozaki S, Shimazaki C, Fuchida SI, Okada J, Itoh J, Sugiyama S, Shimizu K. Patients assigned to VGPR, PR, and SD in the IMWG response category are composed of heterogeneous population when assessed by the heavy/light chain assay. *Hematol Oncol* 37: 316-318, 2019.
- 4) Shintani Y, Okada A, Morita Y, Hamatani Y, Amano M, Takahama H, Amaki M, Hasegawa T, Ohta-Ogo K, Kanzaki H, Ishibashi-Ueda H, Yasuda S, Shimazaki C, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Izumi C. Monitoring treatment response to tafamidis by serial native T1 and extracellular volume in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 6: 232-236, 2019.
- 5) 島崎千尋. 本邦における AL アミロイドーシス-全国疫学調査からみた診断と治療の現状-. *臨床血液* 60: 973-978, 2019.

飯田真介

- 1) Iida S, Ishida T, Murakami H, Ozaki S, Abe M, Hata H, Shimazaki C. JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018: III. Myeloma-1. Multiple myeloma (MM) *Int J Hematol* 109: 509-538, 2019.

- 2) Iida S, Shimazaki C, Abe M, Nakaseko C. JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018: III. Myeloma-2. Related disorders of multiple myeloma. *Int J Hematol* 109: 633-640, 2019.
- 3) Murase T, Ri M, Narita T, Fujii K, Masaki A, Iida S, Inagaki H. Immunohistochemistry using bone marrow paraffin sections is a reliable screening tool for identification of *CCND1*, *NSD2*, and *MAF* rearrangements in multiple myeloma. *Cancer Sci* 110(8): 2600-2606, 2019.
- 4) Maekawa K, Ri M, Nakajima M, Sekine A, Ueda R, Tohkin M, Miyata N, Saito Y, Iida S. Serum lipidomics for exploring biomarker of bortezomib therapy in patients with multiple myeloma. *Cancer Sci* 110: 3267-3274, 2019.

植田光晴

- 1) Naiki H, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hoshii Y, Shimoda M, Ando Y. Human amyloidosis, still intractable but becoming curable: the essential role of pathological diagnosis in the selection of type-specific therapeutics. *Pathol Int* 2020; published in Early View on 21 January, 2020 DOI:10.1111/pin.12902.
- 2) González-Duarte A, Berk J, Quan D, Mauermann M, Schmidt H, Polydefkis M, Waddington-Cruz M, Ueda M, Conceição I, Kristen A, Coelho T, Cauquil C, Tard C, Merkel M, Aldinc E, Chen J, Sweetser M, Wang J, Adams D. Analysis of autonomic outcomes in APOLLO, a phase III trial of the RNAi therapeutic patisiran in patients with hereditary transthyretin-mediated amyloidosis. *J Neurol* 267(3): 703-712, 2020.
- 3) Ochi Y, Kubo T, Nakashima Y, Baba Y, Hirota T, Yamasaki N, Yamashita T, Ueda M, Ando Y, Kitaoka H. Integrated diagnostic approach to wild-type transthyretin cardiac amyloidosis with the use of high-sensitivity cardiac troponin T measurement and ^{99m}Tc-pyrophosphate scintigraphy. *J Cardiol* 75(1): 12-19, 2020.
- 4) Inoue Y, Ueda M, Masuda M, Misumi Y, Yamashita T, Ando Y. Memantine, a noncompetitive N-methyl-D-aspartate receptor antagonist, attenuates cerebral amyloid angiopathy by increasing

- insulin-degrading enzyme expression. *Mol Neurobiol* 56(12): 8573-8588, 2019.
- 5) Sakai K, Ueda M, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M. Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan. *Eur J Neurol* 26(12): 1487-1493, 2019.
- 6) Endo J, Sano M, Izumiya Y, Tsujita K, Nakamura K, Tahara N, Kuwahara K, Inomata T, Ueda M, Sekijima Y, Ando Y, Tsutsui H, Isobe M, Fukuda K. A statement for the appropriate administration of tafamidis in patients with transthyretin cardiac amyloidosis. *Circ J* 84(1): 15-17, 2019.
- 7) Misumi Y, Ueda M, Masuda T, Tsuda Y, Nomura T, Okada M, Inoue Y, Tasaki M, Obayashi K, Yamashita T, Ando Y. Characteristics of acquired transthyretin amyloidosis A case series and review of the literature. *Neurology* 93(17): e1587-e1596, 2019.
- 8) Yamashita T, Ueda M, Nomura T, Okazaki T, Okada M, Tsuda Y, Inoue Y, Masada T, Misumi Y, Takamatsu K, Obayashi K, Inomata Y, Hibi T, Ando Y. Natural history and long-term effects of variant protein reduction in non-V30M ATTR amyloidosis. *Neurology* 93(16): 714-716, 2019.
- 9) Nakase T, Yamashita T, Matsuo Y, Nomura T, Sasada K, Masuda T, Misumi Y, Takamatsu K, Oda S, Furukawa Y, Obayashi K, Matsui H, Ando Y, Ueda M. Hereditary ATTR Amyloidosis with Cardiomyopathy Caused by the Novel Variant Transthyretin Y114S (p.Y134S). *Intern Med* 58(18): 2695-2698, 2019.
- 10) Tasaki M, Milani P, Foli A, Verga L, Obici L, Basset M, Bozzola M, Ferraro G, Nuvolone M, Morbini P, Capello G, Ueda M, Obayashi K, Paulli M, Ando Y, Merlini G, Palladini G, Lavatelli F. Simple, reliable detection of amyloid in fat aspirates using the fluorescent dye FSB: a prospective study in 206 patients. *Blood* 134(3): 320-323, 2019.
- 11) Ueda M, Okada M, Mizuguchi M, Kluge-Beckerman B, Kanenawa K, Isoguchi A, Misumi Y, Tasaki M, Ueda A, Kanai A, Sasaki R, Masuda T, Inoue Y, Nomura T, Shinriki S, Shuto T, Kai H, Yamashita T, Matsui H, Benson M, Ando Y. A cell-based high-throughput screening method to directly examine transthyretin amyloid fibril formation at neutral pH. *J Biol Chem* 294(29): 11259-11275, 2019.
- 12) Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Masuda T, Ando Y. Reader response: Natural history and survival in stage 1 Val30Met transthyretin familial amyloid polyneuropathy. *Neurology* 93(5): 228-229, 2019.
- 13) Yamashita T, Ueda M, Misawa S, Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Takamatsu K, Obayashi K, Kuwabara S, Ando Y. Changes in nerve excitability indices in hereditary transthyretin amyloidosis. *Amyloid* 26(sup1): 9-10, 2019.
- 14) Yamashita T, Ohnishi K, Ueda M, Masuda T, Inoue Y, Misumi Y, Ueda A, Obayashi K, Takeya M, Ando Y. Transthyretin amyloid-related cerebral angiitis after liver transplantation. *Amyloid* 26(sup1): 11-12, 2019.
- 15) Obayashi K, Masuda T, Tasaki M, Ando Y, Ueda M. Serum diacron-reactive oxygen metabolites (d-ROMs) and biological antioxidant potential (BAP) in patients with ATTR-PN. *Amyloid* 26(sup1): 65, 2019.
- 16) Obayashi K, Masuda T, Tasaki M, Ando Y, Ueda M. Evaluation of myoelectrical activities of descending colon by electrointestinogram in patients with ATTRm amyloidosis. *Amyloid* 26(sup1): 66, 2019.
- 17) Isoguchi A, Ueda M, Kanenawa K, Masuda T, Misumi Y, Yamashita T, Obayashi K, Ando Y. A novel transgenic mouse model expressing mutant TTR gene causing oculoleptomeningeal type of ATTRm amyloidosis. *Amyloid* 26(sup1): 69, 2019.
- 18) Masuda T, Ueda M, Misumi Y, Nomura T, Inoue Y, Isoguchi A, Kanenawa K, Tasaki M, Yamashita T, Sonoda Y, Obayashi K, Ando Y. Reduced intraepidermal nerve fibre density in patients with hereditary transthyretin amyloidosis. *Amyloid* 26(sup1): 79-80, 2019.
- 19) Oda S, Nakaura T, Utsunomiya D, Hirakawa K, Takashio S, Izumiya Y, Tsujita K, Kawano Y, Okuno Y, Hata H, Matsuoka M, Yamashita T, Ueda M, Ando Y, Yamashita Y. Clinical potential of dual-energy cardiac CT in cardiac amyloidosis. *Amyloid* 26(sup1): 91-92, 2019.
- 20) Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y. Nationwide

- survey of 199 patients with reactive amyloid A amyloidosis in Japan. *Amyloid* 26(sup1): 129, 2019.
- 21) Yamaguchi I, Kokubo Y, Yamashita T, Ueda M, Okoshi T, Matsumine A, Ando Y, Naiki H. Class I small leucine-rich proteoglycans (SLRPs) colocalise with the A β 2M amyloid deposits: implications for the roles of SLRP core proteins in the pathogenesis of dialysis-related amyloidosis. *Amyloid* 26(sup1): 140-141, 2019.
- 22) Kanenawa K, Ueda M, Isoguchi A, Nomura T, Tsuda Y, Masuda T, Misumi Y, Yamashita T, Ando Y. Histopathological and biochemical analyses of prostate corpora amylacea. *Amyloid* 26(sup1): 160-161, 2019.
- 23) Marume K, Takashio S, Nishi M, Hirakawa K, Yamamoto M, Hanatani S, Oda S, Utsunomiya D, Shiraishi S, Ueda M, Yamashita T, Sakamoto K, Yamamoto E, Kaikita K, Izumiya Y, Yamashita Y, Ando Y, Tsujita K. Combination of commonly examined parameters is a useful predictor of positive 99mTc-labeled pyrophosphate scintigraphy findings in elderly patients with suspected transthyretin cardiac amyloidosis. *Circ J* 83(8): 1698-1708, 2019.
- 24) Nomura T, Ueda M, Tasaki M, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Tsuda Y, Okada M, Okazaki T, Kanenawa K, Isoguchi A, Nakamura M, Obayashi K, Shinriki S, Matsui H, Yamashita T, Ando Y. New simple and quick method to analyze serum variant transthyretins: direct MALDI method for the screening of hereditary transthyretin amyloidosis. *Orphanet J Rare Dis* 14(1): 116, 2019.
- 25) Tasaki M,* Ueda M,* Hoshii Y, Mizukami M, Matsumoto S, Nakamura M, Yamashita T, Ueda A, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Torikai T, Nomura T, Tsuda Y, Kanenawa K, Isoguchi A, Okada M, Matsui H, Obayashi K, Ando Y. A novel age-related venous amyloidosis derived from EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1. *J Pathol* 247(4): 444-455, 2019. (*contributed equally).
- 26) Inoue M, Ueda M, Higashi T, Anno T, Fujisawa K, Motoyama K, Mizuguchi M, Ando Y, Jono H, Arima H. Therapeutic potential of Polyamidoamine Dendrimer for amyloidogenic transthyretin amyloidosis. *ACS Chem Neurosci* 10(5): 2584-2590, 2019.
- 28) 植田 光晴, 三隅 洋平, 増田 曜章, 緒方 正輝, 城野 博史, 齋藤 秀之, 山下 太郎, 安東 由喜雄: パチシラン. *日本病院薬剤師会雑誌* 56(4): 421-425, 2020.
- 29) 植田 光晴: 家族性アミロイドポリニューロパチー . 特集 : 神経疾患の現在とこれから. *内科* 123(6): 1263-1266, 2019.
- 30) 植田 光晴: 野生型トランスサイレチン(TTR)が原因となる老人性全身性アミロイドーシス(SSA)の心病変. *Heart View* 23(8): 763-768, 2019.
- 31) 植田 光晴: 神経・筋疾患. ~ ~ 編集「知っておきたい臨床検査値」東京化学同人(東京), 133-135, 2019.
- 大橋健一
- 1) Yamanouchi M, Furuichi K, Hoshino J, Toyama T, Hara A, Shimizu M, Kinowaki K, Fujii T, Ohashi K, Yuzawa Y, Kitamura H, Suzuki Y, Sato H, Uesugi N, Hisano S, Ueda Y, Nishi S, Yokoyama H, Nishino T, Samejima K, Kohagura K, Shibagaki Y, Mise K, Makino H, Matsuo S, Ubara Y, Wada T; Research Group of Diabetic Nephropathy, the Ministry of Health, Labour and Welfare, and the Japan Agency for Medical Research and Development. Nonproteinuric Versus Proteinuric Phenotypes in Diabetic Kidney Disease: A Propensity Score-Matched Analysis of a Nationwide, Biopsy-Based Cohort Study. *Diabetes Care* 42(5): 891-902, 2019.
- 2) Yabuuchi J, Hoshino J, Mizuno H, Ozawa Y, Sekine A, Kawada M, Sumida K, Hiramatsu R, Hayami N, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Sawa N, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Ubara Y. Immunoglobulin G subclass 3 in ISN/RPL lupus nephritis classification. *Clin Nephrol* 91: 32-39, 2019.
- 3) Takada D, Hoshino J, Fujii T, Usui J, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Suzuki S, Yamagata K, Ubara Y. Association between renal outcome and the number of steroid pulse therapies after tonsillectomy in patients with IgA nephropathy. *Clin Exp Nephrol* 23: 335-341, 2019.
- 4) Toriu N, Sawa N, Hiramatsu R, Mizuno H, Ikuma D, Sekine A, Hayami N, Sumida K, Yamanouchi M,

Hasegawa E, Hoshino J, Takaichi K, Wake A, Ohashi K, Fujii T, Ubara Y. Regression of renal amyloid deposits by VAD therapy plus autologous stem cell transplantation in a patient with primary AL amyloidosis. *CEN Case Rep* 9: 6-10, 2020.

小野賢二郎

- 1) Kuroda T, Honma M, Mori Y, Futamura A, Sugimoto A, Yano S, Kinno R, Murakami H, Ono K. Increased Presence of Cerebral Microbleeds Correlates with Ventricular Enlargement and Increased White Matter Hyperintensities in Alzheimer's Disease. *Front Aging Neurosci* 2020 Jan 31;12:13. doi: 10.3389/fnagi.2020.00013.
- 2) Ono K, Tsuji M. Protofibrils of Amyloid- β are Important Targets of a Disease-Modifying Approach for Alzheimer's Disease. *Int J Mol Sci* 2020 Jan 31;21(3). pii: E952. doi: 10.3390/ijms21030952.
- 3) Ono K, Zhao D, Wu Q, Simon J, Wang J, Radu A, Pasinetti GM. Pine Bark Polyphenolic Extract Attenuates Amyloid- β and Tau Misfolding in a Model System of Alzheimer's Disease Neuropathology. *J Alzheimers Dis* 73(4): 1597-1606, 2020.
- 4) Abe K, Shang J, Shi X, Yamashita T, Hishikawa N, Takemoto M, Morihara R, Nakano Y, Ohta Y, Deguchi K, Ikeda M, Ikeda Y, Okamoto K, Shoji M, Takatama M, Kojo M, Kuroda T, Ono K, Kimura N, Matsubara E, Osakada Y, Wakutani Y, Takao Y, Higashi Y, Asada K, Senga T, Lee LJ, Tanaka K. A New Serum Biomarker Set to Detect Mild Cognitive Impairment and Alzheimer's Disease by Peptidome Technology. *J Alzheimers Dis* 73(1): 217-227, 2020.
- 5) Hase T, Shishido S, Yamamoto S, Yamashita R, Nukima H, Taira S, Toyoda T, Abe K, Hamaguchi T, Ono K, Noguchi-Shinohara M, Yamada M, Kobayashi S. Rosmarinic acid suppresses Alzheimer's disease development by reducing amyloid β aggregation by increasing monoamine secretion. *Sci Rep* 9(1): 8711, 2019.
- 6) Ono K, Tsuji M. Pharmacological Potential of Cilostazol for Alzheimer's Disease. *Front Pharmacol* 10: 559, 2019.

7) Yasumoto T, Takamura Y, Tsuji M, Watanabe-Nakayama T, Imamura K, Inoue H, Nakamura S, Inoue T, Kimura A, Yano S, Nishijo H, Kiuchi Y, Teplow DB, Ono K. High molecular weight amyloid β_{1-42} oligomers induce neurotoxicity via plasma membrane damage. *FASEB J* 33(8): 9220-9234, 2019.

- 8) Nomoto S, Kinno R, Ochiai H, Kubota S, Mori Y, Futamura A, Sugimoto A, Kuroda T, Yano S, Murakami H, Shirasawa T, Yoshimoto T, Minoura A, Kokaze A, Ono K. The relationship between thyroid function and cerebral blood flow in mild cognitive impairment and Alzheimer's disease. *PLoS One* 14(4): e0214676, 2019.
- 9) 黒田岳志, 小野賢二郎: アルツハイマー病における brain lymphatic drainage system の障害. *認知症の最新医療* 9(4): 212-213, 2019.
- 10) 杉本あずさ, 小野賢二郎: A 凝集制御薬. *認知症の最新医療* 9(3): 138-142, 2019.
- 11) 杉本あずさ, 小野賢二郎: 抗アミロイド 系薬剤. *老年精神医学雑誌* 30(6): 653-662, 2019.

関島良樹

- 1) Ichimata S, Hata Y, Abe R, Yoshinaga T, Katoh N, Kametani F, Yazaki M, Sekijima Y, Ehara T, Nishida N. An autopsy case of amyloid tubulopathy exhibiting characteristic spheroid-type deposition. *Virchows Arch* 2020 in press.
- 2) Buxbaum JN, Brannagan T 3rd, Buades-Reinés J, Cisneros E, Conceicao I, Kyriakides T, Merlini G, Obici L, Plante-Bordeneuve V, Rousseau A, Sekijima Y, Imai A, Waddington Cruz M, Yamada M. Transthyretin deposition in the eye in the era of effective therapy for hereditary ATTRV30M amyloidosis. *Amyloid* 26(1): 10-14, 2019.
- 3) Endo J, Sano M, Izumiya Y, Tsujita K, Nakamura K, Tahara N, Kuwahara K, Inomata T, Ueda M, Sekijima Y, Ando Y, Tsutsui H, Isobe M, Fukuda K. A statement on the appropriate administration of tafamidis in patients with transthyretin cardiac amyloidosis. *Circ J* 84(1): 15-17, 2019.
- 4) Ishii T, Sekijima Y, Ando Y. Patient profile with ATTR-FAP and evaluation of the safety and efficacy

of tafamidis meglumine in Japan - interim analysis in post-marketing surveillance. *Amyloid* 26(sup1): 45-46, 2019.

5) Kodaira M, Ohashi N, Morita H, Sekijima Y. Length-dependent truncal A δ -fiber dysfunction in hereditary transthyretin amyloidosis: An intra-epidermal electrical stimulation study. *Clin Neurophysiol* 130(6): 903-910, 2019.

6) Kozuka A, Koyama J, Sekijima Y, Ikeda U. Quantitative analysis of endocardial and epicardial left ventricular myocardial deformation in patients with cardiac amyloidosis. *Shinshu Med J* 67: 49-60, 2019.

7) Koyama J, Minamisawa M, Sekijima Y, Kuwahara K, Katsuyama T, Maruyama K. Role of echocardiography in assessing cardiac amyloidosis: a systematic review. *J Echocardiogr* 17(2): 64-75, 2019.

8) Miyake Z, Nakamagoe K, Ezawa N, Yoshinaga T, Hashimoto R, Sato T, Sekijima Y, Tamaoka A. Late-onset transthyretin (TTR)-familial amyloid polyneuropathy (FAP) with a long disease duration from non-endemic areas in Japan. *Intern Med* 58(5): 713-718, 2019.

9) Ohashi N, Kodaira M, Morita H, Sekijima Y. Electrophysiological demyelinating features in hereditary ATTR amyloidosis. *Amyloid* 26(1): 15-23, 2019.

10) Sekijima Y, Mundayat R, Ishii T, Ando Y. The current status of the Transthyretin Amyloidosis Outcomes Survey (THAOS) in Japan. *Amyloid* 26(sup1): 61-62, 2019.

11) Shintani Y, Okada A, Morita Y, Hamatani Y, Amano M, Takahama H, Amaki M, Hasegawa T, Ohta-Ogo K, Kanzaki H, Ishibashi-Ueda H, Yasuda S, Shimazaki C, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Izumi C. Monitoring treatment response to tafamidis by serial native T1 and extracellular volume in transthyretin amyloid cardiomyopathy. *ESC Heart Fail* 6(1): 232-236, 2019.

12) Yamada Y, Fukushima T, Kodama S, Shimizu H, Kakita A, Makino K, Sekijima Y. A case of cerebral amyloid angiopathy-type hereditary ATTR amyloidosis with Y69H (p.Y89H) variant displaying transient focal neurological episodes as the main

symptom. *Amyloid* 26(4): 251-252, 2019.

13) 関島良樹. 老化とアミロイドーシス. *信州医学雑誌* 67: 79-80, 2019.

14) 関島良樹. アミロイドーシスと感染症. *Neuroinfection* 24: 24-28, 2019.

15) 関島良樹. 遺伝性 ATTR アミロイドーシス (家族性アミロイドポリニューロパチー). *Clinical Neuroscience* 38(3): 336-338, 2019.

佐野元昭

1) Yamamoto T, Endo J, Kataoka M, Matsushashi T, Katsumata Y, Shirakawa K, Isobe S, Moriyama H, Goto S, Shimanaka Y, Kono N, Arai H, Shinmura K, Fukuda K, Sano M. Palmitate induces cardiomyocyte death via inositol requiring enzyme-1 (IRE1)-mediated signaling independent of X-box binding protein 1 (XBP1). *Biochem Biophys Res Commun* 526(1): 122-127, 2020.

2) Yamashita K, Ito K, Endo J, Matsushashi T, Katsumata Y, Yamamoto T, Shirakawa K, Isobe S, Kataoka M, Yoshida N, Goto S, Moriyama H, Kitakata H, Mitani F, Fukuda K, Goda N, Ichihara A, Sano M. Adrenal cortex hypoxia modulates aldosterone production in heart failure. *Biochem Biophys Res Commun* 524(1): 184-189, 2020.

3) Endo J, Sano M, Izumiya Y, Tsujita K, Nakamura K, Tahara N, Kuwahara K, Inomata T, Ueda M, Sekijima Y, Ando Y, Tsutsui H, Isobe M, Fukuda K. A Statement on the Appropriate Administration of Tafamidis in Patients With Transthyretin Cardiac Amyloidosis. *Circ J* 84(1): 15-17, 2019.

4) Hiraide T, Kataoka M, Suzuki H, Aimi Y, Chiba T, Isobe S, Katsumata Y, Goto S, Kanekura K, Yamada Y, Moriyama H, Kitakata H, Endo J, Yuasa S, Arai Y, Hirose N, Satoh T, Hakamata Y, Sano M, Gamou S, Kosaki K, Fukuda K. Poor outcomes in carriers of the RNF213 variant (p.Arg4810Lys) with pulmonary arterial hypertension. *J Heart Lung Transplant* 39(2): 103-112, 2019.

5) Yoshida N, Endo J, Kinouchi K, Kitakata H, Moriyama H, Kataoka M, Yamamoto T, Shirakawa K, Morimoto S, Nishiyama A, Hashiguchi A, Higuchi I, Fukuda K, Ichihara A, Sano M. (Pro)renin receptor

accelerates development of sarcopenia via activation of Wnt/YAP signaling axis. *Aging Cell* 18(5): e12991, 2019.

6) Yamamoto T, Endo J, Kataoka M, Matsuhashi T, Katsumata Y, Shirakawa K, Yoshida N, Isobe S, Moriyama H, Goto S, Yamashita K, Ohto-Nakanishi T, Nakanishi H, Shimanaka Y, Kono N, Shinmura K, Arai H, Fukuda K, Sano M. Sirt1 counteracts decrease in membrane phospholipid unsaturation and diastolic dysfunction during saturated fatty acid overload. *J Mol Cell Cardiol* 133: 1-11, 2019.

7) Matsuhashi T, Endo J, Katsumata Y, Yamamoto T, Shimizu N, Yoshikawa N, Kataoka M, Isobe S, Moriyama H, Goto S, Fukuda K, Tanaka H, Sano M. Pressure overload inhibits glucocorticoid receptor transcriptional activity in cardiomyocytes and promotes pathological cardiac hypertrophy. *J Mol Cell Cardiol* 130: 122-130, 2019.

8) Sano M, Goto S. Possible Mechanism of Hematocrit Elevation by Sodium Glucose Cotransporter 2 Inhibitors and Associated Beneficial Renal and Cardiovascular Effects. *Circulation* 139(17): 1985-1987, 2019.

9) Isobe S, Kataoka M, Endo J, Moriyama H, Okazaki S, Tsuchihashi K, Katsumata Y, Yamamoto T, Shirakawa K, Yoshida N, Shimoda M, Chiba T, Masuko T, Hakamata Y, Kobayashi E, Saya H, Fukuda K, Sano M. Endothelial-Mesenchymal Transition Drives Expression of CD44 Variant and xCT in Pulmonary Hypertension. *Am J Respir Cell Mol Biol* 61(3): 367-379, 2019.

10) Goto S, Kimura M, Katsumata Y, Goto S, Kamatani T, Ichihara G, Ko S, Sasaki J, Fukuda K, Sano M. Artificial intelligence to predict needs for urgent revascularization from 12-lead electrocardiography in emergency patients. *PLoS One* 14(1): e0210103, 2019.

田原宣広

1) Tahara A, Tahara N, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Honda A, Abe T, Yamagishi S-I, Fukumoto Y. Brown adipose tissue activation in severe heart failure. *Eur Heart J* 2020 in press.

2) Yanagisawa K, Sotokawauchi A, Nishino Y, Matsui T, Tahara N, Yamagishi SI. Albuminuria-lowering effect of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors could be partly attributable to the attenuation of tubular damage in type 2 diabetic patients. *Diabetes Metab Res Rev* 2020 Apr 21:e3327. doi: 10.1002/dmrr.3327.

3) Tahara N, Dobashi H, Fukuda K, Funauchi M, Hatano M, Ikeda S, Joho S, Kihara Y, Kondo T, Matsushita M, Minamino T, Nakanishi N, Okano Y, Ozaki Y, Saji T, Sakai S, Tanabe N, Watanabe H, Yamada H, Yoshioka K, Hatta M, Sasayama S. Long-term treatment of pulmonary arterial hypertension with macitentan in Japanese patients. *Curr Med Res Opin* 2020 Apr 16:1. doi: 10.1080/03007995.2020.1756234.

4) Bekki M, Tahara N, Tahara A, Maeda-Ogata S, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Harada A, Hirakawa Y, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Ueno T. Switching from clopidogrel to prasugrel resolves vascular inflammation in patients receiving long-term aspirin plus clopidogrel therapy after coronary stent implantation. *J Nucl Cardiol* 2020 Mar 31. doi: 10.1007/s12350-020-02110-7.

5) Sugiyama Y, Tahara N, Bekki M, Tahara A, Honda A, Ogata-Maeda S, Sun J, Igata S, Fukumoto Y. Long-term survival outcome for pre-capillary pulmonary hypertension at a Japanese single center. *Can J Physiol Pharmacol* 2020 Mar 3. doi: 10.1139/cjpp-2019-0663.

6) Endo J, Sano M, Izumiya Y, Tsujita K, Nakamura K, Tahara N, Kuwahara K, Inomata T, Ueda M, Sekijima Y, Ando Y, Tsutsui H, Isobe M, Fukuda K. A Statement on the Appropriate Administration of Tafamidis in Patients With Transthyretin Cardiac Amyloidosis. *Circ J* 84(1): 15-17, 2019.

7) Tahara N, Nitta Y, Bekki M, Tahara A, Maeda-Ogata S, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Matsui T, Yamagishi SI, Fukumoto Y. Two-hour postload plasma glucose and pigment epithelium-derived factor levels are markers of coronary artery inflammation in type 2 diabetic

- patients. *J Nucl Cardiol* 2019 Aug 12. doi: 10.1007/s12350-019-01842-5.
- 8) Tahara A, Tahara N, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Sun J, Honda A, Igata S, Fukumoto Y. Clinical hallmarks making diagnosis of infective endocarditis. *J Nucl Cardiol* 2019 Mar 18. doi: 10.1007/s12350-019-01686-z.
- 9) Ito S, Tahara N, Hirakata S, Kaieda S, Tahara A, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Kuromatsu R, Nakashima O, Fukumoto Y. Signal intensity of superb micro-vascular imaging associates with the activity of vascular inflammation in Takayasu arteritis. *J Nucl Cardiol* 2019 Mar 4. doi: 10.1007/s12350-019-01665-4.
- 10) Tahara N, Kojima R, Yoshida R, Bekki M, Sugiyama Y, Tahara A, Maeda S, Honda A, Igata S, Nakamura T, Sun J, Matsui T, Fukumoto Y, Matsui T, Yamagishi SI. Serum Levels of Protein-Bound Methylglyoxal-Derived Hydroimidazolone-1 are Independently Correlated with Asymmetric Dimethylarginine. *Rejuvenation Res* 22(5): 431-438, 2019.
- 11) Saku K, Tahara N, Takaseya T, Shintani Y, Takagi K, Shojima T, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H. Multimodal imaging of cardiac-calcified amorphous tumor. *J Nucl Cardiol* 27(2): 682-685, 2020.
- 12) Tahara N, Bekki M, Sugiyama Y, Tahara A, Fukumoto Y. Importance of extracardiac FDG uptake to diagnose cardiac sarcoidosis. *J Nucl Cardiol* 27(1): 118-122, 2020.
- 13) Maeda S, Tahara N, Takase F, Bekki M, Tahara A, Honda A, Igata S, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y. Diagnostic performance of FDG-PET/CTA in native mitral valve endocarditis. *J Nucl Cardiol* 26(2): 681-683, 2019.
- 14) Bekki M, Tahara N, Tahara A, Igata S, Honda A, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kumashiro Y, Matsui T, Fukumoto Y, Yamagishi SI. Switching Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors to Tofogliflozin, a Selective Inhibitor of Sodium-Glucose Cotransporter 2 Improve Arterial Stiffness Evaluated by Cardio-Ankle Vascular Index in Patients with Type 2 Diabetes: A Pilot Study. *Curr Vasc Pharmacol* 17(4): 411-420, 2019.
- 15) Bekki M, Tahara N, Tahara A, Honda A, Igata S, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Tanaka H, Suda K, Fukumoto Y. Anti-inflammatory effect of statin in coronary aneurysms late after Kawasaki disease. *J Nucl Cardiol* 26(2): 671-673, 2019.
- 16) Saku K, Shintani Y, Tahara N, Kikusaki S, Imai S, Shojima T, Takagi K, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H. Inflammatory reaction of a pericardial foreign body after cardiac surgery. *J Nucl Cardiol* 26(1): 328-329, 2019.

2. 学会発表

内木宏延

1) 中島 真, 下田 将之, 岩男 泰, 亀山 香織, 内木 宏延, 金井 弥栄: 消化管に限局した原発性アミロイドーシス 4 症例の検討. 第 108 回日本病理学会総会, 東京, 5,9-11, 2019.

2) 遠藤 芳徳, 長谷川 一浩, 野村 寮, 有島 英孝, 菊田 健一郎, 山下 太郎, 井上 泰輝, 植田 光晴, 安東 由喜雄, Mark R.Wilson, 濱野 忠則, 中本 安成, 内木 宏延: 脳アミロイドアンギオパチーを抑制する細胞外シャペロン-In vitro モデルからの提案 (アミロイド基礎科学の新展開). 第 7 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

安東由喜雄

1) Ando Y: A successful example of precision and translational medicine. Towards a cure for amyloid diseases, Pavia, Italy, Dec 16-19, 2019.

2) Ando Y: Learnings from ATTR-PN and the value of the multidisciplinary approach. Transthyretin amyloid cardiomyopathy masterclass, Kuala Lumpur, Malaysia, Oct 18-21, 2019.

3) Ando Y: The role of transthyretin in health and disease. Transthyretin amyloid cardiomyopathy masterclass, Kuala Lumpur, Malaysia, Oct 18-21, 2019.

4) Ando Y: Recent advance in FAP. 2nd European ATTR amyloidosis meeting for patients and doctors, Berlin, Germany, Aug 1-5, 2019.

5) Ando Y: Novel insights in the pathogenesis of hereditary ATTR amyloidosis. Heidelberg University Hospital Kick-off meeting for 2969, Heidelberg, Germany, Jul 17-20, 2019.

6) Ando Y: Transthyretin related amyloidosis-Diagnosis, pathogenesis, and therapies. Plothena conference, San Francisco, USA, May 14-17, 2019.

7) 安東 由喜雄: 21世紀の病気 アミロイドーシスの自律神経機能検査 up to date. 第72回日本自律神経学会学術集会総会, 11,2-3, 2019.

8) 安東 由喜雄: 21世紀の病気アミロイドーシス-心アミロイドーシスの診断と治療に関する最新情報-. 日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 9,13-14, 2019.

9) 安東 由喜雄: 眼科医が知っておくべき全身性アミロイドーシスの最新の知見. 第30回緑内障学会, 熊本, 9,6-8, 2019.

10) 遠藤 芳徳, 長谷川 一浩, 野村 寮, 有島 英孝, 菊田 健一郎, 山下 太郎, 井上 泰輝, 植田 光晴, 安東 由喜雄, Mark R.Wilson, 濱野 忠則, 中本 安成, 内木 宏延: 脳アミロイドアンギオパチーを抑制する細胞外シャペロン-In vitro モデルからの提案(アミロイド基礎科学の新展開). 第7回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

11) 安東 由喜雄: ここまで来た難病 FAP の治療, 根治を目指して~ siRNA の可能性~. 第5回核酸医学会学術集会, 大阪, 7,10-12, 2019.

12) 安東 由喜雄: 21世紀の疾患アミロイドーシス~ 治す神経難病の実践~. 第60回日本神経学会学術集会, 大阪, 5,22-25, 2019.

13) 安東 由喜雄: ここまで進化した治療と病態研究. 第116回日本内科学会総会, 名古屋, 4,26-28, 2019.

山田正仁

1) 山田 正仁: アミロイドーシスを予防し治療するための基礎と臨床. 第30回日本医学会総会2019中部, 名古屋, 4,27-29, 2019.

2) Sakai K, Yamada M. Cerebral amyloid angiopathy-related cognitive impairment and inflammation. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5,22-25, 2019.

3) Sakai K, Ueda M, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M. CAA-related intracerebral hemorrhage in younger patients: a nationwide study in Japan. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5,22-25, 2019.

4) 瀧口 毅, 山田 正仁: 脳アミロイドアンギオパチーの個体間伝播の可能性. 第7回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

5) 瀧口 毅, 山田 正仁: 医療行為によるアミロイドβタンパク質病理の個体間伝播. 第24回日本神経感染症学会総会・学術大会, 東京, 10,11-12, 2019.

6) 坂井 健二, 山田 正仁: 脳アミロイドアンギオパチー関連炎症と頭痛. 第47回日本頭痛学会総会, さいたま, 11,15-16, 2019.

玉岡 晃

1) 大内 翔悟, 高橋 華, 玉岡 晃, 寺田 真, 保坂 孝史, 吉井 與志彦: 進行性核上性麻痺様の症状で発症し, 水頭症を呈したクリプトコッカス髄膜炎の76歳男性例. 第657回日本内科学会, 東京, 2,8, 2020.

2) 根本 広樹, 大内 翔吾, 奥根 祥, 玉岡 晃, 柳園 昂太, 米納 昌恵: 難聴とめまいで発症し, 突発性難聴と鑑別を要した前下小脳動脈症候群の1例. 第656回日本内科学会, 東京, 12,14, 2019.

3) 高橋 華, 石井 一弘, 高柳 ひかり, 玉岡 晃, 遠藤 優枝, 関島 良樹: 心筋 99mTc-ピロリン酸シンチグラフィーが診断に有用であった高齢発症の遺伝性ATTRアミロイドーシスの72歳女性例. 第655回日本内科学会, 東京, 11,9, 2019.

4) 保坂 孝史, 寺田 真, 玉岡 晃, 竹澤 敬人, 大窪勝 一郎, 岩淵 聡, 梶井 英治, 水谷 太郎: 肝膿瘍に対するメトロニダゾール内服中に可逆性後部白質脳症を呈した87歳、女性例. 第654回日本内科学会, 東京, 10,5, 2019.

5) 清水 眸, 猪狩 弘大, 中馬越 清隆, 伊佐 恵, 石井 亜紀子, 玉岡 晃, 西野 一三: スタチン服用歴がなく、肢帯型筋ジストロフィー様の慢性経過を呈し、免疫療法が著効を示した抗HMGR抗体陽性免疫介在性壊死性ミオパチーの31歳男性例. 第653回日本内科学会, 東京, 9,14, 2019.

6) 武田 勇人, 玉岡 晃, 野村 誠, 阿部 圭市, 原範和, 池内 健: 当初正常圧水頭症が疑われた神経

- 軸索スフェロイドを伴う遺伝性びまん性白質脳症の1例. 第652回日本内科学会, 東京, 7, 14, 2019.
- 7) 伊佐 恵, 鈴木 浩明, 高橋 尚子, 森 悠, 大石 井 一弘, 武田 勇人, 玉岡 晃: アドレナリン作動性点眼薬が眼瞼下垂に著効した慢性甲状腺炎の61歳女性例. 第651回日本内科学会, 東京, 6, 8, 2019.
- 8) 大内 翔悟, 保坂 愛, 増田 洋亮, 石川 栄一, 松村 明, 佐藤 允之, 松丸 祐司, 辻 浩史, 奥根 祥, 玉岡 晃: 呼吸筋麻痺をきたした脳表へモジデリン沈着症の40歳男性例. 第650回日本内科学会, 東京, 5, 18, 2019.
- 9) 玉岡 晃: 認知症の神経症候学. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5, 22, 2019.
- 10) 武田 勇人, 石井 亜紀子, 野原 誠太郎, 保坂 孝史, 儘田 直美, 寺田 真, 塩谷 彩子, 奥根 祥, 遠坂 直希, 三宅 善嗣, 辻 浩史, 富所 康志, 中馬越 清隆, 石井 一弘, 玉岡 晃: 肺小細胞癌を背景とした傍腫瘍性神経症候群の異なる臨床病型をとった4例. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5, 22, 2019.
- 11) 塩谷 彩子, 宅間 浩, 石井 亜紀子, 辻 浩史, 高橋 俊明, 青木 正志, 玉岡 晃: 同一遺伝子変異を有する dysferlinopathy 同胞例の検討. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5, 22, 2019.
- 12) Sakai K, Ueda U, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M: MCAA-related intracerebral hemorrhage in younger patients: a nationwide study in Japan. 60th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology, Osaka, 5, 22, 2019.
- 13) Araki W, Taniguchi K, Araki T, Yamamoto F, Tamaoka A, Kametani F: Amyloid beta-protein oligomers bind to both NMDA receptor and metabotropic glutamate receptor 1. 60th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology, Osaka, 5, 22, 2019.
- 14) Tomidokoro Y, Ishii K, Irie K, Tamaoka A: Toxic Abeta conformer and tau in CSF obtained from the cases of AD and controls, a preliminary study. 60th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology, Osaka, 5, 22, 2019.
- 15) 中馬越 清隆, 山田 詩, 川上 莉央, 小金澤 禎史, 玉岡 晃: アルツハイマー病での病的な矩形波眼球運動の解析. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5, 23, 2019.
- 16) 伊佐 恵, 石井 亜紀子, 前田 昌哉, 武田 勇人, 清水 眸, 遠坂 直希, 三宅 善嗣, 奥根 祥, 辻 浩史, 富所 康志, 中馬越 清隆, 石井 一弘, 玉岡 晃: 多発性硬化症における睡眠障害の検討. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5, 23, 2019.
- 17) 石井 一弘, 根本 清貴, 岩崎 信明, 武田 徹, 増田 知之, 柴田 康行, 玉岡 晃: 有機ヒ素中毒による脳血流変化について. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5, 24, 2019.
- 18) 石井 亜紀子, 野原 誠太郎, 山本 詞子, 遠坂 直希, 奥根 祥, 三宅 善嗣, 清水 眸, 武田 勇人, ハッ賀 秀一, 古賀 靖敏, 伊佐 恵, 富所 康志, 辻 浩史, 中馬越 清隆, 石井 一弘, 玉岡 晃: ミトコンドリア病バイオマーカーである GDF-15 は多発性硬化症の重症度と相関する. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5, 24, 2019.
- 19) 白岩 伸子, 玉岡 晃, 大越 教夫: 水痘・帯状疱疹ウイルス感染症関連神経疾患の臨床的検討. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5, 24, 2019.
- 20) Kanazawa T, Sato W, Raveney B, Takewaki D, Yoko Y, Takahashi Y, Tamaoka A, Oki S, Yamamura T: The role of Eomesodermin-expressing T-helper cells in neurodegenerative diseases. 60th Annual Meeting of the Japanese Society of Neurology, Osaka, 5, 24, 2019.
- 21) 辻 浩史, 遠坂 直希, 三宅 善嗣, 奥根 祥, 武田 勇人, 清水 眸, 富所 康志, 中馬越 清隆, 石井 亜紀子, 石井 一弘, 玉岡 晃: 最近の重症筋無力症診療の動調査. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5, 25, 2019.
- 高市憲明
- 1) 福田 誠, 水野 裕基, 平松 里佳子, 山内 真之, 諏訪部 達也, 澤 直樹, 星野 純一, 大橋 健一, 藤井 丈士, 池田 裕次, 高市 憲明, 乳原 善文. IL-6 受容体阻害剤にて腎不全進行を抑制し得た関節リウマチ合併 AA-Amyloidosis の一例. 第49回日本腎臓学会東部学術学会, 東京, 10, 4-5, 2019.
- 2) 松岡 舟作, 星野 純一, 川田 真宏, 長谷川 詠子, 澤 直樹, 乳原 善文, 高市 憲明, 山本 豪, 藤井 丈士. リンパ形質細胞性リンパ腫

(LPL)/Waldenstrom's macroglobulinemia(WM)に合併した IgM-kappa 型 AHL amyloidosis の一例. 第 49 回日本腎臓学会東部学術学会, 東京, 10,4-5, 2019.

3) 遠山 友希, 大島 洋一, 住田 圭一, 水野 裕基, 山内 真之, 早見 典子, 関根 章成, 星野 純一, 澤直樹, 高市 憲明, 木脇 圭一, 藤井 丈士, 小向 大輔, 乳原 善文. 20 年の長期維持透析患者の透析困難症として発症した原発性 AL アミロイドーシスの一例. 第 49 回日本腎臓学会東部学術学会, 東京, 10,4-5, 2019.

4) 犬井 啓太, 澤 直樹, 水野 裕基, 諏訪部 達也, 平松 里佳子, 山内 真之, 高市 憲明, 乳原 善文, 木脇 圭一, 大橋 健一, 藤井 丈士. IL-6 受容体抗体製剤の長期投与により腎臓内のアミロイド沈着まで改善を認めた家族性地中海熱(FMF)の 1 例. 第 49 回日本腎臓学会東部学術学会, 東京, 10,4-5, 2019.

山田俊幸

1) 川口 公平, 奥田 恭章, 黒田 毅, 山田 俊幸: 生検材料からのアミロイド内 AA 蛋白の分析. 京都, 4,16, 2019.

2) 川口 公平, 奥田 恭章, 黒田 毅, 山田 俊幸: MALDI-TOF MS による生検組織片から抽出された AA 蛋白の分子構造分析. 第 7 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

3) 山田 俊幸: シンポジウム 2、臨床化学の焦点、7. M蛋白. 第 66 回日本臨床検査医学会学術集会, 岡山, 11,22, 2019.

4) 川口 公平, 山田 俊幸: MALDI-TOF MS を用いた血清 SAA の分析による SAA1 遺伝子型の同定. 第 59 回日本臨床化学会年次学術集会, 仙台, 9,28, 2019.

重松 隆

1) 園生 智広, 大矢 昌樹, 重松 隆: 高リン条件下での筋萎縮因子発現の検討. 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会, 東京, 6,28-30, 2019.

奥田恭章

1) 奥田恭章: 当院における RA に合併した AA アミロイドーシス 447 例の診断年代による臨床像と

予後の変遷- 第 63 回日本リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 4,15-17, 2019.

2) 奥田 恭章: 当院における AA アミロイドーシスの臨床像と予後の検討. 第 7 回日本アミロイドーシス学会・学術集会, 東京, 8,30, 2019.

3) 奥田 恭章: 関節リウマチについて-知っておきたい基礎知識. 関節リウマチ市民公開講座, 松山, 9,7, 2019.

西 慎一

1) Nishi S, Fujii H, Goto S, Kono K, Watanabe K. Intraventricular Septum Thickness Increases Depeneding on the Decline of eGFR in AL Renal Amyloidosis. American Society of Nephrology, Washington, DC, USA (Poster), 11,8, 2019.

畑 裕之

1) 笹野 孝行, 河野 和, 松下 豊, 松岡 雅雄, 畑 裕之: JX06, a potent and selective PDK1 inhibitor, is highly promising in myeloma therapeutic strategy. 第 44 回日本骨髄腫学会, 名古屋, 5,11-12, 2019.

2) 河野 和, 稲田 優紀, 笹野 孝行, 西村 直, 松下 豊, 畑 裕之, 松岡 雅雄: Targeting AMPD1, a plasma cell specific metabolic molecule, for multiple myeloma treatment. 第 44 回日本骨髄腫学会, 名古屋, 5,11-12, 2019.

3) 河野 和, 上野 二菜, 上野 志貴子, 奥野 豊, 畑 裕之, 松岡 雅雄: グラツムマブ投与により早期に血液学的寛解が得られた多発性骨髄腫に合併した AL アミロイドーシスの一例. 第 7 回日本アミロイドーシス学会, 東京, 8,30, 2019.

4) 笹野 孝行, 河野 和, 串間 咲希, 松岡 雅雄, 畑 裕之: A novel PDK1 inhibitor, JX06, dephosphorylates PDH and induces apoptosis in myeloma cells. 第 81 回日本血液学会, 東京, 10,11-13, 2019.

5) 河野 和, 笹野 孝行, 稲田 優紀, 西村 直, 串間 咲希, 畑 裕之, 松岡 雅雄: AMPD1, a plasma cell specific purine metabolic molecule, is a novel therapeutic target for myeloma. 第 81 回日本血液学会, 東京, 10,11-13, 2019.

6) Kawano Y, Sasano T, Kushima S, Inada Y, Nishimura N, Hata H, Matsuoka M: Targeting the

Plasma Cell Specific Purine Metabolic Enzyme, AMPD1, Induces Multiple Myeloma Cell Death Accompanying NAD Depletion. 61th Annual Meeting of American Society of Hematology, Orlando, Dec 7-10, 2019.

7) Kushima S, Sasano T, Matsuoka M, Hata H, Kawano Y. Targeting Nicotinamide Adenine Dinucleotide (NAD) Glycohyrase Activity of CD38 Exerts Anti-Myeloma Effect Accompanying Intracellular NAD Elevation. 61th Annual Meeting of American Society of Hematology, Orlando, Dec 7-10, 2019.

8) Sasano T, Kushima S, Matsushita Y, Matsuoka M, Hata H, Kawano Y. JX06, a Novel PDK1 Inhibitor, Induces Myeloma Cell Apoptosis By Metabolic Reprogramming and Works Synergistically with Bortezomib. 61th Annual Meeting of American Society of Hematology, Orlando, Dec 7-10, 2019.

小池春樹

1) Koike H: Familial amyloid polyneuropathy: from pathology and mechanisms of nerve degeneration to therapy. The 3rd International Taiwanese Congress of Neurology, Taipei, 5,3-5, 2019.

2) Koike H: Neuropathology of inflammatory neuropathies. 2019 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, Genoa, 7,27-30, 2019.

3) Koike H: Ultrastructure of CIDP: A role of autoantibodies to nodal or paranodal proteins in the pathogenesis. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5,22-25, 2019.

4) 小池 春樹, 大山 健, 祖父江 元, 勝野 雅央: 診断病理セッション: 両下肢のしびれ・痛みを主訴とする55歳男性例. 第60回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京, 7,14-16, 2019.

4) Koike H, Fukami Y, Nishi R, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G: Ultrastructural mechanisms of macrophage-induced demyelination in Guillain-Barré syndrome. 2019 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, Genoa, 7,27-30, 2019.

5) Iijima M, Shimizu S, Fukami Y, Nishi R, Kawagashira Y, Koike H, Ogata H, Kira J, Kaida K, Koga M, Kanda T, Mori M, Kuwabara S, Katsuno M:

RECIPE: a phase II randomized controlled trial of rituximab for refractory CIDP with IgG4 autoantibodies. 2019 Peripheral Nerve Society Annual Meeting, Genoa, 7,27-30, 2019.

島崎千尋

1) 淵田 真一, 井出 大輔, 民西 葉子, 松井 紗央梨, 岡野 晃, 初瀬 真弓, 村頭 智, 島崎 千尋: 当院におけるALアミロイドーシス84例に対する治療の後方視的検討. 第81回日本血液学会学術集会, 東京, 10,11-13, 2019.

2) 淵田 真一, 井出 大輔, 松井 紗央梨, 初瀬 真弓, 村頭 智, 島崎 千尋: ALアミロイドーシスにおける骨髓形質細胞割合が生存に与える影響. 第7回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

飯田真介

1) Kanamori T, Sanada M, Ri M, Ueno H, Nishijima D, Yasuda T, Aoki S, Asano A, Tachita T, Kinoshita S, Narita T, Ito A, Kusumoto S, Masuda Y, Kobayashi N, Shiozawa Y, Yoshida K, Nakagawa M, Nannya Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Komatsu H, Miyano S, Handa H, Ogawa S, Iida S: Comprehensive genetic analysis of multiple myeloma in Japan. #Poster 1367, 24th. Congress of European Hematology Association, Amsterdam, Netherland, June 13-16, 2019.

2) Ri M, Iida S, Maruyama D, Saito K, Saito Y, Osaga S, Tohkin M, Miyata N, Tobinai K, Fukuhara N, Miyazaki K, Minami Y, Tsukamoto N, Tsujimura H, Yoshimitsu M, Miyamoto K, Tsukasaki K, Nagai H: Lipidomic profiling of plasma samples in patients with newly diagnosed multiple myeloma; a biomarker study for predicting the response and toxicity of melphalan, prednisolone, and bortezomib (MPB) regimen: an ancillary study of JCOG1105 (JCOG1105A1). #Poster 3156, 61st. Annual Meeting of American Society of Hematology, Orlando, Florida, USA, Dec 7-10, 2019.

植田光晴

1) 植田 光晴: 遺伝性トランスサイレチン型アミロイドーシスの病態と治療. シンポジウム「遺伝性ニューロパチー診断と治療の最前線」, 第60回

日本神経学会学術大会, 大阪, 5, 25, 2019.

2) Ueda M: Genetic testing & biopsy for definitive diagnosis of ATTR-PN. *1st Korea ATTR Symposium*, July 6, 2019, Seoul, Korea (Invitational Lecture, symposium)

3) 遠藤 芳徳, 長谷川 一浩, 野村 寮, 有島 英孝, 菊田 健一郎, 山下 太郎, 井上 泰輝, 植田 光晴, 安東 由喜雄, Mark R.Wilson, 濱野 忠則, 中本 安成, 内木 宏延: 脳アミロイドアンギオパチーを抑制する細胞外シャペロン-In vitro モデルからの提案 (アミロイド基礎科学の新展開). 第7回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

4) 植田 光晴: 遺伝性 ATTR アミロイドーシスの病態解析と siRNA 治療の可能性. 教育講演「遺伝性 ATTR アミロイドーシスの Cutting Edge」, 第7回日本アミロイドーシス研究会, 東京, 8, 30, 2019.

小野賢二郎

1) Ono K, Yasumoto T, Takamura Y, Tsuji M, Watanabe-Nakayama T, Imamura K, Inoue H, Nakamura S, Inoue T, Kimura A, Yano S, Nishijo H, Kiuchi Y, Teplow DB: High molecular weight amyloid β_{1-42} oligomers induce neurotoxicity via plasma membrane damage. The Protein Aggregation Conference: From Structure to In Vivo Sequelae, Snowmass Village, Colorado, June 9-14, 2019.

2) Ono K, Shozawa H, Oguchi T, Tsuji M, Yano S, Kiuchi Y: Supratherapeutic concentrations of cilostazol inhibits β -amyloid oligomerization in vitro. Alzheimer's Association International Conference 2019(AAIC), Los Angeles, July 14-18, 2019.

3) 小野 賢二郎: 原子間力顕微鏡および電子顕微鏡によるアミロイド構成蛋白質凝集の観察. 医学生物学電子顕微鏡技術学会第35回学術講演会, 名古屋, 5,10-12, 2019.

4) 黒田 岳志, 小菅 将太, 小口 達敬, 森友 紀子, 二村 明德, 杉本 あずさ, 矢野 怜, 金野 竜太, 村上 秀友, 小野 賢二郎: アルツハイマー病における脳小血管病と脳脊髄液循環障害の関連について. 第60回日本神経学会学術大会, 大阪, 5,22-25, 2019.

5) 小野 賢二郎: シヌクレイノパチーの病態に基づいた疾患修飾へのアプローチ. 第37回日本神経治療学会, 横浜, 11,5-7, 2019.

6) 野元 祥平, 金野 竜太, 森友 紀子, 二村 明德, 杉本 あずさ, 黒田 岳志, 矢野 怜, 村上 秀友, 落合 裕隆, 小風 暁, 小野 賢二郎: アルツハイマー型認知症, 軽度認知障害における甲状腺機能と脳血流量の関連の検討. 第38回日本認知症学会学術集会, 東京, 11,7-9, 2019.

7) 安本 太郎, 高村 雄策, 辻 まゆみ, 中山 隆宏, 今村 恵子, 井上 治久, 中村 史朗, 井上 富雄, 木村 篤史, 矢野 怜, 西条 寿夫, 木内 祐二, デービッド・テプロフ, 小野賢二郎: 高分子 A オリゴマーは細胞膜傷害を介して神経細胞毒性を発揮する. 第39回日本認知症学会学術集会, 東京, 11,7-9, 2019.

8) 小野 賢二郎: 認知症に挑む. 日本情動学会第9回大会, 東京, 12,14-15, 2019.

関島良樹

1) 関島 良樹: 遺伝性 ATTR (ATTRv) アミロイドーシス治療の現状と課題. 第60回日本神経学会学術大会, 京都, 5, 22-25, 2019.

2) 関島 良樹: 遺伝性神経疾患の発症前診断と遺伝カウンセリング. 第60回日本神経学会学術大会, 京都, 5, 22-25, 2019.

3) 関島 良樹: 全内科横断的疾患”アミロイドーシス”の診断と治療の最前線-全身性アミロイドーシスからアルツハイマー病まで-, 第144回信越地方会, 松本, 6,2, 2019.

4) 関島 良樹: 脳神経内科疾患の治療の現状と今後の展望 - 認知症を中心に -. 浅間南麓こもろ医療センター医学会, 小諸, 6,21, 2019.

5) 関島 良樹: 遺伝性神経疾患の発症前診断と遺伝カウンセリング~家族性アミロイドポリニューロパチーを中心に~, 臨床遺伝 2019 in Sapporo, 札幌, 8,2-4, 2019.

6) 関島 良樹: 全身性アミロイドーシスの最近の話題-野生型 ATTR アミロイドーシスを中心に-, 第7回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

7) 関島 良樹: 不治の病から治療可能な疾患に—アミロイドーシス治療の最前線—. 第72回日本自

律神経学会総会, 博多, 11,2-3, 2019.

8) 関島 良樹: アミロイドーシスの診断と治療 update—ガイドラインとその先の展望—. 第 37 回日本神経治療学会学術集会, 横浜, 11,5-7, 2019.

9) 関島 良樹: 進歩を遂げた遺伝性 ATTR アミロイドーシス/FAP 治療-siRNA 製剤の可能性-. 第 37 回日本神経治療学会学術集会, 横浜, 11,5-7, 2019.

10) 小平 農, 大橋 信彦, 森田 洋, 関島 良樹: FAP 患者における体幹部長さ依存性 A δ 線維機能障害と四肢末梢神経障害との関連. 第 60 回日本神経学会学術大会, 京都, 5, 22-25, 2019.

11) Yoshinaga T, Yazaki M, Abe R, Takasone K, Takahashi Y, Katoh N, Kametani F, Sekijima Y. Utility of LMD and LC-MS/MS for immunostaining negative cases in diagnosis of amyloidosis. 第 60 回日本神経学会学術大会, 京都, 5, 22-25, 2019.

12) Katoh N, Ueno A, Ohashi N, Kodaira M: Bortezomib neuropathy: clinical and electrophysiological features and its predictive factor. 第 60 回日本神経学会学術大会, 京都, 5, 22-25, 2019.

13) 大橋 信彦, 小平 農, 森田 洋, 関島 良樹: 電気生理学的脱髄所見を呈する ATTR-FAP と DADS 型 CIDP の差. 第 30 回日本末梢神経学会学術集会, 金沢, 8,23-24, 2019.

14) 春日 一希, 高曽根 健, 大橋 信彦, 加藤 修明, 関島 良樹: AH アミロイドーシスによるアミロイドニューロパチー. 第 30 回日本末梢神経学会学術集会, 金沢, 8,23-24, 2019.

15) 高曽根 健, 高橋 佑介, 阿部 隆太, 小口 和浩, 吉長 恒明, 加藤 修明, 矢崎 正英, 関島 良樹: ^{99m}Tc-Pyp と C-PiB PET を用いた非侵襲的な心アミロイドーシス診断法の確立. 第 7 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

16) 中尾 聡, 宮崎 大吾, 吉長 恒明, 矢崎 正英, 関島 良樹: ATTR 型脳軟膜アミロイドーシス/脳アミロイドアンギオパチーの臨床的特徴. 第 7 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

17) 高橋 佑介, 高曽根 健, 阿部 隆太, 吉長 恒明, 加藤 修明, 小口 和浩, 矢崎 正英, 関島 良樹: V30M 型 ATTR アミロイドーシス患者での脳アミロイドーシスの PiB-PET を用いた経時的変化の検

討. 第 7 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

18) 吉長 恒明, 高曽根 健, 高橋 佑介, 阿部 隆太, 中川 真優子, 加藤 修明, 矢崎 正英, 関島 良樹: アミロイドーシスタイピング依頼例における陰性例の要因検討. 第 7 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

19) 阿部 隆太, 吉長 恒明, 加藤 修明, 矢崎 正英, 亀谷 富由樹, 関島 良樹: 本邦の単一アミロイドーシス診断センターにおける連続 729 例のアミロイドーシス診断実績. 第 7 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

20) 亀谷 富由樹, 吉長 恒明, 矢崎 正英, 関島 良樹: Amyloid Interactome. 第 7 回日本アミロイドーシス学会学術集会. 東京, 8,30, 2019.

21) 中川 真優子, 矢崎 正英, 吉長 恒明, 関島 良樹, 亀谷 富由樹: 遺伝性 ATTR アミロイドーシス患者の心筋・末梢神経における沈着アミロイド蛋白の臓器内多様性の検討. 第 7 回日本アミロイドーシス学会学術集会, 東京, 8,30, 2019.

田原宣広

1) 渡邊 真之, 本多 亮博, 田原 宣広, 平方 佐季, 熊埜御堂 淳, 高瀬 文敬, 庄嶋 賢弘, 大塚 昌紀, 田中 啓之, 福本 義弘: 大動脈四尖弁の診断に 3D 経食道心エコーが有用であった一例. 第 324 回内科学会九州地方会, 福岡, 1,12, 2019.

2) 戸次 宗久, 田原 宣広, 仲吉 孝晴, 中村 知久, 枚山 陽一, 孫 佳慧, 本多 亮博, 井田 幸代, 田原 敦子, 野口 哲夫, 福本 義弘: 冠動脈プラークにおける FDG-PET と非造影 T1 強調 MR 画像の比較. 第 29 回日本心血管画像動態学会, シンポジウム: 冠動脈疾患における分子イメージング, 久留米, 1,25-26, 2019.

3) 田原 宣広, 戸次 宗久, 田原 敦子, 新田 良和, 本多 亮博, 井形 幸代, 枚山 陽一, 前田 詔子, 孫 佳慧, 中村 知久, 仲吉 孝晴, 福本 義弘, 上野 高史: 冠動脈病変における炎症活動性評価 - FDG-PET/CT を用いた検討 -. 第 29 回日本心血管画像動態学会・第 88 回日本心臓血管放射線研究会, 合同シンポジウム: 循環器画像診断の新たな展開, 久留米, 1,25-26, 2019.

4) 本多 亮博, 田原 宣広, 田原 敦子, 戸次 宗久,

- 中村 知久, 枚山 陽一, 新田 良和, 福本 義弘: 高血圧治療が、脳細胞の神経活動性におよぼす効果の解明 ~ 脳FDG-PETと脳血流SPECTによる検討 ~. 第11回福岡県医学会総会, 福岡, 2, 3, 2019.
- 5) 戸次 宗久, 田原 宣広, 田原 敦子, 枚山 陽一, 緒方 詔子, 本多 亮博, 井形 幸代, 中村 知久, 孫 佳慧, 山岸 昌一, 福本義弘: Switching DPP-4 Inhibitors to Tofogliflozin, a Selective Inhibitor of SGLT2 Improves Arterial Stiffness Evaluated by CAVI in Patients with Diabetes. 第83回日本循環器学会学術集会, 横浜, 3, 29-31, 2019.
- 6) 田原 宣広: 心不全診療における分子イメージングの有用性. 第83回日本循環器学会学術集会, ランチョンセミナー13 慢性心不全診療における画像モダリティの活用, 横浜, 3, 29-31, 2019.
- 7) Kaida H, Tahara N, Hanaoka K, Yamada M, Matsukubo Y, Im SW, Yagyu Y, Kozuka T, Hosono M, Ishii K: The usefulness ¹⁸F-FDG PET/CT for the diagnosis of large vessel vasculitis. The 78th Annual meeting of the Japanese Radiological Society, Symposium, Yokohama, 4, 11-14, 2019.
- 8) 田原 宣広, 戸次 宗久, 田原 敦子, 緒方 詔子, 枚山 陽一, 本多 亮博, 井形 幸代, 孫 佳慧, 福本 義弘: FDG-PET を用いて血管炎症を可視化する. 第8回臨床高血圧フォーラム, 教育講演 3: 血管炎, 久留米, 5, 11-12, 2019.
- 9) 枚山 陽一, 田原 宣広, 戸次 宗久, 緒方 詔子, 本多 亮博, 孫 佳慧, 井形 幸代, 田原 敦子, 福本 義弘: 久留米大学の肺高血圧症長期予後成績. 第19回日本NO学会学術集会, 久留米, 6, 14-15, 2019.
- 10) 緒方 詔子, 田原 宣広, 田原 敦子, 本多 亮博, 枚山 陽一, 戸次 宗久, 福本 義弘: 負荷後120分後血糖および血清色素上皮由来因子レベルは2型糖尿病患者における冠動脈炎症のマーカーである. 第19回日本NO学会学術集会, 久留米, 6, 14-15, 2019.
- 11) 本多 亮博, 田原 宣広, 田原 敦子, 戸次 宗久, 緒方 詔子, 枚山 陽一, 新田 良和, 井形 幸代, 福本 義弘: 高血圧治療が血管内皮、血管炎症、血圧変動にもたらす多面的作用について. 第19回日本NO学会学術集会, 久留米, 6, 14-15, 2019.
- 12) 戸次 宗久, 田原 宣広, 仲吉 孝晴, 枚山 陽一, 緒方 詔子, 本多 亮博, 田原 敦子, 野口 輝夫, 上野 高史, 福本 義弘: 冠動脈プラークにおけるFDG-PET と非造影 T1 強調 MR 画像の比較. 第19回日本NO学会学術集会, 久留米, 6, 14-15, 2019.
- 13) 田原 宣広: 最新のガイドラインからみた肺動脈性肺高血圧症治療について. 第19回日本NO学会学術集会, ランチョンセミナー2, 久留米, 6, 14-15, 2019.
- 14) 田原 宣広: 心アミロイドーシス最新の話. 第32回21世紀カンファレンス, 福岡, 6, 15, 2019.
- 15) 香月 太郎, 枚山 陽一, 戸次 宗久, 中村 知久, 本多 亮博, 緒方 詔子, 孫 佳慧, 田原 敦子, 田原 宣広, 福本 義弘: ポスチニブにより発症した Combined pre- and post- capillary PH. 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 浜松, 6, 21-22, 2019.
- 16) 大串 良, 枚山 陽一, 戸次 宗久, 中村 知久, 本多 亮博, 緒方 詔子, 孫 佳慧, 田原 敦子, 田原 宣広, 福本 義弘: 気管支拡張薬が著効した COPD 併発の肺動脈性肺高血圧症の一例. 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 浜松, 6, 21-22, 2019.
- 17) 枚山 陽一, 田原 宣広, 戸次 宗久, 中村 知久, 本多 亮博, 孫 佳慧, 井形 幸代, 田原 敦子, 福本 義弘: 当院における特発性肺動脈性肺高血圧症の予後と予後リスク因子. 第4回日本肺高血圧・肺循環学会学術集会, 浜松, 6, 21-22, 2019.
- 18) 大地 祐輔, 枚山 陽一, 田原 宣広, 戸次 宗久, 本多 亮博, 緒方 詔子, 田原 敦子, 孫 佳慧, 井形 幸代, 下園 弘達, 西田 憲史, 堀 賢介, 大塚 昌紀, 福本 義弘: 頻回に肺泡出血をきたした薬剤誘発性肺動脈性肺高血圧症. 第123回日本循環器学会九州地方会, 宮崎, 6, 29, 2019.
- 19) 枚山 陽一, 田原 宣広, 戸次 宗久, 本多 亮博, 緒方 詔子, 孫 佳慧, 井形 幸代, 田原 敦子, 福本 義弘: 当院における肺高血圧症の右心機能と生命予後. 第123回日本循環器学会九州地方会, 宮崎, 6, 29, 2019.
- 20) 田原 宣広, 戸次 宗久, 枚山 陽一, 緒方 詔子, 孫 佳慧, 本多 亮博, 井形 幸代, 田原 敦子, 福本 義弘: PET による不安定プラークイメージング. 第67回日本心臓病学会学術集会, 日本心臓核医学-日本心臓病学会ジョイントシンポジウム: 不安定プラークの多角的イメージングと未来, 名古屋, 9, 13-15, 2019.
- 21) 田原 宣広, 枚山 陽一, 中村 知久, 戸次

- 宗久, 田原 敦子, 緒方 詔子, 孫 佳慧, 本多 亮博, 井形 幸代, 福本 義弘: 肺高血圧治療の現状・未来. 第 67 回日本心臓病学会学術集会, シンポジウム: 肺高血圧症の最新治療, 名古屋, 9, 13-15, 2019.
- 22) Sugiyama Y, Tahara N, Bekki M, Tahara A, Honda A, Ogata-Maeda S, Sun J, Igata S, Fukumoto Y: Long-term Survival of Patients with Pre-capillary Pulmonary Hypertension at Japanese Single Center. The Sixteenth International Conference on Endothelin, Kobe, 9, 22-25, 2019.
- 23) 本多 亮博, 田原 宣広, 田原 敦子, 戸次 宗久, 緒方 詔子, 杵山 陽一, 庄嶋 賢弘, 黒松 亮子, 田中 啓之, 福本 義弘: マルチモダリティ検査により評価できた超高齢者の卵円孔開存症を合併した大動脈四尖弁の一例. 日本超音波医学会第 29 回九州地方会学術集会, 北九州, 10, 6, 2019.
- 24) 田原 宣広, 田原 敦子, 本多 亮博, 井形 幸代, 戸次 宗久, 杵山 陽一, 緒方 詔子, 福本 義弘: 分子イメージングによる感染性心内膜炎の診断. 第 10 回日本心臓弁膜症学会, シンポジウム: 「弁膜症治療の New Wave」マルチモダリティの New Wave, 東京, 11, 29-30, 2019.
- 25) 松山 裕敬, 杵山 陽一, 戸次 宗久, 野原 正一郎, 知花 英俊, 本多 亮博, 平方 佐季, 大塚 昌紀, 田原 宣広, 福本 義弘: 遮断薬中止が著効した肺動脈性肺高血圧症の一例. 第 127 回日本循環器学会九州地方会, 久留米, 12, 7, 2019.
- 26) 森田 浩介, 本多 亮博, 庄嶋 賢弘, 仲吉 孝晴, 田原 敦子, 戸次 宗久, 緒方 詔子, 杵山 陽一, 田原 宣広, 田中 啓之, 福本 義弘: マルチモダリティ検査により先天性巨大右房憩室を診断し、外科的治療となった一例. 第 127 回日本循環器学会九州地方会, 久留米, 12, 7, 2019.
- 27) 本多 亮博, 平方 佐季, 高木 数実, 熊埜御堂 淳, 緒方 詔子, 戸次 宗久, 田原 敦子, 杵山 陽一, 田原 宣広, 田中 啓之, 福本 義弘: 先端巨大症に合併した僧帽弁閉鎖不全症に対して、僧帽弁形成術を行った一例. 第 127 回日本循環器学会九州地方会, 久留米, 12, 7, 2019.
- 28) 戸次 宗久, 田原 宣広, 仲吉 孝晴, 杵山 陽一, 緒方 詔子, 本多 亮博, 田原 敦子, 野口 輝夫, 上野 高史, 福本 義弘: 非造影 T1 強調 MRI と FDG-PET を比較できた冠動脈疾患の 2 症例. 第 127 回日本循環器学会九州地方会, 久留米, 12, 7, 2019.
- 29) 杵山 陽一, 田原 宣広, 戸次 宗久, 本多 亮博, 緒方 詔子, 孫 佳慧, 井形 幸代, 田原 敦子, 川口 巧, 黒松 亮子, 鳥村 拓司, 福本 義弘: 肺高血圧症における肝硬度の有用性. 第 127 回日本循環器学会九州地方会, 久留米, 12, 7, 2019.
- 30) 緒方 詔子, 戸次 宗久, 本多 亮博, 田原 敦子, 杵山 陽一, 板家 直樹, 田原 宣広, 福本 義弘: 肥大型心筋症との鑑別が困難であったトランスサイレチンアミロイドーシス症例. 第 127 回日本循環器学会九州地方会, 久留米, 12, 7, 2019.
- 31) 田原 宣広: MRI による右心機能の評価. 第 127 回日本循環器学会九州地方会, 外科・内科連携セッション, シンポジウム: 三尖弁閉鎖不全に対する治療戦略と右心機能の評価, 久留米, 12, 7, 2019.
- 32) 田原 宣広: 最新のガイドラインからみた肺動脈性肺高血圧症治療について. 第 127 回日本循環器学会九州地方会, ティータイムセミナー-1, 久留米, 12, 7, 2019.
- 33) 田原 宣広, 田原 敦子, 本多 亮博, 井形 幸代, 戸次 宗久, 杵山 陽一, 緒方 詔子, 福本 義弘: ストレスに関連する脳神経活性の評価. 脳心血管抗加齢研究会 2019, CCVAA シンポジウム 1: 加齢に関連した脳心血管疾患におけるトピックス, 東京, 12, 20-21, 2019.
- H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)
1. 特許取得
安東由喜雄
- 1) 発明の名称: 新規なアミロイド線維生成抑制剤
整理番号: 14049US14 (米国)
出願番号: 15/580630
出願年月日: 2016/06/10
権利者(発明者): 安東由喜雄
- 2) 発明の名称: 抗トランスサイレチンヒト化抗体
整理番号: 13020EP09 (米国)
出願番号: 15743230.3
出願日: 2015/01/23
権利者(発明者): 安東由喜雄
- 3) 発明の名称: 抗トランスサイレチンヒト化抗体
整理番号: 6517156
出願番号: 2015-559913

出願日：2015/01/23

取得年月日：2019/4/26

権利者(発明者): 鳥飼正治, 細井亜樹彦, 竹尾智予, 上野真代, 副島見事, 中島敏博, 安東由喜雄, 城野博史, 蘇宇, 水口峰之

2. 実用新案登録
なし。

3. その他
なし。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
玉岡晃	Alzheimer 病	岡庭豊, 荒瀬康司, 三角和雄	イヤーノート TOPICS 2020-2021 内科・外科疾患 第10版	MEDIC MEDIA	東京	2020	J10-J16
玉岡晃	抗てんかん薬, パーキンソン病 / 症候群治療薬, 脳循環代謝改善薬, 筋弛緩薬, 自律神経作用薬, 抗めまい薬, 片頭痛治療薬, その他の神経系用薬	高久史磨, 矢崎義雄監修, 北原光夫, 上野文昭, 越前宏俊	治療薬マニュアル 2019	医学書院	東京	2020	287-446
玉岡晃	認知症治療薬	福井次矢監修, 小松康宏, 渡邊裕司	Pocket Drugs 2020	医学書院	東京	2020	91-92
玉岡晃	検体検査(血液, 脳脊髄液)	黒岩義之	新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進 7 疾病と治療 4 脳・神経	メヂカルフレンド社		2019	98-104
玉岡晃	一般内科疾患に伴う神経・筋障害	黒岩義之	新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進 7 疾病と治療 4 脳・神経	メヂカルフレンド社		2019	275-284
玉岡晃	神経系の先天奇形・形成障害	黒岩義之	新体系看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進 7 疾病と治療 4 脳・神経	メヂカルフレンド社		2019	285-288
玉岡晃	検体検査(血液, 脳脊髄液)	黒岩義之, 宗村美江子	新体系看護学全書 成人看護学 6 脳・神経	メヂカルフレンド社		2019	108-114
玉岡晃	一般内科疾患に伴う神経・筋障害	黒岩義之, 宗村美江子	新体系看護学全書 成人看護学 6 脳・神経	メヂカルフレンド社		2019	285-294
玉岡晃	神経系の先天奇形・形成障害	黒岩義之, 宗村美江子	新体系看護学全書 成人看護学 6 脳・神経	メヂカルフレンド社		2019	295-298
玉岡晃	Alzheimer 病	岡庭豊, 荒瀬康司, 三角和雄	イヤーノート TOPICS 2019-2020 内科・外科疾患 第9版	MEDIC MEDIA	東京	2019	J9-J15
玉岡晃	認知症治療薬	福井次矢監修, 小松康宏, 渡邊裕司	Pocket Drugs 2019	医学書院	東京	2019	90-91
石井亜紀子, 玉岡晃	第11章 神経・筋の疾患「脳血管疾患」	寺田弘, 金保安則, 原晃	Common Disease の病態生理と薬物治療	オーム社	東京	2019	279-283

石井一弘, 玉岡晃	第11章 神経・筋の疾患「てんかん」	寺田弘, 金保安則, 原晃	Common Disease の病態生理と薬物治療	オーム社	東京	2019	288-294
中馬越清隆, 玉岡晃	第11章 神経・筋の疾患「パーキンソン病」	寺田弘, 金保安則, 原晃	Common Disease の病態生理と薬物治療	オーム社	東京	2019	301-305
玉岡晃	第11章 神経・筋の疾患「アルツハイマー型認知症」	寺田弘, 金保安則, 原晃	Common Disease の病態生理と薬物治療	オーム社	東京	2019	310-316
富所康志, 玉岡晃	第11章 神経・筋の疾患「血管性認知症」	寺田弘, 金保安則, 原晃	Common Disease の病態生理と薬物治療	オーム社	東京	2019	319-321
Koike H	Myelopathy and neuropathy associated with alcoholism.	Preedy VR	The Neuroscience of Alcohol: Mechanisms and Treatment	Elsevier	Amsterdam	2019	195-205
小池春樹	そのしびれ、上か下か？	宮嶋裕明	神経診療をスッキリまとめました	南江堂	東京	2019	90-95
小池春樹	検査の進め方～主な疾患における検査手順の考え方～ 1.末梢神経疾患	楠進, 園生雅弘, 清水潤	末梢神経・筋疾患診断トレーニング	南江堂	東京	2019	65-70
小池春樹	診断トレーニング～症例問題と実臨床での対応～ A.末梢神経疾患 Case 13	楠進, 園生雅弘, 清水潤	末梢神経・筋疾患診断トレーニング	南江堂	東京	2019	126-129
小池春樹	代謝性ニューロパチー	南学正臣	内科学書 改訂第9版 Vol 6	中山書店	東京	2019	558-559
小池春樹	傍腫瘍性ニューロパチー	南学正臣	内科学書 改訂第9版 Vol 6	中山書店	東京	2019	564-565
小池春樹	血管炎性ニューロパチー	南学正臣	内科学書 改訂第9版 Vol 6	中山書店	東京	2019	565-566
小池春樹	Crow-Fukase (POEMS)症候群	南学正臣	内科学書 改訂第9版 Vol 6	中山書店	東京	2019	567
小池春樹	M蛋白血症を伴うニューロパチー	南学正臣	内科学書 改訂第9版 Vol 6	中山書店	東京	2019	568-569
戸谷治仁, 飯田真介	アミロイドーシス・血液専門医の視点より	腎と透析編集委員会	腎と透析 86 巻(2019年)増刊号 全身性疾患と腎 update	東京医学社	東京	2019	321-324
植田光晴	神経・筋疾患	入江徹美, 安東由喜雄, 石井伊	知っておきたい臨床検査値	東京化学同人	東京	2019	133-135

		都子, 大林光念, 木村健, 平田純生, 丸山徹					
久保田怜美, 金野竜太, 小野賢二郎	認知機能障害 .	小野賢二郎	レビー小体型認知症診療ハンドブック	フジメディカル出版	大阪	2019	41-43
黒田岳志, 小野賢二郎	自律神経症状 .	小野賢二郎	レビー小体型認知症診療ハンドブック	フジメディカル出版	大阪	2019	44-46
稗田宗太郎, 小野賢二郎	精神症状 .	小野賢二郎	レビー小体型認知症診療ハンドブック	フジメディカル出版	大阪	2019	47-49
矢野怜, 小野賢二郎	幻視 .	小野賢二郎	レビー小体型認知症診療ハンドブック	フジメディカル出版	大阪	2019	50-51
森友紀子, 小野賢二郎	幻視以外の幻覚 .	小野賢二郎	レビー小体型認知症診療ハンドブック	フジメディカル出版	大阪	2019	52-53
二村明德, 小野賢二郎	アパシー, 不安, うつ症状	小野賢二郎	レビー小体型認知症診療ハンドブック	フジメディカル出版	大阪	2019	54-55
兼元みずき, 小野賢二郎	睡眠障害 .	小野賢二郎	レビー小体型認知症診療ハンドブック	フジメディカル出版	大阪	2019	58-59
杉本あずさ, 小野賢二郎	抗精神病薬に対する過敏性 .	小野賢二郎	レビー小体型認知症診療ハンドブック	フジメディカル出版	大阪	2019	62-63
二村明德, 小野賢二郎	聴覚性失認.	小林俊輔	実践 高次脳機能障害のみかた	中外医学社	東京	2019	85-96
関島良樹	高齢者の手根管症候群〔全身性アミロイドーシス〕	宮嶋裕明	むかしの頭で診ていませんか? 神経診療をスッキリまとめました	南山堂	東京	2019	205-211
大橋信彦, 関島良樹	診断トレーニング~症例問題と実臨床での対応~末梢神経疾患 Case 11	楠進, 園生雅弘, 清水潤	脳神経内科医のための末梢神経・筋疾患診断トレーニング「電気生理×病理×画像」を読み解く 30 ケース	南山堂	東京	2019	118-120
関島良樹	脳アミロイド血管症	池田学, 岩井圭司, 兼本浩祐, 古茶大樹, 仙波純一, 西村勝治, 本田秀夫, 松尾幸治, 松永寿人, 松本俊彦, 宮岡等, 渡邊	精神科治療学 第 34 巻増刊号 知っておきたい希な精神症候・症候群—症例から学ぶ—	星和書店	東京	2019	274-276

		博幸、立森 久照					
遠藤仁、 佐野元昭	循環器疾患の近 未来治療<心不 全>「核酸医薬 による心アミロ イドーシス治 療」	小室一成	循環器内科	科学評論社	東京	2019	723-727
杵山陽一、 田原宣広、 福本義弘	一般診療医が知 っておかねばな らない肺高血圧 症.	泉孝英	ガイドライン外来診 療 2019, 専門医の 管理・治療が必要な疾 患のガイドライン, 呼 吸器疾患 2.肺高血圧 症	日経メディ カル開発	東京	2019	421-430
田原宣広	心筋シンチグラ フィ/PET.	猪又孝元	ザ・マニュアル 心不 全のセット検査, V セ ットに用いる検査項 目を理解する	株式会社メ ジカルビュ ー社	東京	2019	160-164

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Naiki H, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hoshii Y, Shimoda M, Ando Y	Human amyloidosis, still intractable but becoming curable: the essential role of pathological diagnosis in the selection of type-specific therapeutics.	Pathol Int	70(4)	191-198	2020
Muta H, So M, Sakurai K, Kardos J, Naiki H, Goto Y	Amyloid formation under complicated conditions in which β_2 -microglobulin coexists with its proteolytic fragments.	Biochemistry	58(49)	4925-4934	2019
Noji M, Sasahara K, Yamaguchi K, So M, Sakurai K, Kardos J, Naiki H, Goto Y	Heating during agitation of β_2 -microglobulin reveals that supersaturation breakdown is required for amyloid fibril formation at neutral pH.	J Biol Chem	294(43)	15826-15835	2019
Zhang C-M, Yamaguchi K, So M, Sasahara K, Ito T, Yamamoto S, Narita I, Kardos J, Naiki H, Goto, Y	Possible mechanisms of polyphosphate-induced amyloid fibril formation of β_2 -microglobulin.	Proc Natl Acad Sci U S A	116(26)	12833-12838	2019
Adams D, Ando Y, Beirão JM, Coelho T, Gertz MA, Gillmore JD, Hawkins PN, Lousada I, Suhr OB, Merlini G	Expert Consensus Recommendations to Improve Diagnosis of ATTR Amyloidosis With Polyneuropathy.	J Neurol			2020 in press
Naiki H, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hoshii Y, Shimoda M, Ando Y	Human amyloidosis, still intractable but becoming curable: the essential role of pathological diagnosis in the selection of type-specific therapeutics.	Pathol Int	70(4)	191-198	2020
Murakami T, Noguchi K, Hachiya N, Kametani F, Tasaki M, Nakaba S, Sassa Y, Yamashita T, Obayashi K, Ando Y, Hamamura M, Kanno T, Kawasaki K	Needle-shaped amyloid deposition in rat mammary gland: evidence of a novel amyloid fibril protein.	Amyloid	27(1)	25-35	2020
Nagase T, Iwaya K, Kogure K, Zako T, Misumi Y, Kikuchi M, Matsumoto K, Noritake M, Kawachi Y, Kobayashi M, Ando Y, Katsura Y	Insulin-derived amyloidosis without a palpable mass at the insulin injection site: A report of two cases.	J Diabetes Investig		ISSN: 2040-1124	2019
Dorbala S, Ando Y, Bokhari S, Dispenzieri A, Falk RH, Ferrari VA, Fontana M, Gheysens O, Gillmore JD, Glaudemans AWJM, Hanna MA,	ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/SCMR/SNMIMI Expert Consensus Recommendations for Multimodality Imaging in Cardiac Amyloidosis: Part 1 of 2-Evidence Base and Standardized Methods of Imaging.	J Card Fail	25(11)	1-39	2019

Hazenberg BPC, Kristen AV, Kwong RY, Maurer MS, Merlini G, Miller EJ, Moon JC, Murthy VL, Quarta CC, Rapezzi C, Ruberg FL, Shah SJ, Slart RHJA, Verberne HJ, Bourque JM					
Sakai K, Ueda M, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M	Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan.	J Neurol Eur	26	1487-1493	2019
Dorbala S, Ando Y, Bokhari S, Dispenzieri A, Falk RH, Ferrari VA, Fontana M, Gheysens O, Gillmore JD, Glaudemans AWJM, Hanna MA, Hazenberg BPC, Kristen AV, Kwong RY, Maurer MS, Merlini G, Miller EJ, Moon JC, Murthy VL, Quarta CC, Rapezzi C, Ruberg FL, Shah SJ, Slart RHJA, Verberne HJ, Bourque JM.	ASNC/AHA/ASE/EANM/HFSA/ISA/ SCMR/SNMMI Expert Consensus Recommendations for Multimodality Imaging in Cardiac Amyloidosis: Part 2 of 2-Diagnostic Criteria and Appropriate Utilization.	J Card Fail	25(11)	854-865	2019
Endo J, Sano M, Izumiya Y, Tsujita K, Nakamura K, Tahara N, Kuwahara K, Inomata T, Ueda M, Sekijima Y, Ando Y, Tsutsui H, Isobe M, Fukuda K.	A Statement on the Appropriate Administration of Tafamidis in Patients With Transthyretin Cardiac Amyloidosis.	Circ J	84(1)	15-17	2019
Yamashita T, Ueda M, Nomura T, Okazaki T, Okada M, Tsuda Y, Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Takamatsu K, Obayashi K, Inomata Y, Hibi T, Ando Y	Natural history and long-term effects of variant protein reduction in non-V30M ATTR amyloidosis.	Neurology	93(16)	714-716	2019
Misumi Y, Ueda M, Masuda T, Tsuda Y, Nomura T, Okada M, Inoue Y, Tasaki M, Obayashi K, Yamashita T, Ando Y	Characteristics of acquired transthyretin amyloidosis: A case series and review of the literature.	Neurology	93(17)	1587-1596	2019
Ochi Y, Kubo T, Nakashima Y, Baba Y, Hirota T, Yamasaki N, Yamashita T, Ueda M, Ando Y, Kitaoka H	Integrated diagnostic approach to wild-type transthyretin cardiac amyloidosis with the use of high-sensitivity cardiac troponin T measurement and	J Cardiol	75(1)	12-19	2019

	99mTc-pyrophosphate scintigraphy.				
Inoue Y, Ueda M, Masuda T, Misumi Y, Yamashita T, Ando Y	Memantine, a Noncompetitive N-Methyl-D-Aspartate Receptor Antagonist, Attenuates Cerebral Amyloid Angiopathy by Increasing Insulin-Degrading Enzyme Expression.	Mol Neurobiol	56(12)	8573-8588	2019
Marume K, Takashio S, Nishi M, Hirakawa K, Yamamoto M, Hanatani S, Oda S, Utsunomiya D, Shiraishi S, Ueda M, Yamashita T, Sakamoto K, Yamamoto E, Kaikita K, Izumiya Y, Yamashita Y, Ando Y, Tsujita K	Combination of Commonly Examined Parameters Is a Useful Predictor of Positive 99 mTc-Labeled Pyrophosphate Scintigraphy Findings in Elderly Patients With Suspected Transthyretin Cardiac Amyloidosis.	Circ J	83(8)	1698-1708	2019
Tasaki M, Milani P, Foli A, Verga L, Obici L, Basset M, Bozzola M, Ferraro G, Nuvolone M, Morbini P, Capello G, Ueda M, Obayashi K, Paulli M, Ando Y, Merlini G, Palladini G, Lavatelli F	Simple, reliable detection of amyloid in fat aspirates using the fluorescent dye FSB: prospective study in 206 patients.	Blood	134(3)	320-323	2019
Ueda M, Okada M, Mizuguchi M, Kluge-Beckerman B, Kanenawa K, Isoguchi A, Misumi Y, Tasaki M, Ueda A, Kanai A, Sasaki R, Masuda T, Inoue Y, Nomura T, Shinriki S, Shuto T, Kai H, Yamashita T, Matsui H, Benson MD, Ando Y	A cell-based high-throughput screening method to directly examine transthyretin amyloid fibril formation at neutral pH.	J Biol Chem	294(29)	11259-11275	2019
Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Masuda T, Ando Y	Reader response: Natural history and survival in stage 1 Val30Met transthyretin familial amyloid polyneuropathy.	Neurology	93(5)	228-229	2019
Iwaya K, Zako T, Fukunaga J, Sörgjerd KM, Ogata K, Kogure K, Kosano H, Noritake M, Maeda M, Ando Y, Katsura Y, Nagase T	Toxicity of insulin-derived amyloidosis: a case report.	BMC Endocr Disord	19(1)	61	2019
Nakase T, Yamashita T, Matsuo Y, Nomura T, Sasada K, Masuda T, Misumi Y, Takamatsu K, Oda S, Furukawa Y,	Hereditary ATTR Amyloidosis with Cardiomyopathy Caused by the Novel Variant Transthyretin Y114S (p.Y134S).	Intern Med	58(18)	2695-2698	2019

Obayashi K, Matsui H, Ando Y, Ueda M					
Sekijima Y, Ueda M, Koike H, Misawa S, Ishii T, Ando Y	Correction to: Diagnosis and management of transthyretin familial amyloid polyneuropathy in Japan: red-flag symptom clusters and treatment algorithm.	Orphanet J Rare Dis	14(1)	111	2019
Nomura T, Ueda M, Tasaki M, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Tsuda Y, Okada M, Okazaki T, Kanenawa K, Isoguchi A, Nakamura M, Obayashi K, Shinriki S, Matsui H, Yamashita T, Ando Y	New simple and quick method to analyze serum variant transthyretins: direct MALDI method for the screening of hereditary transthyretin amyloidosis.	Orphanet J Rare Dis	14(1)	116	2019
Hayashi Y, Higashi T, Motoyama K, Jono H, Ando Y, Onodera R, Arima H	Hepatocyte-Targeted Delivery of siRNA Polyplex with PEG-Modified Lactosylated Dendrimer/Cyclodextrin Conjugates for Transthyretin-Related Amyloidosis Therapy.	Biol Pharm Bull	42(10)	1679-1688	2019
Hiroi T, Mushino T, Tanaka K, Furuya Y, Hori Y, Oiwa T, Kobata H, Yamashita Y, Hosoi H, Murata S, Nishikawa A, Tamura S, Takeuchi S, Nohgawa M, Yamashita T, Ando Y, Hata H, Sonoki T	AL amyloidosis diagnosed using anti-IGLL5 antibody: a case report.	Amyloid	26	111-112	2019
Yamashita T, Ohnishi K, Ueda M, Masuda T, Inoue Y, Misumi Y, Ueda A, Obayashi K, Takeya M, Ando Y	Transthyretin amyloid-related cerebral angitis after liver transplantation.	Amyloid	26	11-12	2019
Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y	Nationwide survey of 199 patients with reactive amyloid a amyloidosis in Japan.	Amyloid	26	129	2019
Changes in nerve excitability indices in hereditary transthyretin amyloidosis.	Changes in nerve excitability indices in hereditary transthyretin amyloidosis.	Amyloid	26	9-10	2019
Yamaguchi I, Kokubo Y, Yamashita T, Ueda M, Okoshi T, Matsumine A, Ando Y, Naiki H	Class I small leucine-rich proteoglycans (SLRPs) colocalise with the A β 2M amyloid deposits: implications for the roles of SLRP core proteins in the pathogenesis of dialysis-related amyloidosis.	Amyloid	26	140-141	2019

Kanenawa K, Ueda M, Isoguchi A, Nomura T, Tsuda Y, Masuda T, Misumi Y, Yamashita T, Ando Y	Histopathological and biochemical analyses of prostate corpora amyloacea.	Amyloid	26	160-161	2019
Ando Y, Ueda M, Jono H	Introduction.	Amyloid	26	1-3	2019
Obayashi K, Masuda T, Tasaki M, Ando Y, Ueda M	Evaluation of myoelectrical activities of descending colon by electrointestinogram in patients with ATTRm amyloidosis.	Amyloid	26	66	2019
Obayashi K, Masuda T, Tasaki M, Ando Y, Ueda M	Serum diacron-reactive oxygen metabolites (d-ROMs) and biological antioxidant potential (BAP) in patients with ATTR-PN.	Amyloid	26	65	2019
Nagase T, Iwaya K, Zako T, Odaka T, Kogure K, Nemoto Y, Misumi Y, Noritake M, Ando Y, Katsura Y	Clinical and MRI characteristics and follow-up studies of insulin-derived amyloidosis.	Amyloid	26	156-157	2019
Oda S, Nakaura T, Utsunomiya D, Hirakawa K, Takashio S, Izumiya Y, Tsujita K, Kawano Y, Okuno Y, Hata H, Matsuoka M, Yamashita T, Ueda M, Ando Y, Yamashita Y	Clinical potential of dual-energy cardiac CT in cardiac amyloidosis.	Amyloid	26	91-92	2019
Masuda T, Ueda M, Misumi Y, Nomura T, Inoue Y, Isoguchi A, Kanenawa K, Tasaki M, Yamashita T, Sonoda Y, Obayashi K, Ando Y	Reduced intraepidermal nerve fibre density in patients with hereditary transthyretin amyloidosis.	Amyloid	26	79-80	2019
Ishii T, Sekijima Y, Ando Y	Patient profile with ATTR-FAP and evaluation of the safety and efficacy of tafamidis meglumine in Japan - interim analysis in post-marketing surveillance.	Amyloid	26	45-46	2019
Inoue M, Ueda M, Higashi T, Anno T, Fujisawa K, Motoyama K, Mizuguchi M, Ando Y, Jono H, Arima H	Therapeutic Potential of Polyamidoamine Dendrimer for Amyloidogenic Transthyretin Amyloidosis.	ACS Chem Neurosci	10(5)	2584-2590	2019
Tasaki M, Ueda M, Hoshii Y, Mizukami M, Matsumoto S, Nakamura M, Yamashita T, Ueda A, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Torikai T, Nomura T, Tsuda Y, Kanenawa K, Isoguchi	A novel age-related venous amyloidosis derived from EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1.	J Pathol	247(4)	444-455	2019

A, Okada M, Matsui H, Obayashi K, Ando Y					
安東 由喜雄	神経系のアミロイドーシスの最新の知見	医学のあゆみ	272	546-547	2020
一木 裕子, 安東 由喜雄	神経アミロイドーシス, 治療のめざましい進歩.	難病と在宅ケア	25	53-58	2020
山下 太郎, 植田 光晴, 安東 由喜雄	【U40世代が描く心不全診療の現状と未来-基礎研究を識り,臨床を素心深考する】心筋症 基礎編 心アミロイドーシス 治療の奏効する患者群は予測できますか? 基礎研究の見地からみた心アミロイドーシスの病態と治療	循環器ジャーナル	68	88-93	2020
安東 由喜雄, 松下博昭, 植田 光晴	神経系のアミロイドーシス ここまで進歩した治療と病態研究.	日本内科学会雑誌	108	1873-1882	2019
増田 曜章, 植田 光晴, 安東 由喜雄	検査からみる神経疾患 SUDOSCAN.	Clinical Neuroscience	37	1532-1533	2019
増田 曜章, 植田 光晴, 大林 光念, 安東 由喜雄	遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスの早期診断に有用な皮膚神経脱落の解析	ジャーナルフリー	56	264-268	2019
安東 由喜雄	むかしの頭で診ていませんか? 神経診療スッキリまとめました	臨床雑誌内科	124	2330-2330	2019
山下 太郎, 植田 光晴, 安東 由喜雄	脳神経と肝臓のクロストーク 遺伝性 ATTR 型脳アミロイド血管症と肝移植	臨床神経学	59	126	2019
安東 由喜雄, 田崎雅義	オミックス検査学における質量分析の役割-現状と展望 各種質量分析装置の特徴を活かした多角的なアミロイドーシス診断	臨床病理	67	32	2019
安東 由喜雄	【難治性ニューロパチーの新規治療】家族性アミロイドポリニューロパチー(遺伝性トランスサイレチン型アミロイドーシス)の新規治療の展望	脳神経内科	91	208-216	2019
井上 泰輝, 安東 由喜雄	【指定難病ペディア 2019】個別の指定難病 代謝・内分泌系 全身性アミロイドーシス	日本医師会雑誌	148	258-260	2019

植田 光晴, 安東 由喜雄	家族性アミロイドポリニューロパチー	ケアネット 希少疾患ライブラリー		(https://www.carenet.com/report/library/general/rare/fapp.html)	2019
三隅 洋平, 安東 由喜雄	siRNA を用いた核酸医薬品の開発状況	Medical Science Digest	45	17-20	2019
三隅 洋平, 増田 曜章, 植田 光晴, 野村 隼也, 磯口 藍斗, 井上 泰輝, 岡田 匡充, 山下 太郎, 安東 由喜雄	医原性 ATTR アミロイドーシスと遺伝性 ATTR アミロイドーシスの臨床像の比較検討	臨床神経学	59	240	2019
牧 美充, 野村 美和, 野口 悠, 池田 賢一, 渡邊 修, 増田 曜章, 安東 由喜雄, 高嶋 博	髄膜アミロイドーシスの 2 症例	臨床神経学	59	286	2019
増田 曜晴, 植田 光晴, 三隅 洋平, 野村 隼也, 磯口 藍斗, 井上 泰輝, 田崎 雅義, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄	遺伝性トランスサイレチンアミロイドーシスにおける体幹部神経障害の病態解析	臨床神経学	59	313	2019
山下 太郎, 植田 光晴, 野村 隼也, 岡崎 孝広, 岡田 匡充, 磯口 藍斗, 田崎 雅義, 津田 幸元, 井上 泰輝, 増田 曜章, 高松 孝太郎, 三隅 洋平, 大林 光念, 安東 由喜雄	野生型 ATTR アミロイドーシスにおける診断のための生検部位の検討	臨床神経学	59	313	2019
野村 隼也, 三隅 洋平, 田崎 雅義, 増田 曜章, 植田 光晴, 山下 太郎, 安東 由喜雄	遺伝性 ATTR アミロイドーシスにおける血管障害の解析	臨床神経学	59	314	2019
田崎 雅義, 植田 光晴, 大林 光念, 安東 由喜雄	EFEMP1 アミロイドの沈着頻度および至適病理学的診断法の検討	臨床病理	67	286	2019
城野 博史, 田崎 雅義, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄	臨床志向型プロテオーム研究の実践 アミロイドーシス病型診断におけるプロテオーム解析の実践	電気泳動	63	117	2019
田崎 雅義, 大林 光念, 安東 由喜雄	臨床志向型プロテオーム研究の実践 未知のアミロイド原因蛋白質も同定できる新たな質量分析診断法	電気泳動	63	118	2019

喜多 也寸志, 伊達紫, 中里 雅光, 山下太郎, 安東 由喜雄, 吉田 幸司, 寺澤 英夫, 清水 洋孝, 上原敏志	Val107ATTR 変異を認めた FAP 兄弟例	臨床神経学	59	674	2019
田崎 雅義, 植田 光晴, 星井 嘉信, 磯口 藍斗, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄	質量分析装置を用いた新規アミロイド原因蛋白質. EFEMP1 の同定	臨床化学	48	230	2019
田崎 雅義, 植田 光晴, 星井 嘉信, 磯口 藍斗, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄	質量分析装置を用いた新規アミロイド原因蛋白質. EFEMP1 の同定	臨床化学	48	285	2019
磯口 藍斗, 田崎 雅義, 植田 光晴, 星井 嘉信, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄	EFEMP1 のアミロイド線維形成能および本アミロイドの静脈細胞に与える影響	臨床化学	48	86	2019
井上 泰輝, 植田 光晴, 増田 曜章, 三隅 洋平, 山下 太郎, 安東 由喜雄	メマンチン塩酸塩はインスリン分解酵素の発現上昇を介し脳アミロイドアンギオパチーを抑制する	神経治療学	36	238	2019
柗中 智恵子, 山下 太郎, 安東 由喜雄	遺伝性 ATTR アミロイドーシス国際交流会企画・運営の評価	日本遺伝看護学会誌	18	44	2019
津田 幸元, 向野 晃弘, 村上 慶高, 増田 曜章, 中原 圭一, 中根 俊成, 安東 由喜雄	ジストニア肢位に Muscle Afferent Block(MAB)が有効であった DRPLA の一例	臨床神経学	59	552	2019
城野 博史, 田崎 雅義, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄	臨床志向型プロテオーム研究の実践 アミロイドーシス病型診断におけるプロテオーム解析の実践	電気泳動	63	117	2019
増田 曜章, 植田 光晴, 永利 知佳子, 三隅 洋平, 井上 泰輝, 野村 隼也, 山下 太郎, 大林 光念, 安東 由喜雄	トランスサイレチン型家族性アミロイドポリニューロパチーの早期診断における瞳孔機能解析の有用性	自律神経	56	xxxvi	2019
武久 康, 野田 和代, 西村 広健, 山下 太郎, 安東 由喜雄	末梢神経障害をきたした AL アミロイドーシスの 70 歳女性	臨床神経学	59	390	2019
西 慎一, 藤井 秀毅, 島崎 千尋, 植田 光晴, 安東 由喜雄, 内木 宏延	AL アミロイドーシス症例の心エコー所見と腎機能・高血圧との関連	日本腎臓学会誌	61	370	2019

三隅 洋平, 安東 由 喜雄	心筋疾患 心アミロイドーシス	医学のあゆ み	268	737-742	2019
Hamaguchi, T, Komatsu J, Sakai K, Noguchi-Shinohara M, Aoki S, Ikeuchi T, Yamada M	Cerebral hemorrhagic stroke associated with cerebral amyloid angiopathy in young adults about 3 decades after neurosurgeries in their infancy.	J Neurol Sci	399	3-5	2019
Sakai K, Ueda M, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M	Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan.	Eur J Neurol	26	1487-1493	2019
Yamada M, Hamaguchi T, Sakai K	Acquired cerebral amyloid angiopathy: an emerging concept.	Prog Mol Biol Transl Sci	168	85-95	2019
Aizawa S, Okada T, Keino-Masu K, Doan TH, Koganezawa T, Akiyama M, Tamaoka A, Masu M	Abnormal Pyramidal Decussation and Bilateral Projection of the Corticospinal Tract Axons in Mice Lacking the Heparan Sulfate Endosulfatases, Sulf1 and Sulf2.	Front Mol Neurosci	12	333	2020
Nishizawa M, Onodera O, Hirakawa A, Shimizu Y, Yamada M; Rovatiirelin Study Group	Effect of rovatirelin in patients with cerebellar ataxia: two randomised double-blind placebo-controlled phase 3 trials.	J Neurol Neurosurg Psychiatry	10	1136	2020
Tamaoka A	Current Clinical Trials in the Treatment of Alzheimer's Disease.	Brain and Nerve	72(1)	23-34	2020
Shioya A, Takuma H, Takahashi T, Ishii A, Aoki M, Tamaoka A	Radiological findings in siblings with dysferlin mutation with diverse phenotype.	J Neurol Sci	409	116579	2020
Ishii K, Yamamoto F, Homma S, Okada Y, Nakamichi K, Saijo M, Tamaoka A	Probable progressive multifocal leukoencephalopathy-immune reconstitution inflammatory syndrome with immunosuppressant dose reduction following lung transplantation: a case report and literature review.	BMC Neurol	19(1)	263-269	2019
Ishii A, Nohara S, Yamamoto F, Tsuji H, Yatsuga S, Koga Y, Tamaoka A	Potentially confounding variables of mitochondria biomarker GDF-15.	Neuromusc Disord	29(S1)	S56	2019
Hosoi T, Ishii K, Tozaka N, Kishida D, Sekijima Y, Tamaoka A	Familial Mediterranean Fever is Important in the Differential Diagnosis of Recurrent Aseptic Meningitis in Japan.	Intern Med	59(1)	125-128	2020
Hosaka T, Nakamagoe K, Tozaka N, Aizawa S, Tamaoka A	Steroid pulse therapy of radiological disease activity without clinical relapse in CLIPPERS.	Neurol Sci	41(3)	709-711	2020

Nohara S, Ishii A, Yamamoto F, Yanagiha K, Moriyama T, Tozaka N, Miyake Z, Yatsuga S, Koga Y, Hosaka T, Terada M, Yamaguchi T, Aizawa S, Mamada N, Tsuji H, Tomidokoro Y, Nakamagoe K, Ishii K, Watanabe M, Tamaoka A	GDF-15, a mitochondrial disease biomarker, is associated with the severity of multiple sclerosis.	J Neurol Sci	405	116429	2019
Shioya A, Mashiko R, Shiigai M, Nakai Y, Takahashi N, Kobayashi H, Irie T, Tamaoka A	Dural Sinus Thrombosis with Nonsymptomatic Persistent Falcine Sinus: A Case Report.	J Stroke Cerebrovasc Dis	28(11)	104309	2019
Miyake Z, Tomidokoro Y, Nohara S, Tamaoka A	Chronic myelitis associated with zoster sine herpette: A case report.	Medicine (Baltimore)	98(32)	E16671	2019
Shiraishi H, Yamada K, Oki E, Ishige M, Fukao T, Hamada Y, Sakai N, Ochi F, Watanabe A, Kawakami S, Kuzume K, Watanabe K, Sameshima K, Nakamagoe K, Tamaoka A, Asahina N, Yokoshiki S, Miyakoshi T, Oba K, Isoe T, Hayashi H, Yamaguchi S, Sato N	Open-label clinical trial of bezafibrate treatment in patients with fatty acid oxidation disorders in Japan; 2nd report QOL survey.	Mol Genet Metab Rep	20	100496	2019
Tomono T, Hirai Y, Chono H, Mineno J, Ishii A, Onodera M, Tamaoka A, Okada T	Infectivity assessment of recombinant adeno-associated virus (rAAV) and wild-type AAV (wtAAV) exposed to various diluents and environmental conditions.	Hum Gene Ther Methods	30(4)	137-143	2019
Hosaka T, Yamashita T, Tamaoka A, Kwak S	Extracellular RNAs as Biomarkers of Sporadic Amyotrophic Lateral Sclerosis and Other Neurodegenerative Diseases.	Int J Mol Sci	20(13)	E3148	2019
Sakai K, Ueda M, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M	Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan.	Eur J Neurol	26(12)	1487-1493	2019
Taniguchi K, Yamamoto F, Arai T, Yang J, Sakai Y, Itoh M, Mamada N, Sekiguchi M, Yamada D, Saitoh A, Kametani F, Tamaoka A, Araki YM, Wada K, Mizusawa H, Araki W	Tyrosol Reduces Amyloid- β Oligomer Neurotoxicity and Alleviates Synaptic, Oxidative, and Cognitive Disturbances in Alzheimer's Disease Model Mice.	J Alzheimers Dis	70(3)	937-952	2019

Nakamagoe K, Yamada S, Kawakami R, Koganezawa T, Tamaoka A	Abnormal Saccadic Intrusions with Alzheimer's Disease in Darkness.	Curr Alzheimer Res	16(4)	293-301	2019
Miyake Z, Tomidokoro Y, Tsurubuchi T, Matsumura A, Sakamoto N, Noguchi M, Tamaoka A	Intravascular large B-cell lymphoma presenting with hearing loss and dizziness: A case report.	Medicine (Baltimore)	98(7)	E14470	2019
Nohara S, Tsuji H, Tamaoka A	Alien leg phenomenon in corticobasal syndrome.	J Clin Neurosci	64	254-255	2019
玉岡晃	アルツハイマー病 - 臨床試験の現状と展望 .	BRAIN and NERVE	72(1)	23-34	2020
玉岡晃	認知症の発症予防の現状 .	MEDECAL REHABILITATION	241	1-5	2019
寺田真, 玉岡晃	シヌクレインのプリオン様作用	医学のあゆみ	271(7)	668-670	2019
玉岡晃	抗アミロイド 抗体療法の現況	Neurodiem	-	-	2019
森山哲也, 山本詞子, 石井一弘, 玉岡晃	水頭症を呈したサイコイドーシス .	日本医事新報	4976	10-11	2019
森山哲也, 渡邊雅彦, 玉岡晃	パーキンソニズムを呈した硬膜動静脈瘻	日本医事新報	4966	8-10	2019
玉岡晃	アルツハイマー病	CLINICAL NEUROSCIENCE	37(7)	851-853	2019
玉岡晃	脂質異常症	Geriatric Medicine	57(4)	335-338	2019
森山哲也, 中馬越清隆, 玉岡晃	バセドウ病を合併し、抗 CCP 抗体が陽性であった無菌性髄膜炎	日本医事新報	4949	10-11	2019
Toriu N, Sawa N, Hiramatsu R, Mizuno H, Ikuma D, Sekine A, Hayami N, Sumida K, Yamanouchi M, Hasegawa E, Hoshino	Regression of renal amyloid deposits by VAD therapy plus autologous stem cell transplantation in a patient with primary AL amyloidosis.	CEN Case Reports	9	6-10	2020

J, Takaichi K, Wake A, Ohashi K, Fujii T, Ubara Y					
Nishi S, Yamamoto S, Hoshino J, Takaichi K, Naiki H	The features of bone articular lesions in dialysis-related amyloidosis (DRA) and criteria for the clinical diagnosis of DRA.	Renal Replacement Therapy	5(10)	1-8	2019
Takase H, Tanaka M, Nakamura Y, Morita S, Yamada T, Mukai T	Effects of lipid composition on the structural properties of human serum amyloid A in reconstituted high-density lipoprotein particles.	Chem Phys Lipids	221	8-14	2019
Kotani K, Yamada S, Takahashi H, Iwazu Y, Yamada T	The ratio of oxidized lipoprotein(a) to native Lipoprotein(a) and the endothelial function in patients with type 2 diabetes mellitus.	Int J Mol Sci	20(19)		2019
若松弘之、築瀬直穂、美、日高裕介、鯉淵晴美、岩津好隆、山本さやか、谷口信行、山田俊幸	免疫固定電気泳動法システムでのIgA型M蛋白の軽鎖同定における問題点。	臨床病理	67	675-678	2019
Yashiro M, Ohya M, Mima T, Nakashima Y, Kawakami K, Yamamoto S, Kobayashi S, Yano T, Tanaka Y, Sonou T, Tatsuta K, Negi S, Shigematsu T	Active vitamin D and vitamin D analogs stimulate fibroblast growth factor 23 production in osteocyte-like cells via the vitamin D receptor.	J Pharmaceutic Biomed Analysis			2020 in press
Shigematsu T, Fukagawa M, Yokoyama K, Akiba T, Fujii A, Shinoda A, Akizawa T	Influence of dialysate Ca concentrations on the therapeutic effects of etelcalcetide with concomitant drugs in patients with secondary hyperparathyroidism.	Nephrology (Carlton)			2020 in press
Okuda Y	AA amyloidosis – Benefits and prospects of IL-6 Inhibitors.	Mod Rheumatol	29	268-274	2019
Nishi S, Yamamoto S, Hoshino J, Takaichi K, Naiki H	The features of bone articular lesions in dialysis-related amyloidosis (DRA) and criteria for the clinical diagnosis of DRA.	Renal Replacement Therapy	5(10)	1-8	2019
Iida S, Ishida T, Murakami H, Ozaki S, Abe M, Hata H, Shimazaki C	JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018: III. Myeloma-1. Multiple myeloma (MM).	Int J Hematol	109(5)	509-538	2019
Ueno S, Nozaki J, Kusano S, Kawano Y, Kikukawa Y, Okuno Y, Hata H, Matsuoka M, Uchiba M	Spontaneous remission of acquired factor XIII inhibitor concurrent to development of IgA-λ type multiple myeloma.	Jpn J Clin Hematol	60(10)	1443-1448	2019
Nishimura N, Radwan MO, Amano M, Endo S, Fujii E, Hayashi H, Ueno S, Ueno N,	Novel p97/VCP inhibitor induces endoplasmic reticulum stress and apoptosis in both bortezomib-sensitive and -resistant multiple myeloma cells.	Cancer Sci	110(10)	3275-3287	2019

Tatetsu H, Hata H, Okamoto Y, Otsuka M, Mitsuya H, Matsuoka M, Okuno Y					
Katsuya H, Islam S, Tan BJY, Ito J, Miyazato P, Matsuo M, Inada Y, Iwase SC, Uchiyama Y, Hata H, Sato T, Yagishita N, Araya N, Ueno T, Nosaka K, Tokunaga M, Yamagishi M, Watanabe T, Uchimaru K, Fujisawa JI, Utsunomiya A, Yamano Y, Satou Y	The Nature of the HTLV-1 Provirus in Naturally Infected Individuals Analyzed by the Viral DNA-Capture-Seq Approach.	Cell Rep	29(3)	724-735	2019
Koike H, Fukami Y, Nishi R, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G	Ultrastructural mechanisms of macrophage-induced demyelination in Guillain-Barré syndrome.	J Neurol Neurosurg Psychiatry			2020 in press
Koike H, Ikeda S, Fukami Y, Nishi R, Kawagashira Y, Iijima M, Nakamura T, Kuwahara M, Kusunoki S, Katsuno M, Sobue G	Complement deposition and macrophage-induced demyelination in CIDP with anti-LM1 antibodies.	J Neurol Sci	408	116509	2020
Koike H, Katsuno M	Expanding the spectrum of transthyretin amyloidosis.	Muscle Nerve	61(1)	3-4	2020
Koike H, Katsuno M, Sobue G	New teased-fibre definitions represent specific mechanisms of neuropathy.	J Neurol Neurosurg Psychiatry	90(2)	124	2019
Koike H, Fukami Y, Nishi R, Kawagashira Y, Iijima M, Sobue G, Katsuno M	Clinicopathological spectrum and recent advances in the treatment of hereditary transthyretin amyloidosis.	Neurol Clin Neurosci	7	166-173	2019
Koike H, Katsuno M	Ultrastructure in transthyretin amyloidosis: from pathophysiology to therapeutic insights.	Biomedicines	7(1)	E11	2019
Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G	Evolution of amyloid fibrils in hereditary transthyretin amyloidosis: an ultrastructural study.	Amyloid	26(sup1)	26	2019
Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G	Cardiac and peripheral vasomotor autonomic functions in hereditary transthyretin amyloidosis with non-Val30Met mutation.	Amyloid	26(sup1)	13-14	2019

Koike H, Nakamura T, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Yasuda T, Mukai E, Date Y, Shiomi K, Nakazato M, Katsuno M, Sobue G	Common clinicopathological features in late-onset hereditary transthyretin amyloidosis (Ala97Gly, Val94Gly, and Val30Met).	Amyloid	26(sup1)	24-25	2019
Nishi R, Koike H, Ohyama K, Fukami Y, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G	Differential clinicopathological features of EGPA-associated neuropathy with and without ANCA.	Neurology			2020 in press
Fukami Y, Koike H, Iijima M, Hagita J, Niwa H, Nishi R, Kawagashira Y, Katsuno M	Demyelinating neuropathy due to intravascular large B-cell lymphoma: a case report.	Intern Med	59(3)	435-438	2020
Adams D, Koike H, Slama M, Coelho T	Hereditary transthyretin amyloidosis: a model of medical progress for a fatal disease.	Nat Rev Neurol	15(7)	387-404	2019
Ikeda S, Koike H, Nishi R, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G	Clinicopathological characteristics of subtypes of chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy.	J Neurol Neurosurg Psychiatry	90(9)	988-996	2019
Nakamura T, Koike H, Nishi R, Ikeda S, Kawagashira Y, Iijima M, Katsuno M, Sobue G	Cardiovascular autonomic functions in late-onset hereditary transthyretin amyloidosis with Val30Met mutation.	Amyloid	26(sup1)	6	2019
Sone J, Mitsuhashi S, Fujita A, Mizuguchi T, Hamanaka K, Mori K, Koike H, Hashiguchi A, Takashima H, Sugiyama H, Kohno Y, Takiyama Y, Maeda K, Doi H, Koyano S, Takeuchi H, Kawamoto M, Kohara N, Ando T, Ieda T, Kita Y, Kokubun N, Tsuboi Y, Katoh K, Kino Y, Katsuno M, Iwasaki Y, Yoshida M, Tanaka F, Suzuki IK, Frith MC, Matsumoto N, Sobue G	Long-read sequencing identifies GGC repeat expansions in NOTCH2NLC associated with neuronal intranuclear inclusion disease.	Nat Genet	51(8)	1215-1221	2019
Mizuno Y, Shinoda K, Watanabe M, Ogata H, Isobe N, Matsushita T, Yamasaki R, Tanaka K, Koike H, Katsuno M, Kira JI	Intractable axonal neuropathy with multifocal peripheral nerve swelling in neuromyelitis optica spectrum disorders: a case report.	Mult Scler Relat Disord	35	16-18	2019

Kondo N, Tohnai G, Sahashi K, Iida M, Kataoka M, Nakatsuji H, Tsutsumi Y, Hashizume A, Adachi H, Koike H, Shinjo K, Kondo Y, Sobue G, Katsuno M	DNA methylation inhibitor attenuates polyglutamine-induced neurodegeneration by regulating Hes5.	EMBO Mol Med	11(5)	e8547	2019
Ando T, Iijima M, Fukami Y, Nishi R, Ikeda S, Yokoi S, Kawagashira Y, Koike H, Muro Y, Katsuno M	Vasculitic neuropathy with anti-phosphatidylserine/prothrombin complex antibody.	Muscle Nerve	59(6)	E44-E46	2019
Sato T, Terasawa Y, Higa H, Matsuno H, Arai A, Omoto S, Mitsumura H, Toyoda C, Koike H, Iguchi Y	Nerve ultrasound, electrophysiological, and clinical changes in treatment-naive chronic inflammatory demyelinating polyneuropathy: a case report.	J Clin Neurophysiol	36(1)	82-84	2019
加納裕也, 加藤秀紀, 小池春樹, 勝野雅央, 小栗卓也, 湯浅浩之	神経生検で血管炎の所見を認めた, 強皮症に伴う多発性単ニューロパチーの一例.	臨床神経学	59(9)	604-606	2019
小池春樹	限局性血管炎と末梢神経障害.	脳神経内科	91(3)	295-300	2019
小池春樹	代謝性・栄養性・薬剤性ニューロパチー.	日本内科学会雑誌	108(8)	1530-1537	2019
小池春樹	体幹部のニューロパチー.	脊椎脊髄ジャーナル	32(1)	27-32	2019
小池春樹	栄養欠乏による神経障害	CLINICAL NEUROSCIENCE	37(11)	1373-1375	2019
小池春樹, 祖父江元	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー.	日本医師会雑誌	148(特別号 1)	S86-S88	2019
小池春樹	ビタミン B1 欠乏	CLINICAL NEUROSCIENCE	38(2)	251-253	2020
Iida S, Shimazaki C, Abe M, Nakaseko C	JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018: III. Myeloma-2. Related disorders of multiple myeloma.	Int J Hematol	109(6)	633-640	2019
Iida S, Ishida T, Murakami H, Ozaki S, Abe M, Hata H, Shimazaki C	JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018: III. Myeloma-1. Multiple myeloma (MM).	Int J Hematol	109(5)	509-538	2019

Kamiya Y, Chou T, Murakami H, Handa H, Ozaki S, Shimazaki C, Fuchida SI, Okada J, Itoh J, Sugiyama S, Shimizu K	Patients assigned to VGPR, PR, and SD in the IMWG response category are composed of heterogeneous population when assessed by the heavy/light chain assay.	Hematol Oncol	37(3)	316-318	2019
Shintani Y, Okada A, Morita Y, Hamatani Y, Amano M, Takahama H, Amaki M, Hasegawa T, Ohta-Ogo K, Kanzaki H, Ishibashi-Ueda H, Yasuda S, Shimazaki C, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Izumi C	Monitoring treatment response to tafamidis by serial native T1 and extracellular volume in transthyretin amyloid cardiomyopathy.	ESC Heart Fail	6(1)	232-236	2019
島崎千尋	本邦におけるALアミロイドーシス-全国疫学調査からみた診断と治療の現状-	臨床血液	60(8)	973-978	2019
Iida S, Ishida T, Murakami H, Ozaki S, Abe M, Hata H, Shimazaki C	JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018: III. Myeloma-1. Multiple myeloma (MM).	Int J Hematol	109(5)	509-538	2019
Iida S, Shimazaki C, Abe M, Nakaseko C	JSH practical guidelines for hematological malignancies, 2018: III. Myeloma-2. Related disorders of multiple myeloma.	Int J Hematol	109(6)	633-640	2019
Murase T, Ri M, Narita T, Fujii K, Masaki A, Iida S, Inagaki H	Immunohistochemistry using bone marrow paraffin sections is a reliable screening tool for identification of <i>CCND1</i> , <i>NSD2</i> , and <i>MAF</i> rearrangements in multiple myeloma.	Cancer Sci	110(8)	2600-2606	2019
Maekawa K, Ri M, Nakajima M, Sekine A, Ueda R, Tohkin M, Miyata N, Saito Y, Iida S	Serum lipidomics for exploring biomarker of bortezomib therapy in patients with multiple myeloma.	Cancer Sci	110(10)	3267-3274	2019
Naiki H, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hoshii Y, Shimoda M, Ando Y	Human amyloidosis, still intractable but becoming curable: the essential role of pathological diagnosis in the selection of type-specific therapeutics.	Pathol Int			2020 in press
González-Duarte A, Berk J, Quan D, Mauermann M, Schmidt H, Polydefkis M, Waddington-Cruz M, Ueda M, Conceição I, Kristen A, Coelho T, Cauquil C, Tard C, Merkel M, Aldinc E, Chen J, Sweetser M, Wang J, Adams D	Analysis of autonomic outcomes in APOLLO, a phase III trial of the RNAi therapeutic patisiran in patients with hereditary transthyretin-mediated amyloidosis.	J Neurol	267(3)	703-712	2020

Ochi Y, Kubo T, Nakashima Y, Baba Y, Hirota T, Yamasaki N, Yamashita T, Ueda M, Ando Y, Kitaoka H	Integrated diagnostic approach to wild-type transthyretin cardiac amyloidosis with the use of high-sensitivity cardiac troponin T measurement and ^{99m} Tc-pyrophosphate scintigraphy.	J Cardiol	75(1)	12-19	2020
Inoue Y, Ueda M, Masuda M, Misumi Y, Yamashita T, Ando Y	Memantine, a noncompetitive N-methyl-D-aspartate receptor antagonist, attenuates cerebral amyloid angiopathy by increasing insulin-degrading enzyme expression.	Mol Neurobiol	56(12)	8573-8588	2019
Sakai K, Ueda M, Fukushima W, Tamaoka A, Shoji M, Ando Y, Yamada M	Nationwide survey on cerebral amyloid angiopathy in Japan.	Eur J Neurol	26(12)	1487-1493	2019
Endo J, Sano M, Izumiya Y, Tsujita K, Nakamura K, Tahara N, Kuwahara K, Inomata T, Ueda M, Sekijima Y, Ando Y, Tsutsui H, Isobe M, Fukuda K	A statement for the appropriate administration of tafamidis in patients with transthyretin cardiac amyloidosis.	Circ J	84(1)	15-17	2019
Misumi Y, Ueda M, Masuda T, Tsuda Y, Nomura T, Okada M, Inoue Y, Tasaki M, Obayashi K, Yamashita T, Ando Y	Characteristics of acquired transthyretin amyloidosis A case series and review of the literature.	Neurology	93(17)	e1587-e1596	2019
Yamashita T, Ueda M, Nomura T, Okazaki T, Okada M, Tsuda Y, Inoue Y, Masada T, Misumi Y, Takamatsu K, Obayashi K, Inomata Y, Hibi T, Ando Y	Natural history and long-term effects of variant protein reduction in non-V30M ATTR amyloidosis.	Neurology	93(16)	714-716	2019
Nakase T, Yamashita T, Matsuo Y, Nomura T, Sasada K, Masuda T, Misumi Y, Takamatsu K, Oda S, Furukawa Y, Obayashi K, Matsui H, Ando Y, Ueda M	Hereditary ATTR Amyloidosis with Cardiomyopathy Caused by the Novel Variant Transthyretin Y114S (p.Y114S).	Intern Med	58(18)	2695-2698	2019
Tasaki M, Milani P, Foli A, Verga L, Obici L, Basset M, Bozzola M, Ferraro G, Nuvolone M, Morbini P, Capello G, Ueda M, Obayashi K, Paulli M, Ando Y, Merlini G, Palladini G, Lavatelli F	Simple, reliable detection of amyloid in fat aspirates using the fluorescent dye FSB: a prospective study in 206 patients.	Blood	134(3)	320-323	2019

Ueda M, Okada M, Mizuguchi M, Kluge-Beckerman B, Kanenawa K, Isoguchi A, Misumi Y, Tasaki M, Ueda A, Kanai A, Sasaki R, Masuda T, Inoue Y, Nomura T, Shinriki S, Shuto T	A cell-based high-throughput screening method to directly examine transthyretin amyloid fibril formation at neutral pH.	J Biol Chem	294(29)	11259-11275	2019
Ueda M, Yamashita T, Misumi Y, Masuda T, Ando Y	Reader response: Natural history and survival in stage 1 Val30Met transthyretin familial amyloid polyneuropathy.	Neurology	93(5)	228-229	2019
Yamashita T, Ueda M, Misawa S, Inoue Y, Masuda T, Misumi Y, Takamatsu K, Obayashi K, Kuwabara S, Ando Y	Changes in nerve excitability indices in hereditary transthyretin amyloidosis.	Amyloid	26(sup1)	9-10	2019
Yamashita T, Ohnishi K, Ueda M, Masuda T, Inoue Y, Misumi Y, Ueda A, Obayashi K, Takeya M, Ando Y	Transthyretin amyloid-related cerebral angiitis after liver transplantation.	Amyloid	26(sup1)	11-12	2019
Obayashi K, Masuda T, Tasaki M, Ando Y, Ueda M	Serum diacron-reactive oxygen metabolites (d-ROMs) and biological antioxidant potential (BAP) in patients with ATTR-PN.	Amyloid	26(sup1)	65	2019
Obayashi K, Masuda T, Tasaki M, Ando Y, Ueda M	Evaluation of myoelectrical activities of descending colon by electrointestinogram in patients with ATTRm amyloidosis.	Amyloid	26(sup1)	66	2019
Isoguchi A, Ueda M, Kanenawa K, Masuda T, Misumi Y, Yamashita T, Obayashi K, Ando Y	A novel transgenic mouse model expressing mutant TTR gene causing oculoleptomeningeal type of ATTRm amyloidosis.	Amyloid	26(sup1)	69	2019
Masuda T, Ueda M, Misumi Y, Nomura T, Inoue Y, Isoguchi A, Kanenawa K, Tasaki M, Yamashita T, Sonoda Y, Obayashi K, Ando Y	Reduced intraepidermal nerve fibre density in patients with hereditary transthyretin amyloidosis.	Amyloid	26(sup1)	79-80	2019
Oda S, Nakaura T, Utsunomiya D, Hirakawa K, Takashio S, Izumiya Y, Tsujita K, Kawano Y, Okuno Y, Hata H, Matsuoka M, Yamashita T, Ueda M, Ando Y, Yamashita Y	Clinical potential of dual-energy cardiac CT in cardiac amyloidosis.	Amyloid	26(sup1)	91-92	2019
Okuda Y, Yamada T, Ueda M, Ando Y	Nationwide survey of 199 patients with reactive amyloid A amyloidosis in Japan.	Amyloid	26(sup1)	129	2019

Yamaguchi I, Kokubo Y, Yamashita T, Ueda M, Okoshi T, Matsumine A, Ando Y, Naiki H	Class I small leucine-rich proteoglycans (SLRPs) colocalise with the A β 2M amyloid deposits: implications for the roles of SLRP core proteins in the pathogenesis of dialysis-related amyloidosis.	Amyloid	26(sup1)	140-141	2019
Kanenawa K, Ueda M, Isoguchi A, Nomura T, Tsuda Y, Masuda T, Misumi Y, Yamashita T, Ando Y	Histopathological and biochemical analyses of prostate corpora amylacea.	Amyloid	26(sup1)	160-161	2019
Marume K, Takashio S, Nishi M, Hirakawa K, Yamamoto M, Hanatani S, Oda S, Utsunomiya D, Shiraishi S, Ueda M, Yamashita T, Sakamoto K, Yamamoto E, Kaikita K, Izumiya Y, Yamashita Y, Ando Y, Tsujita K	Combination of commonly examined parameters is a useful predictor of positive 99mTc-labeled pyrophosphate scintigraphy findings in elderly patients with suspected transthyretin cardiac amyloidosis.	Circ J	83(8)	1698-1708	2019
Nomura T, Ueda M, Tasaki M, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Tsuda Y, Okada M, Okazaki T, Kanenawa K, Isoguchi A, Nakamura M, Obayashi K, Shinriki S, Matsui H, Yamashita T, Ando Y	New simple and quick method to analyze serum variant transthyretins: direct MALDI method for the screening of hereditary transthyretin amyloidosis.	Orphanet J Rare Dis	14(1)	116	2109
Tasaki M,* Ueda M,* Hoshii Y, Mizukami M, Matsumoto S, Nakamura M, Yamashita T, Ueda A, Misumi Y, Masuda T, Inoue Y, Torikai T, Nomura T, Tsuda Y, Kanenawa K, Isoguchi A, Okada M, Matsui H, Obayashi K, Ando Y (*contributed equally).	A novel age-related venous amyloidosis derived from EGF-containing fibulin-like extracellular matrix protein 1.	J Pathol	247(4)	444-455	2019
Inoue M, Ueda M, Higashi T, Anno T, Fujisawa K, Motoyama K, Mizuguchi M, Ando Y, Jono H, Arima H	Therapeutic potential of Polyamidoamine Dendrimer for amyloidogenic transthyretin amyloidosis.	ACS Chem Neurosci	10(5)	2584-2590	2019
植田光晴, 三隅洋平, 増田曜章, 緒方正輝, 城野博史, 齋藤秀之, 山下太郎, 安東由喜雄	パチシラン	日本病院薬剤師会雑誌	56(4)	421-425	2020

植田光晴	家族性アミロイドポリニューロパチー．特集：神経疾患の現在とこれから．	内科	123(6)	1263-1266	2019
植田光晴	野生型トランスサイレチン（TTR）が原因となる老人性全身性アミロイドーシス（SSA）の心病変．	Heart View	23(8)	763-768	2019
Yamanouchi M, Furuichi K, Hoshino J, Toyama T, Hara A, Shimizu M, Kinowaki K, Fujii T, Ohashi K, Yuzawa Y, Kitamura H, Suzuki Y, Sato H, Uesugi N, Hisano S, Ueda Y, Nishi S, Yokoyama H, Nishino T, Samejima K, Kohagura K, Shibagaki Y, Mise K, Makino H, Matsuo S, Ubara Y, Wada T	Nonproteinuric Versus Proteinuric Phenotypes in Diabetic Kidney Disease: A Propensity Score-Matched Analysis of a Nationwide, Biopsy-Based Cohort Study.	Diabetes Care	42(5)	891-902	2019
Yabuuchi J, Hoshino J, Mizuno H, Ozawa Y, Sekine A, Kawada M, Sumida K, Hiramatsu R, Hayami N, Yamanouchi M, Hasegawa E, Suwabe T, Sawa N, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Ubara Y	Immunoglobulin G subclass 3 in ISN/RPL lupus nephritis classification.	Clin Nephrol	91	32-39	2019
Takada D, Hoshino J, Fujii T, Usui J, Fujii T, Ohashi K, Takaichi K, Suzuki S, Yamagata K, Ubara Y	Association between renal outcome and the number of steroid pulse therapies after tonsillectomy in patients with IgA nephropathy.	Clin Exp Nephrol	23	335-341	2019
Toriu N, Sawa N, Hiramatsu R, Mizuno H, Ikuma D, Sekine A, Hayami N, Sumida K, Yamanouchi M, Hasegawa E, Hoshino J, Takaichi K, Wake A, Ohashi K, Fujii T, Ubara Y	Regression of renal amyloid deposits by VAD therapy plus autologous stem cell transplantation in a patient with primary AL amyloidosis.	CEN Case Rep		31522370	2020
Kuroda T, Honma M, Mori Y, Futamura A, Sugimoto A, Yano S, Kinno R, Murakami H, Ono K	Increased Presence of Cerebral Microbleeds Correlates with Ventricular Enlargement and Increased White Matter Hyperintensities in Alzheimer's Disease.	Front Aging Neurosci	12		2020 In press
Ono K, Tsuji M	Protofibrils of Amyloid- β are Important Targets of a Disease-Modifying Approach for Alzheimer's Disease.	Int J Mol Sci	21(3)		2020 In press

Ono K, Zhao D, Wu Q, Simon J, Wang J, Radu A, Pasinetti GM	Pine Bark Polyphenolic Extract Attenuates Amyloid- β and Tau Misfolding in a Model System of Alzheimer's Disease Neuropathology.	J Alzheimers Dis	73(4)	1597-1606	2020
Abe K, Shang J, Shi X, Yamashita T, Hishikawa N, Takemoto M, Morihara R, Nakano Y, Ohta Y, Deguchi K, Ikeda M, Ikeda Y, Okamoto K, Shoji M, Takatama M, Kojo M, Kuroda T, Ono K, Kimura N, Matsubara E, Osakada Y, Wakutani Y, Takao Y, Higashi Y, Asada K, Senga T, Lee LJ, Tanaka K	A New Serum Biomarker Set to Detect Mild Cognitive Impairment and Alzheimer's Disease by Peptidome Technology. A New Serum Biomarker Set to Detect Mild Cognitive Impairment and Alzheimer's Disease by Peptidome Technology.	J Alzheimers Dis	73(1)	217-227	2020
Hase T, Shishido S, Yamamoto S, Yamashita R, Nukima H, Taira S, Toyoda T, Abe K, Hamaguchi T, Ono K, Noguchi-Shinohara M, Yamada M, Kobayashi S	Rosmarinic acid suppresses Alzheimer's disease development by reducing amyloid β aggregation by increasing monoamine secretion.	Sci Rep	9(1)	8711	2019
Ono K, Tsuji M	Pharmacological Potential of Cilostazol for Alzheimer's Disease.	Front Pharmacol	10	559	2019
Yasumoto T, Takamura Y, Tsuji M, Watanabe-Nakayama T, Imamura K, Inoue H, Nakamura S, Inoue T, Kimura A, Yano S, Nishijo H, Kiuchi Y, Teplow DB, Ono K	High molecular weight amyloid β_{1-42} oligomers induce neurotoxicity via plasma membrane damage.	FASEB J	33(8)	9220-9234	2019
Nomoto S, Kinno R, Ochiai H, Kubota S, Mori Y, Futamura A, Sugimoto A, Kuroda T, Yano S, Murakami H, Shirasawa T, Yoshimoto T, Minoura A, Kokaze A, Ono K	The relationship between thyroid function and cerebral blood flow in mild cognitive impairment and Alzheimer's disease.	PLoS One	14(4)	e0214676	2019
黒田岳志, 小野賢二郎	アルツハイマー病における brain lymphatic drainage system の障害.	認知症の最新医療	9(4)	212-213	2019

杉本あずさ, 小野賢二郎	A 凝集制御薬.	認知症の最新医療	9(3)	138-142	2019
杉本あずさ, 小野賢二郎	抗アミロイド 系薬剤.	老年精神医学雑誌	30(6)	653-662	2019
Naiki H, Sekijima Y, Ueda M, Ohashi K, Hoshii Y, Shimoda M, Ando Y	Human amyloidosis, still intractable but becoming curable: the essential role of pathological diagnosis in the selection of type-specific therapeutics.	Pathol Int			2020 in press
Ichimata S, Hata Y, Abe R, Yoshinaga T, Katoh N, Kametani F, Yazaki M, Sekijima Y, Ehara T, Nishida N	An autopsy case of amyloid tubulopathy exhibiting characteristic spheroid-type deposition.	Virchows Arch			2020 in press
Buxbaum JN, Brannagan T 3rd, Buades-Reinés J, Cisneros E, Conceicao I, Kyriakides T, Merlini G, Obici L, Plante-Bordeneuve V, Rousseau A, Sekijima Y, Imai A, Waddington Cruz M, Yamada M	Transthyretin deposition in the eye in the era of effective therapy for hereditary ATTRV30M amyloidosis.	Amyloid	26	10-14	2019
Endo J, Sano M, Izumiya Y, Tsujita K, Nakamura K, Tahara N, Kuwahara K, Inomata T, Ueda M, Sekijima Y, Ando Y, Tsutsui H, Isobe M, Fukuda K	A statement on the appropriate administration of tafamidis in patients with transthyretin cardiac amyloidosis.	Circ J	84 (1)	15-17	2019
Ishii T, Sekijima Y, Ando Y	Patient profile with ATTR-FAP and evaluation of the safety and efficacy of tafamidis meglumine in Japan - interim analysis in post-marketing surveillance.	Amyloid	26(sup1)	45-46	2019
Kodaira M, Ohashi N, Morita H, Sekijima Y	Length-dependent truncal A δ -fiber dysfunction in hereditary transthyretin amyloidosis: An intra-epidermal electrical stimulation study.	Clin Neurophysiol	130(6)	903-910	2019
Kozuka A, Koyama J, Sekijima Y, Ikeda U	Quantitative analysis of endocardial and epicardial left ventricular myocardial deformation in patients with cardiac amyloidosis.	Shinshu Med J	67	49-60	2019
Koyama J, Minamisawa M, Sekijima Y, Kuwahara K, Katsuyama T, Maruyama K	Role of echocardiography in assessing cardiac amyloidoses: a systematic review.	J Echocardiogr	17(2)	64-75	2019
Miyake Z, Nakamagoe K, Ezawa N, Yoshinaga T, Hashimoto R, Sato T, Sekijima Y, Tamaoka A	Late-onset transthyretin (TTR)-familial amyloid polyneuropathy (FAP) with a long disease duration from non-endemic areas in Japan.	Intern Med	58(5)	713-718	2019

Ohashi N, Kodaira M, Morita H, Sekijima Y	Electrophysiological demyelinating features in hereditary ATTR amyloidosis.	Amyloid	26(1)	15-23	2019
Sekijima Y, Mundayat R, Ishii T, Ando Y	The current status of the Transthyretin Amyloidosis Outcomes Survey (THAOS) in Japan.	Amyloid	26(sup1)	61-62	2019
Shintani Y, Okada A, Morita Y, Hamatani Y, Amano M, Takahama H, Amaki M, Hasegawa T, Ohta-Ogo K, Kanzaki H, Ishibashi-Ueda H, Yasuda S, Shimazaki C, Yoshinaga T, Yazaki M, Sekijima Y, Izumi C	Monitoring treatment response to tafamidis by serial native T1 and extracellular volume in transthyretin amyloid cardiomyopathy.	ESC Heart Fail	6(1)	232-236	2019
Yamada Y, Fukushima T, Kodama S, Shimizu H, Kakita A, Makino K, Sekijima Y	A case of cerebral amyloid angiopathy-type hereditary ATTR amyloidosis with Y69H (p.Y89H) variant displaying transient focal neurological episodes as the main symptom.	Amyloid	26(4)	251-252	2019
関島良樹	遺伝性 ATTR アミロイドーシス (家族性アミロイドポリニューロパチー)	Clinical Neuroscience	38(3)	336-338	2020
関島良樹	老化とアミロイドーシス	信州医学雑誌	67	79-80	2019
関島良樹	アミロイドーシスと感染症	Neuroinfection	24	24-28	2019
Yamamoto T, Endo J, Kataoka M, Matsuhashi T, Katsumata Y, Shirakawa K, Isobe S, Moriyama H, Goto S, Shimanaka Y, Kono N, Arai H, Shinmura K, Fukuda K, Sano M.	Palmitate induces cardiomyocyte death via inositol requiring enzyme-1 (IRE1)-mediated signaling independent of X-box binding protein 1 (XBP1).	Biochem Biophys Res Commun	526(1)	122-127	2020
Yamashita K, Ito K, Endo J, Matsuhashi T, Katsumata Y, Yamamoto T, Shirakawa K, Isobe S, Kataoka M, Yoshida N, Goto S, Moriyama H, Kitakata H, Mitani F, Fukuda K, Goda N, Ichihara A, Sano M	Adrenal cortex hypoxia modulates aldosterone production in heart failure.	Biochem Biophys Res Commun	524(1)	184-189	2020

Endo J, Sano M, Izumiya Y, Tsujita K, Nakamura K, Tahara N, Kuwahara K, Inomata T, Ueda M, Sekijima Y, Ando Y, Tsutsui H, Isobe M, Fukuda K	A Statement on the Appropriate Administration of Tafamidis in Patients With Transthyretin Cardiac Amyloidosis.	Circ J	84(1)	15-17	2019
Hiraide T, Kataoka M, Suzuki H, Aimi Y, Chiba T, Isobe S, Katsumata Y, Goto S, Kanekura K, Yamada Y, Moriyama H, Kitakata H, Endo J, Yuasa S, Arai Y, Hirose N, Satoh T, Hakamata Y, Sano M, Gamou S, Kosaki K, Fukuda K	Poor outcomes in carriers of the RNF213 variant (p.Arg4810Lys) with pulmonary arterial hypertension.	J Heart Lung Transplant	39(2)	103-112	2019
Yoshida N, Endo J, Kinouchi K, Kitakata H, Moriyama H, Kataoka M, Yamamoto T, Shirakawa K, Morimoto S, Nishiyama A, Hashiguchi A, Higuchi I, Fukuda K, Ichihara A, Sano M	(Pro)renin receptor accelerates development of sarcopenia via activation of Wnt/YAP signaling axis.	Aging Cell	18(5)	e12991	2019
Yamamoto T, Endo J, Kataoka M, Matsuhashi T, Katsumata Y, Shirakawa K, Yoshida N, Isobe S, Moriyama H, Goto S, Yamashita K, Ohto-Nakanishi T, Nakanishi H, Shimanaka Y, Kono N, Shinmura K, Arai H, Fukuda K, Sano M	Sirt1 counteracts decrease in membrane phospholipid unsaturation and diastolic dysfunction during saturated fatty acid overload.	J Mol Cell Cardiol	133	1-11	2019
Matsuhashi T, Endo J, Katsumata Y, Yamamoto T, Shimizu N, Yoshikawa N, Kataoka M, Isobe S, Moriyama H, Goto S, Fukuda K, Tanaka H, Sano M	Pressure overload inhibits glucocorticoid receptor transcriptional activity in cardiomyocytes and promotes pathological cardiac hypertrophy.	J Mol Cell Cardiol	130	122-130	2019
Sano M, Goto S	Possible Mechanism of Hematocrit Elevation by Sodium Glucose Cotransporter 2 Inhibitors and Associated Beneficial Renal and Cardiovascular Effects.	Circulation	139(17)	1985-1987	2019

Isobe S, Kataoka M, Endo J, Moriyama H, Okazaki S, Tsuchihashi K, Katsumata Y, Yamamoto T, Shirakawa K, Yoshida N, Shimoda M, Chiba T, Masuko T, Hakamata Y, Kobayashi E, Saya H, Fukuda K, Sano M	Endothelial-Mesenchymal Transition Drives Expression of CD44 Variant and α CT in Pulmonary Hypertension.	Am J Respir Cell Mol Biol	61(3)	367-379	2019
Goto S, Kimura M, Katsumata Y, Goto S, Kamatani T, Ichihara G, Ko S, Sasaki J, Fukuda K, Sano M	Artificial intelligence to predict needs for urgent revascularization from 12-lead electrocardiography in emergency patients.	PLoS One	14(1)	e0210103	2019
Tahara A, Tahara N, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Honda A, Abe T, Yamagishi S-I, Fukumoto Y	Brown adipose tissue activation in severe heart failure.	Eur Heart J			2020 in press
Yanagisawa K, Sotokawauchi A, Nishino Y, Matsui T, Tahara N, Yamagishi SI	Albuminuria-lowering effect of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors could be partly attributable to the attenuation of tubular damage in type 2 diabetic patients.	Diabetes Metab Res Rev			2020 in press
Tahara N, Dobashi H, Fukuda K, Funauchi M, Hatano M, Ikeda S, Joho S, Kihara Y, Kondo T, Matsushita M, Minamino T, Nakanishi N, Okano Y, Ozaki Y, Saji T, Sakai S, Tanabe N, Watanabe H, Yamada H, Yoshioka K, Hatta M, Sasayama S	Long-term treatment of pulmonary arterial hypertension with macitentan in Japanese patients.	Curr Med Res Opin			2020 in press
Bekki M, Tahara N, Tahara A, Maeda-Ogata S, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Harada A, Hirakawa Y, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Ueno T	Switching from clopidogrel to prasugrel resolves vascular inflammation in patients receiving long-term aspirin plus clopidogrel therapy after coronary stent implantation.	J Nucl Cardiol			2020 in press
Sugiyama Y, Tahara N, Bekki M, Tahara A, Honda A, Ogata-Maeda S, Sun J, Igata S, Fukumoto Y	Long-term survival outcome for pre-capillary pulmonary hypertension at a Japanese single center.	Can J Physiol Pharmacol			2020 in press
Endo J, Sano M, Izumiya Y, Tsujita K, Nakamura K, Tahara N, Kuwahara K, Inomata T, Ueda M, Sekijima Y, Ando Y, Tsutsui H, Isobe M, Fukuda K	A Statement on the Appropriate Administration of Tafamidis in Patients With Transthyretin Cardiac Amyloidosis.	Circ J	84(1)	15-17	2019

Tahara N, Nitta Y, Bekki M, Tahara A, Maeda-Ogata S, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Matsui T, Yamagishi SI, Fukumoto Y	Two-hour postload plasma glucose and pigment epithelium-derived factor levels are markers of coronary artery inflammation in type 2 diabetic patients.	J Nucl Cardiol				2019 in press
Tahara A, Tahara N, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Sun J, Honda A, Igata S, Fukumoto Y	Clinical hallmarks making diagnosis of infective endocarditis.	J Nucl Cardiol				2019 in press
Ito S, Tahara N, Hirakata S, Kaieda S, Tahara A, Maeda-Ogata S, Bekki M, Sugiyama Y, Honda A, Igata S, Kuromatsu R, Nakashima O, Fukumoto Y	Signal intensity of superb micro-vascular imaging associates with the activity of vascular inflammation in Takayasu arteritis.	J Nucl Cardiol				2019 in press
Tahara N, Kojima R, Yoshida R, Bekki M, Sugiyama Y, Tahara A, Maeda S, Honda A, Igata S, Nakamura T, Sun J, Matsui T, Fukumoto Y, Matsui T, Yamagishi SI	Serum Levels of Protein-Bound Methylglyoxal-Derived Hydroimidazolone-1 are Independently Correlated with Asymmetric Dimethylarginine.	Rejuvenation Res	22(5)	431-438		2019
Saku K, Tahara N, Takaseya T, Shintani Y, Takagi K, Shojima T, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H	Multimodal imaging of cardiac-calcified amorphous tumor.	J Nucl Cardiol	27(2)	682-685		2020
Tahara N, Bekki M, Sugiyama Y, Tahara A, Fukumoto Y	Importance of extracardiac FDG uptake to diagnose cardiac sarcoidosis.	J Nucl Cardiol	27(1)	118-122		2020
Maeda S, Tahara N, Takase F, Bekki M, Tahara A, Honda A, Igata S, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y	Diagnostic performance of FDG-PET/CTA in native mitral valve endocarditis.	J Nucl Cardiol	26(2)	681-683		2019
Bekki M, Tahara N, Tahara A, Igata S, Honda A, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kumashiro Y, Matsui T, Fukumoto Y, Yamagishi SI	Switching Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitors to Tofogliflozin, a Selective Inhibitor of Sodium-Glucose Cotransporter 2 Improve Arterial Stiffness Evaluated by Cardio-Ankle Vascular Index in Patients with Type 2 Diabetes: A Pilot Study.	Curr Vasc Pharmacol	17(4)	411-420		2019

Bekki M, Tahara N, Tahara A, Honda A, Igata S, Sugiyama Y, Nakamura T, Sun J, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Tanaka H, Suda K, Fukumoto Y	Anti-inflammatory effect of statin in coronary aneurysms late after Kawasaki disease.	J Nucl Cardiol	26(2)	671-673	2019
Saku K, Shintani Y, Tahara N, Kikusaki S, Imai S, Shojima T, Takagi K, Kurata S, Fujimoto K, Abe T, Fukumoto Y, Tanaka H	Inflammatory reaction of a pericardial foreign body after cardiac surgery.	J Nucl Cardiol	26(1)	328-329	2019
本多亮博, 田原宣広, 田原敦子, 戸次宗久, 緒方詔子, 杉山陽一, 井形幸代, 福本義弘	動脈硬化関連検査.	臨牀と研究	96(8)	951-957	2019
枚山陽一, 田原宣広, 福本義弘	左心疾患に伴う肺高血圧症の分類と治療の動向.	呼吸器ジャーナル	67(4)	650-659	2019
田原宣広, 田原敦子, 戸次宗久, 前田(緒方)詔子, 枚山陽一, 孫佳慧, 本多亮博, 井形幸代, 福本義弘	PETによる動脈硬化の炎症活動性評価 - 今後の臨床的意義.	循環器内科	86(3)	322-331	2019
田原宣広, 甲斐久史, 福本義弘	RI検査 (PET).	日本医師会雑誌	148(2)	173-175	2019
田原宣広, 田原敦子, 戸次宗久, 枚山陽一, 緒方詔子, 本多亮博, 山岸昌一, 福本義弘	AGEsと心血管病.	WHITE	7(2)	16-21	2019
田原宣広, 前田(緒方)詔子, 戸次宗久, 枚山陽一, 本多亮博, 井形幸代, 田原敦子, 福本義弘	アミロイドーシスとサルコイドーシスにおける核医学の使い方.	RadFan	17(9)	45-48	2019

令和2年3月16日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 上田 孝典

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 学術研究院医学系部門 教授
(氏名・フリガナ) 内木 宏延 (ナイキ ヒロノブ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	福井大学、京都大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 3月 25日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 長崎国際大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 中島 憲一郎

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相
ては以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 長崎国際大学薬学部アミロイドーシス病態解析学分野 副学長・教授
(氏名・フリガナ) 安東由喜雄 アンドウユキオ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> ()
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> ()
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> ()
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> ()

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 4月 1日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人金沢大学

所属研究機関長 職名 学長

氏名 山崎 光悦

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医薬保健研究域医学系・教授
(氏名・フリガナ) 山田 正仁・ヤマダ マサヒト

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	金沢大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人
 所属研究機関長 職名 国立大学法人
 氏名 永田 恭伊

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反については以下のとおりです。

- 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
- 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 筑波大学医学医療系・教授
 (氏名・フリガナ) 玉岡 晃・タマオカ アキラ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
 ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 3 月 12 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 虎の門病院
所属研究機関長 職名 院長
氏名 大内 尉義

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相
ては以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 虎の門病院 ・ 副院長
(氏名・フリガナ) 高市 憲明 ・ タカイチ ケンメイ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	虎の門病院	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容：)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年3月7日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 自治医科大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 永井良

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相
ては以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部 ・ 教授
(氏名・フリガナ) 山田 俊幸 (ヤマダ トシユキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年3月19日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 和歌山県立医科大学
所属研究機関長 職名 学長
氏名 宮下 和久

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部 腎臓内科学講座 教授
(氏名・フリガナ) 重松 隆 (シゲマツ タカシ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 3月 12日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 道後温泉病院

所属研究機関長 職名 院長

氏名 奥田 恭章

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 内科 院長

(氏名・フリガナ) 奥田 恭章 (オクダ ヤスアキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合は理由: 検討、作成中)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (無の場合委託先機関: 福井大学)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 2年 4月 22日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 武田 慶

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科 教授

(氏名・フリガナ) 西 慎一 (ニシ シンイチ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	神戸大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 3月 30日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法

所属研究機関長 職名 学長

氏名 原田 信

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院生命科学研究部・教授
(氏名・フリガナ) 畑 裕之・ハタ ヒロユキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	熊本大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 3月 23日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 **名古屋大学**
所属研究機関長 職名 **大学院医学系研**
氏名 **門松 健**

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学系研究科・准教授
(氏名・フリガナ) 小池 春樹・コイケ ハルキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年3月30日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 独立行政法人
京都大学
所属研究機関長 職名 院長
氏名 島崎 千尋

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 血液内科・院長
(氏名・フリガナ) 島崎 千尋・シマザキ チヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	京都大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 2 年 3 月 17 日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 公立大学法人

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 郡 健二郎

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科・教授
(氏名・フリガナ) 飯田 真介・イダ シンスケ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	名古屋市立大学	<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	医学部倫理審査委員会	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 3月 27日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人

所属研究機関長 職名 学長

氏名 原田 信司

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 病院 ・ 講師
(氏名・フリガナ) 植田 光晴 ・ ウエダ ミツハル

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	熊本大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年 3月 3日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 横浜市立大
所属研究機関長 職名 学長
氏名 窪田吉作

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 大学院医学研究科 横浜市立大学医学部病態病理学・教授
(氏名・フリガナ) 大橋健一・オオハシケンイチ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 昭和大

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 久光 亅

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び
については以下のとおりです。 つい

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部 内科学講座脳神経内科学部門・教授
(氏名・フリガナ) 小野 賢二郎・オノ ケンジロウ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和2年3月18日

国立保健医療科学院長 殿

機関名 国立大学法人

所属研究機関長 職名 学長

氏名 濱田 州

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業

2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究

3. 研究者名 (所属部局・職名) 信州大学医学部・教授

(氏名・フリガナ) 関島 良樹 (セキジマ ヨシキ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	信州大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 慶應義塾大学
 所属研究機関長 職名 学長
 氏名 長谷山 彰

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)
- 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
- 研究者名 (所属部局・職名) 医学部・准教授
 (氏名・フリガナ) 佐野 元昭・サノ モトアキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

- (留意事項)
- ・該当する□にチェックを入れること。
 - ・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

国立保健医療科学院長 殿

機関名 久留米大学

所属研究機関長 職 名 学長

氏 名 内村 直尚

次の職員の令和元年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 難治性疾患政策研究事業
2. 研究課題名 アミロイドーシスに関する調査研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 医学部内科学講座 心臓・血管内科部門 循環器病センター・准教授
(氏名・フリガナ) 田原 宣広 ・ タハラ ノブヒロ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	久留米大学	<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項)

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

(留意事項) ・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。